



Dominion KX III

ユーザ ガイド
リリース 3.0.0

Copyright © 2014 Raritan, Inc.

DKX3-v3.0.0-0B-J

2014 年 2 月

255-62-0001-00

本書には、著作権によって保護されている専有情報が含まれています。無断で転載することは禁じられており、本書のいかなる部分も、Raritan, Inc. より事前に書面による承諾を得ることなく複写、複製、他の言語へ翻訳することはできません。

© Copyright 2014 Raritan, Inc. 本書に記載されているサードパーティ製のすべてのソフトウェアおよびハードウェアは、それぞれの所有者の登録商標または商標であり、それぞれの所有者に帰属します。

FCC 情報

この装置は試験済みであり、FCC 規則の Part 15 に規定された Class A デジタル装置の制限に準拠していることが証明されています。これらの制限は、商業環境に設置した場合に有害な干渉を防止するために規定されています。この装置は、無線周波数を生成、利用、および放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、無線通信に対して有害な干渉を引き起こす可能性があります。この装置を居住環境で使用した場合、有害な干渉を引き起こす可能性があります。

VCCI 情報 (日本)

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

ラリタンは、事故、自然災害、本来の用途とは異なる使用、不正使用、ラリタン以外による製品の変更、その他ラリタンが関与しない範囲での使用や、通常の使用条件以外での使用による製品の故障について、一切の責任を負いません。

この製品に付属している電源ケーブルは、この製品にしか使用しないでください。



目次

はじめに	1
概要	1
ヘルプでの最新情報	1
パッケージの内容	2
KX III の写真および機能	2
ハードウェア	2
ソフトウェア	3
Dominion KX3-832	4
Dominion KX3-864	6
モデルごとにサポートされているユーザ数とポート数	7
KX III リモート/ローカル コンソール インタフェース	7
KX III KVM Client アプリケーション	8
KX III オンライン ヘルプ	8
入門	9
KX III の設置および設定	9
ポップアップの許可	9
セキュリティ警告および検証メッセージ	9
Java 検証およびアクセス警告	9
その他のセキュリティ警告	10
証明書のインストール	10
例 1: ブラウザへの証明書のインポート	11
例 2: [信頼済みサイト] への KX III の追加と証明書のインポート	13
KX III へのログイン	14
KX III インタフェースおよびナビゲーション	16
概要	16
KX III リモート コンソール インタフェース	16
[Port Access] (ポート アクセス) ページ (リモート コンソール ディスプレイ)	17
[Port Action] (ポート アクション) メニュー	20
左パネル	23

KX III ローカル コンソール インタフェース.....	25
--------------------------------	----

Virtual KVM Client (VKC) ヘルプ 26

概要.....	26
ターゲット サーバへの接続.....	27
接続プロパティの設定.....	28
接続プロパティへのアクセス.....	28
接続プロパティの概要.....	28
デフォルトの接続プロパティ設定 - 最適化による最高のパフォーマンスの実現.....	29
[Optimize for] (最適化): 選択.....	30
[Video Mode] (ビデオ モード).....	30
[Noise Filter] (ノイズ フィルタ).....	31
接続情報.....	32
接続情報のアクセスおよびコピー.....	33
USB プロファイル.....	33
キーボード.....	34
[Send Ctrl+Alt+Del] (Ctrl+Alt+Del の送信) マクロ.....	34
[Send LeftAlt+Tab] (Send LeftAlt+Tab の送信).....	34
CIM キーボード/マウス オプションの設定.....	34
[Send Text to Target] (テキストをターゲットに送信).....	35
キーボード マクロ.....	35
マクロの新規作成.....	35
マクロのインポート.....	37
マクロのエクスポート.....	38
ビデオのプロパティ.....	39
画面を更新する.....	39
[Auto-sense Video Settings] (ビデオ設定の自動検出).....	40
色の調整.....	40
ビデオ設定の調整.....	40
ターゲット コマンドによるスクリーンショット (ターゲット スクリーンショット).....	42
マウス オプション.....	43
デュアル マウス モード.....	44
シングル マウス モード.....	47
ツール オプション.....	47
[General Settings] (全般).....	47
クライアント起動設定.....	50
VKC および AKC でのポート スキャンの設定.....	52
表示オプション.....	54
[View Toolbar] (ツール バーの表示).....	54
[View Status Bar] (ステータス バーの表示).....	54
[Scaling] (拡大、縮小).....	54
[Full Screen Mode] (全画面モード).....	55
仮想メディア.....	56
仮想メディアを使用するための条件.....	56

ローカル ドライブのマウント	57
仮想メディアによりサポートされているタスク	58
サポートされている仮想メディア タイプ	58
サポートされている仮想メディア オペレーティング システム	59
サポートされている仮想メディア ドライブ数.....	59
仮想メディアの接続および切断	60
Windows XP 環境での仮想メディア	62
Linux 環境での仮想メディア	63
Mac 環境での仮想メディア	63
仮想メディア ファイル サーバのセットアップ (ファイル サーバ ISO イメージの場合のみ)	64
スマート カード	65
スマート カードの最小システム要件、CIM、およびサポートされているスマート カード リーダーとサポートされていないスマート カード リーダー	65
スマート カード リーダーへのアクセス時の認証	66
スマート カード使用時の PC 共有モードおよびプライバシー設定.....	66
スマート カード リーダーの検出.....	66
スマート カード リーダーのマウント	67
スマート カード リーダーの更新.....	67
スマート カードの取り外しおよび再挿入の通知の送信	68
スマート カード リーダーのアンマウント (取り外し)	68
デジタル音声	68
サポートされている音声デバイス形式	69
音声の再生とキャプチャに関する推奨事項と要件	69
音声レベル	69
PC 共有モードが有効になっている場合の音声接続に関する推奨事項	69
帯域幅要件	70
音声設定の保存.....	72
単一のリモート クライアントから複数のターゲットへの接続	72
デジタル音声デバイスの接続および切断.....	73
キャプチャ/再生バッファ サイズの調整 (音声設定).....	76
バージョン情報 - Virtual KVM Client	76

Active KVM Client (AKC) ヘルプ 78

概要	78
ターゲット サーバへの接続.....	78
AKC でサポートされている Microsoft .Net Framework	79
AKC でサポートされているオペレーティング システム	79
AKC でサポートされているブラウザ	80
AKC を使用するため前提条件	80
Cookie を許可	80
"信頼済みサイト ゾーン" に KX III IP アドレスを追加.....	80
"保護モード" を無効化	80
AKC ダウンロード サーバ証明書の検証を有効にする	80

KX III リモート コンソール - KX III エンド ユーザ ヘルプ 81

概要.....	81
KX III へのログイン.....	82
ポートのスキャン - リモート コンソール.....	83
ポートのスキャンのスライド ショー - リモート コンソール.....	84
ポート スキャン中のターゲット ステータス インジケータ - リモート コンソール.....	85
ポート スキャン オプションの使用.....	86
ターゲットのスキャン.....	87
パスワードの変更.....	88
お気に入りの管理.....	89
お気に入りの有効化.....	90
お気に入りのアクセスおよび表示.....	91

KX III ローカル コンソール - KX III エンド ユーザ ヘルプ 92

概要.....	92
ターゲット サーバにアクセスする.....	92
ローカル コンソールの画面解像度.....	93
ユーザが同時接続可能.....	93
ホット キーと接続キー.....	94
KX III ローカル コンソール インタフェースへの切り替え - デフォルトのホット キー	94
接続キーの例.....	94
Sun サーバへのアクセス時に使用できる特別なキー組み合わせ.....	96
ポートのスキャン - ローカル コンソール.....	97
ポートのスキャンのスライド ショー - ローカル コンソール.....	98
ポート スキャン中のターゲット ステータス インジケータ - ローカル コンソール..	100
ローカル コンソール スキャンの設定.....	101
ターゲットのスキャン - ローカル コンソール.....	101

ローカル コンソールのスマート カード アクセス.....	102
ローカル コンソールの USB プロファイル オプション	103
KX III ローカル コンソール ファクトリ リセット.....	104
デバイスのリセット ボタンによる KX III のリセット	105
KX III と Cat5 Reach DVI の接続 - 拡張ローカル ポート機能の提供	107
概要.....	107
Cat5 Reach DVI の概要	107
KX III と Cat5 Reach DVI の接続	108
KX III から Paragon II へのアクセス	111
概要.....	111
サポートされている Paragon II CIMS および設定	112
KX III - KX III 構成の Paragon CIM に関するガイドライン	114
KX III - Paragon II 構成に関するガイドライン.....	115
Paragon II と KX III の間でサポートされている接続距離	117
KX III への Paragon II の接続.....	117
仕様	119
ハードウェア	119
KX III の寸法および物理的仕様	119
KX III でサポートされているターゲット サーバ画面解像度	123
ターゲット サーバのサポートされている画面解像度、接続距離、およびリフレッシュ レート	124
KX III ローカル ポートのサポートされている DVI 解像度	125
サポートされているコンピュータ インタフェース モジュール (CIM) の仕様.....	125
サポートされているデジタル ビデオ CIM (Mac 用).....	127
デジタル CIM タイミング モード	128
デジタル CIM の既定モードおよび標準モード	128
DVI 互換モード	129
サポートされているリモート接続.....	129
ネットワーク速度の設定	129
Dell 筐体を接続する場合のケーブル長と画面解像度.....	131
スマート カードの最小システム要件	131
サポートされているスマート カード リーダー.....	133
サポートされていないスマート カード リーダー	134
音声の再生とキャプチャに関する推奨事項と要件	135
サポートされている音声/仮想メディアおよびスマート カード接続の数.....	137
各言語に対して KX III でサポートされているキーボード.....	137
Mac Mini BIOS のキー入力コマンド	138
Windows キーボードによる Mac ターゲットへのアクセス	140

使用される TCP ポートおよび UDP ポート	140
HTTP ポートおよび HTTPS ポートの設定	142
ソフトウェア	142
サポートされているオペレーティング システムとブラウザ	142
Java および Microsoft .NET の要件	144
多言語対応キーボードの JRE の要件	144
監査ログおよび Syslog でキャプチャされるイベント	145

留意事項 146

概要	146
Java Runtime Environment (JRE) に関する留意事項	146
Java のキャッシュ機能の無効化および Java キャッシュのクリア	146
Java が Mac に正しくロードされていない場合	147
CIM に関する留意事項	147
Linux ターゲット サーバに対して Windows の 3 ボタン マウスを使用する場合	147
Windows 2000 での複合 USB デバイスの動作	148
仮想メディアに関する留意事項	149
Linux クライアントからドライブに接続できない場合	149
Mac クライアントからファイルの読み書きができない場合	149
Windows 環境での VKC および AKC を介した仮想メディア	150
ファイル追加後に仮想メディアが最新の情報に更新されない	151
仮想メディアの Linux ドライブが 2 回リストされる	151
Windows 2000 の仮想メディアへのアクセス	151
Mac および Linux の仮想メディア USB ドライブの切断	151
仮想メディア機能利用時におけるターゲット サーバの BIOS の起動時間	151
高速の仮想メディア接続を使用した場合の仮想メディアの接続エラー	152
ビデオ モードと解像度に関する留意事項	152
Mac でのビデオ画像の表示が暗い場合	152
ローカル ポートで黒色の縞が表示される場合	152
Sun Composite Sync ビデオ	152
SUSE と VESA のビデオ モード	153
キーボードに関する留意事項	153
フランス語キーボード	153
キーボード言語の設定 (Fedora クライアント)	155
Linux ターゲット サーバでマクロが保存されない場合	156
リモート アクセスに対応していない Mac キーボードのキー	157
マウスに関する留意事項	157
マウス ポインタの同期 (Fedora)	157
シングル マウス モード: CC-SG の管理下にあるターゲットに接続する場合	157
音声	158
音声の再生とキャプチャに関する問題	158
Linux 環境での音声	158
Windows 環境での音声	159

スマート カードに関する留意事項	159
Fedora サーバへの Virtual KVM Client (VKC) スマート カードの接続.....	159
ブラウザに関する留意事項.....	159
Fedora 使用時の Firefox のフリーズに関する問題の解決.....	159

FAQ**160**

一般的な FAQ	160
リモート アクセス	163
ユニバーサル仮想メディア	167
帯域幅と KVM-over-IP のパフォーマンス	169
IPv6 ネットワーキング	173
サーバ	175
ブレード サーバ	176
インストール	178
ローカル ポート - KX III	180
拡張ローカル ポート	182
二重化電源	182
インテリジェント電源タップ (PDU) の管理.....	183
Ethernet と IP ネットワーキング	184
ローカル ポートの統合およびカスケード接続	186
コンピュータ インタフェース モジュール (CIM)	189
セキュリティ	190
スマート カード認証と CAC 認証.....	192
管理機能.....	193
ドキュメントおよびサポート	195
その他	196

索引**197**

この章の内容

概要.....	1
ヘルプでの最新情報.....	1
パッケージの内容.....	2
KX III の写真および機能.....	2
KX III リモート/ローカル コンソール インタフェース.....	7
KX III KVM Client アプリケーション.....	8
KX III オンライン ヘルプ.....	8

概要

Dominion KX III は、エンタープライズ クラスのセキュアな KVM-over-IP スイッチであり、1、2、4、または 8 ユーザが、8 ～ 64 台のサーバをリモート BIOS レベルで制御できます。

KX III は、DVI/HDMI/DisplayPort のデジタル/アナログ ビデオ、音声、仮想メディア、スマート カード/CAC、ブレード サーバ サポート、およびモバイル アクセスなどの標準機能を装備しています。

KX III を個々に、または Raritan の CommandCenter Secure Gateway (CC-SG) と共に導入します。

ヘルプでの最新情報

- KX III は DVI ビデオ モニタをサポート
- このリリースでは、以下の機能も追加:
 - Raritan の Cat5 Reach DVI への接続により KX III の接続距離を延長可能 - 「**KX III と Cat5 Reach DVI の接続 - 拡張ローカルポート機能の提供** 『107p. 』」を参照
 - Virtual KVM Client (VKC) および Active KVM Client (AKC) の接続プロパティの変更 - 「**接続プロパティの設定** 『28p. 』」を参照
 - KX III リモート クライアントでのお気に入りの有効化/無効化 - 「**お気に入りの管理** 『89p. 』」を参照
 - 外部のあらゆる仮想メディア ドライブ タイプをサポート

パッケージの内容

KX III は、標準 1U (kxx-864 の場合は 2U) 19 インチ ラックマウント シヤーンに搭載される、完全に構成されたスタンドアロン製品として出荷されます。各 KX III は、以下の内容で出荷されます。

数量	品目
1	KX III
1	KX III クイック セットアップ ガイド
1	ラックマウント キット
2	AC 電源コード
1	ゴム足 1 組 (4 個、デスクトップ設置用)
1	アプリケーション ノート
1	保証書

KX III の写真および機能

ハードウェア

- KVM-over-IP リモート アクセスの統合
- 1U または 2U サイズ、ラックマウント対応、ブラケット付属
- フェイルオーバー対応の二重化電源 - 障害警告機能を備えた自動切換え電源
- 以下の CIM をサポート:
 - 仮想メディアおよびずれないマウスでは、次のいずれかの CIM を使用します。
 - D2CIM-VUSB
 - D2CIM-DVUSB
 - D2CIM-DVUSB-DVI
 - D2CIM-DVUSB-HDMI
 - D2CIM-DVUSB-DP
 - PS2 接続に必要:

- DCIM-PS2
- DVI ローカル ポートから DVI モニタをサポート
 - DVI-VGA コンバータ経由の VGA サポート
 - 標準 DVI ケーブルによる DVI サポート
- 他の複数のカスケード接続デバイスへのアクセスに使用されるベース KX III デバイスでのカスケード接続のサポート
- マルチ ユーザ機能 (1/2/4/8 リモート ユーザ、1 ローカル ユーザ)
- UTP (Cat5/5e/6) ケーブルを使用したサーバへの配線
- フェイルオーバー対応の二重化 Ethernet ポート (10/100/1000 LAN)
- フィールド アップグレード可能
- ラック内アクセス用 USB ローカル ユーザ ポート
 - USB キーボード/マウス ポート
 - サポートされる USB デバイス用の USB ポート (前面に 1 ポート、背面に 3 ポート)
 - ローカル/リモート ユーザ アクセスと同時に操作可能
 - 管理用のローカル グラフィカル ユーザ インタフェース (GUI)
- 中央管理されるアクセス セキュリティ
- 電源管理の統合
- 二重化電源やネットワーク アクティビティ、リモート ユーザの状況を示す LED インジケータ
- ハードウェア リセット ボタン

注: リリース KX III 3.0.0 では、モデムがサポートされていませんが、今後のリリースでサポートされる予定です。

ソフトウェア

- Windows®、Mac®、および Linux® 環境での仮想メディア サポート*
- ずれないマウス*

**注: 仮想メディアおよびずれないマウスには、D2CIM-VUSB、D2CIM-DVUSB、D2CIM-DVUSB DVI、D2CIM-DVUSB HDMI、または D2CIM-DVUSB-DP CIM を使用する必要があります。*

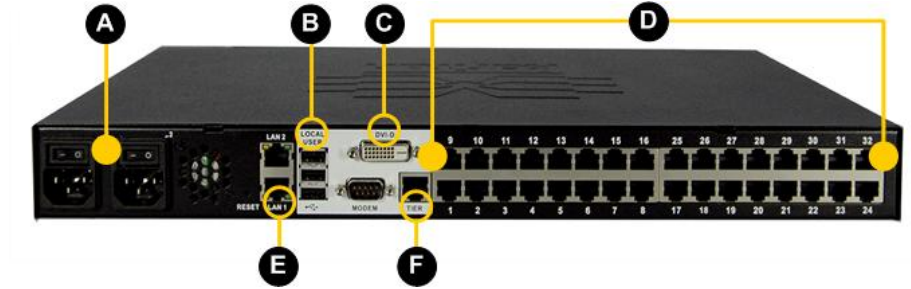
- USB を介したデジタル音声をサポート
- 設定可能なスキャン セット内で最大 32 台のターゲットをポートスキャンしサムネイル表示
- Web ベースのアクセスと管理
- わかりやすいグラフィカル ユーザ インタフェース (GUI)
- デュアル ポート ビデオ出力のサポート
- すべての KVM 信号を 256 ビット暗号化 (ビデオや仮想メディアを含む)
- LDAP、Active Directory®、RADIUS、または内部機能による認証および認可
- DHCP または静的な IP アドレスの指定
- スマート カード/CAC 認証
- SNMP、SNMP3、および Syslog 管理
- IPv4 および IPv6 のサポート
- 誤操作を防ぐためにサーバと直接関連付けられる電源管理
- Raritan の CommandCenter Secure Gateway (CC-SG) 管理ユニットとの統合
- CC-SG の制御からデバイスを解除するための CC Unmanage 機能
- Raritan PX1 および PX2 のアプライアンスのサポート

Dominion KX3-832

KX3-832 の写真



KX3-832 の特長



図の説明

A	二重化電源 AC 100 V/240 V
B	ローカル USB ポート
C	DVI-D ポート
D	32 KVM ポート UTP ケーブル (Cat5/5e/6)
E	二重化 10/100/1000 Ethernet アクセス
F	カスケード接続ポート

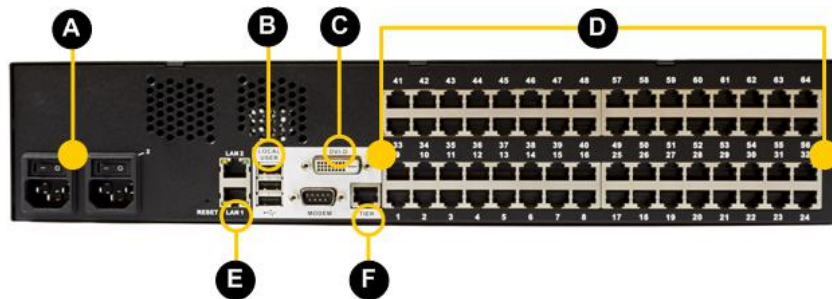
注: リリース KX III 3.0.0 では、モデムがサポートされていませんが、今後のリリースでサポートされる予定です。

Dominion KX3-864

KX3-864 の写真



KX3-864 の特長



図の説明

A	二重化電源 AC 100 V/240 V
B	ローカル USB ポート
C	DVI-D ポート
D	64 KVM ポート UTP ケーブル (Cat5/5e/6)
E	二重化 10/100/1000 Ethernet アクセス
F	カスケード接続ポート

図の説明

注: リリース *KX III 3.0.0* では、モデムがサポートされていませんが、今後のリリースでサポートされる予定です。

モデルごとにサポートされているユーザ数とポート数

[Model] (モデル)	ポート	リモート ユーザ
KX3-864	64	8
KX3-832	32	8
KX3-808	8	8
KX3-464	64	4
KX3-432	32	4
KX3-416	16	4
KX3-232	32	2
KX3-216	16	2
KX3-132	32	1
KX3-116	16	1
KX3-108	8	1

KX III リモート/ローカル コンソール インタフェース

リモート コンソール インタフェースを使用して、ネットワーク接続経由で KX III の設定および管理を行います。

ローカル コンソール インタフェースでは、ローカルに KX III にアクセスできます。

それぞれ「*KX III リモート コンソール インタフェース* 『16p.』」および「*KX III ローカル コンソール インタフェース* 『25p.』」を参照してください。

KX III KVM Client アプリケーション

KX III は、Virtual KVM Client (VKC) および Active KVM Client (AKC) と連動します。

クライアントの使用法のヘルプについては、「*Virtual KVM Client (VKC) ヘルプ* 『26p.』」および「*Active KVM Client (AKC) ヘルプ* 『78p.』」を参照してください。

KX III オンライン ヘルプ

KX III オンライン ヘルプは、プライマリ ヘルプ ソースと見なされます。PDF バージョンのヘルプは、セカンダリ リソースです。

KX III を使用する前に、現在のリリースに関する重要な情報について、KX III リリース ノート参照してください。

KVM Client ヘルプは、KX III オンライン ヘルプに含まれています。

オンライン ヘルプには、『KX III クイック セットアップ ガイド』が付属しています。これは、*Raritan の Web サイト*

『<http://www.raritan.com/support/firmware-and-documentation>参照』の「Raritan Firmware, Upgrades and Documentation」ページにあります。

「Raritan Firmware, Upgrades and Documentation」ページには、PDF バージョンの管理者ヘルプも用意されています。

注:オンライン ヘルプを使用するには、ブラウザでアクティブ コンテンツを有効にする必要があります。

この章の内容

KX III の設置および設定	9
ポップアップの許可	9
セキュリティ警告および検証メッセージ	9
証明書のインストール	10
KX III へのログイン	14

KX III の設置および設定

最初に使用する場合は、KX III を設置して設定します。

KX III に付属している、または *Raritan サポート Web サイト* <http://www.raritan.com/support> からダウンロードした『KX III クイックセットアップ ガイド』を参照するか、「KX III の設置および設定」を参照してください。

ポップアップの許可

ブラウザの種類を問わず、KX III リモート コンソールを起動するためには、デバイスの IP アドレスからのポップアップを許可する必要があります。

セキュリティ警告および検証メッセージ

KX III にログインすると、セキュリティ警告およびアプリケーション検証メッセージが表示されることがあります。

この警告やメッセージには、以下のものがあります。

- Java® セキュリティ警告および KX III の検証要求。「*Java 検証およびアクセス警告*『9p.』」および「*証明書のインストール*『10p.』」を参照してください。
- ブラウザおよびセキュリティの設定に基づくその他のセキュリティ警告。「*その他のセキュリティ警告*『10p.』」を参照してください。

Java 検証およびアクセス警告

KX III にログインすると、Java® 1.7 により、KX III を検証してアプリケーションへのアクセスを許可するよう求められます。

Java の警告を抑制し、セキュリティを強化するために、各 KX III に SSL 証明書をインストールすることをお勧めします。「SSL 証明書」を参照してください。

その他のセキュリティ警告

KX III に SSL 証明書をインストールした後に、ブラウザおよびセキュリティの設定によっては、KX III にログインすると、さらにセキュリティ警告が表示される場合があります。

KX III リモート コンソールを起動するには、これらの警告を承諾する必要があります。

セキュリティと証明書に関する警告メッセージに対して以下のオプションをオンにすることにより、それ以降にログインしたときに表示される警告メッセージが抑制されます。

- [今後、この警告を表示しない]
- [この発行元からのコンテンツを常に信頼する]

証明書のインストール

ブラウザで、KX III の SSL 証明書を受け入れて検証するよう求められる場合があります。

ブラウザおよびセキュリティの設定によっては、KX III にログインすると、さらにセキュリティ警告が表示される場合があります。

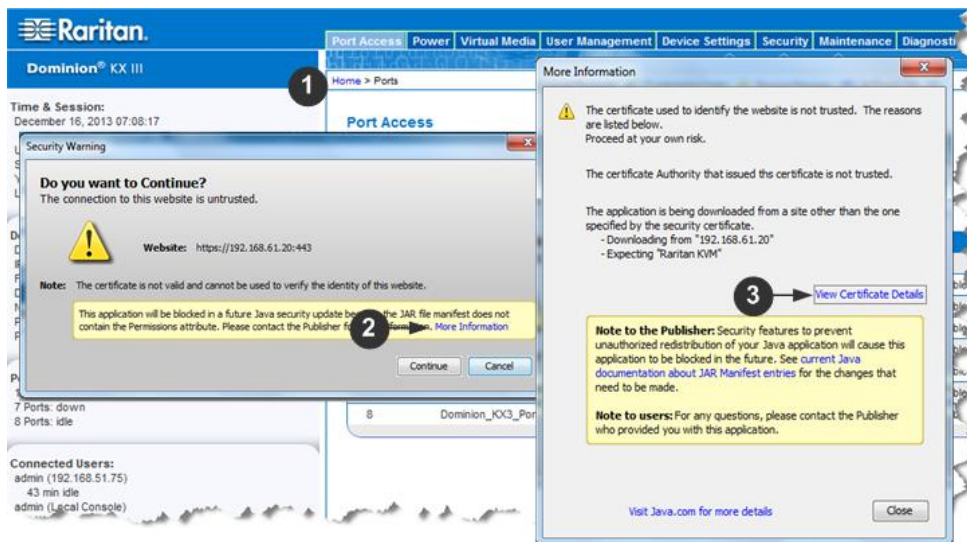
KX III リモート コンソールを起動するには、これらの警告を承諾する必要があります。詳細については、「**セキュリティ警告および検証メッセージ**『9b.』」を参照してください。

ブラウザで SSL 証明書をインストールする方法について、例を 2 つ示します。どちらも Microsoft Internet Explorer 8* および Windows 7* を使用します。

具体的な方法および手順は、使用するブラウザおよびオペレーティングシステムによって異なります。詳細については、使用するブラウザおよびオペレーティング システムのヘルプを参照してください。

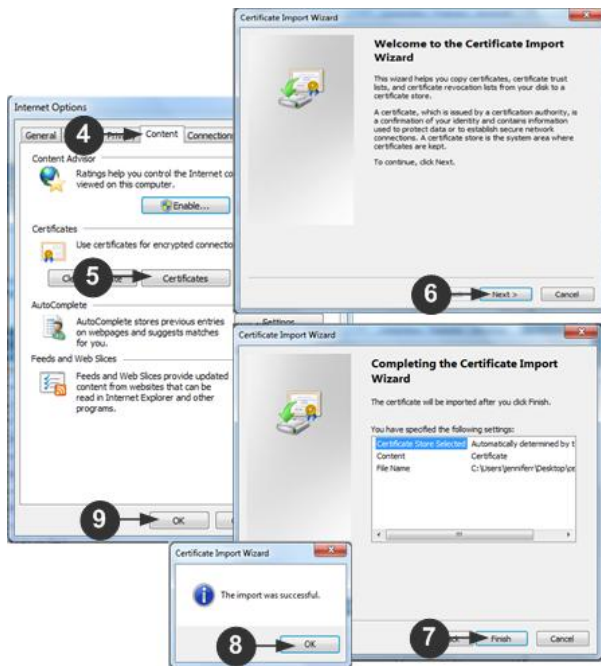
例 1: ブラウザへの証明書のインポート

この例では、ブラウザに証明書をインポートします。



手順

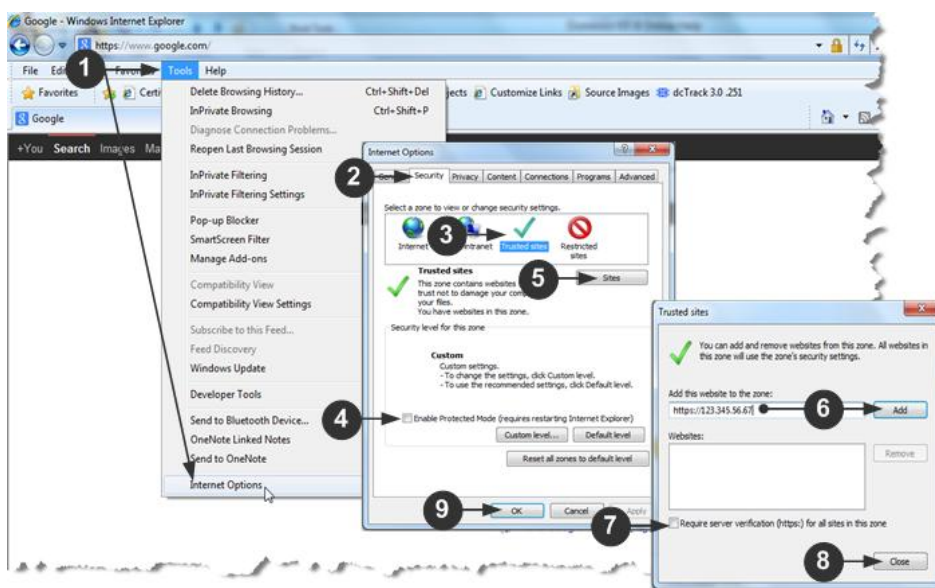
1	IE ブラウザを開き、KX III にログインします。
2	最初の Java™ セキュリティ警告で [More Information] (詳細情報) をクリックします。
3	[More Information] (詳細情報) ダイアログ ボックスで [View Certificate Details] (証明書の詳細の表示) をクリックします。証明書をインストールするかどうかを確認するダイアログ ボックスが開きます。ウィザードの手順に従います。
<p>注:ブラウザで確認が求められない場合は、手動で [ツール] の [インターネット オプション] を選択して、[インターネット オプション] ダイアログ ボックスを開きます。</p>	



手順	
4	[コンテンツ] タブをクリックします。
5	[証明書] をクリックします。
6	証明書のインポート ウィザードが開くので、各手順を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [インポートする証明書ファイル] - 参照して証明書を探す ■ [証明書ストア] - 場所を選択して証明書を保存する
7	ウィザードの最後の手順で [完了] をクリックします。
8	証明書がインポートされます。成功メッセージを閉じます。
9	[インターネット オプション] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックして変更を適用し、ブラウザを閉じて再度開きます。

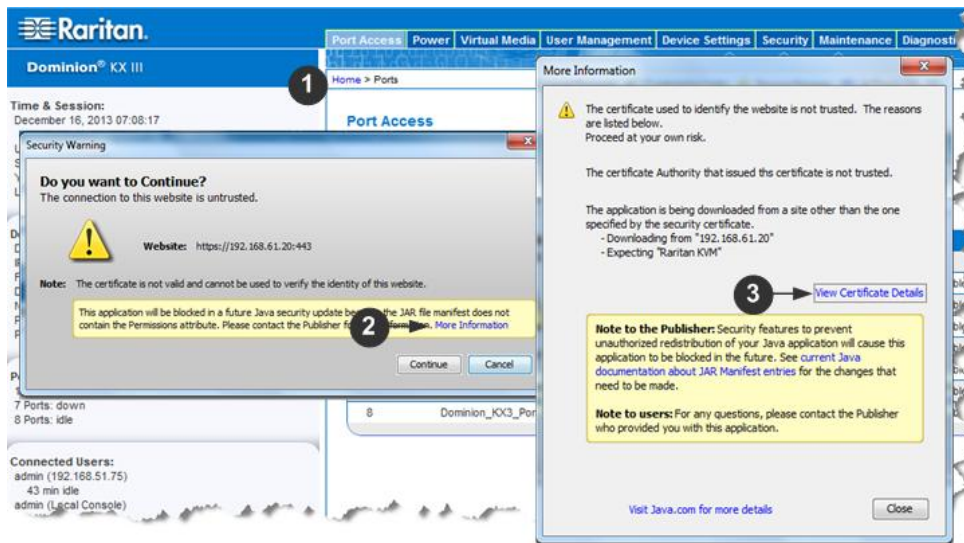
例 2: [信頼済みサイト] への KX III の追加と証明書のインポート

この例では、KX III の URL が信頼済みサイトとして追加され、一連の手続きの中で自己署名証明書が追加されます。



手順

1	IE ブラウザを開き、[ツール] の [インターネット オプション] を選択して、[インターネット オプション] ダイアログ ボックスを開きます。
2	[セキュリティ] タブをクリックします。
3	[信頼済みサイト] をクリックします。
4	保護モードを無効にして、あらゆる警告を承諾します。
5	[サイト] をクリックして、[信頼済みサイト] ダイアログ ボックスを開きます。
6	KX III の URL を入力して、[追加] をクリックします。
7	このゾーンに対するサーバの確認を選択解除します (該当する場合)。
8	[Close] (閉じる) をクリックします。
9	[インターネット オプション] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックして変更を適用し、ブラウザを閉じて再度開きます。 次に、証明書をインポートします。



手順

1	IE ブラウザを開き、KX III にログインします。
2	最初の Java™ セキュリティ警告で [More Information] (詳細情報) をクリックします。
3	[More Information] (詳細情報) ダイアログ ボックスで [View Certificate Details] (証明書の詳細の表示) をクリックします。証明書をインストールするかどうかを確認するダイアログ ボックスが開きます。ウィザードの手順に従います。 詳細については、「 例 1: ブラウザへの証明書のインポート 『11p. 』」を参照してください。

KX III へのログイン

Microsoft .NET® や Java Runtime Environment™ がインストールされており、ネットワーク接続機能を備えたワークステーションから KX III リモート コンソールにログインします。

KX III にログインして使用するには、ポップアップを許可する必要があります。

セキュリティ警告と検証メッセージ、およびそれらを抑制または除外する手順については、「**セキュリティ警告および検証メッセージ** 『9p. 』」を参照してください。

▶ **KX III にログインするには、以下の手順に従います。**

1. サポートされている Web ブラウザを起動します。

2. 次のどちらかを入力します。
 - URL: *http://IP-ADDRESS* (Java ベースの Virtual KVM Client を使用する場合)

または

- *http://IP-ADDRESS/akc* (Microsoft .NET ベースの Active KVM Client の場合)

IP-ADDRESS は、KX III に割り当てられた IP アドレスです。

また、HTTPS を使用するか、管理者によって割り当てられた、KX III の DNS 名 (適用可能な場合) を使用することもできます。

常に、HTTP の IP アドレスから HTTPS の IP アドレスにリダイレクトされます。

3. ユーザ名とパスワードを入力して、[Login] (ログイン) をクリックします。
4. ユーザ同意書に承諾します (該当する場合)。
5. セキュリティ警告が表示される場合は、アクセスの承諾または許可、あるいはその両方を行います。

この章の内容

概要.....	16
KX III リモート コンソール インタフェース.....	16
KX III ローカル コンソール インタフェース.....	25

概要

KX III リモート コンソール インタフェースと KX III ローカル コンソール インタフェースは、デバイス設定および管理、ターゲット サーバのリストおよび選択用に、Web ベース インタフェースを備えています。

KX III リモート コンソール インタフェース

KX III リモート コンソールは、ブラウザ ベースのグラフィカル ユーザ インタフェースで、このコンソールを通じて、KX III に接続されている KVM ターゲット サーバおよびシリアル ターゲットにログインして、KX III をリモート管理できます。

KX III リモート コンソールは、接続されているターゲット サーバへのデジタル接続を提供します。KX III リモート コンソールを使用して KVM ターゲット サーバにログインすると、Virtual KVM Client のウィンドウが開きます。

KX III ローカル コンソールと KX III リモート コンソールのグラフィカル ユーザ インタフェースには多くの類似点があります。相違点については、ユーザ マニュアルに記載されています。以下のオプションは KX III リモート コンソールに用意されていますが、KX III ローカル コンソールには用意されていません。

- 仮想メディア
- [Favorites] (お気に入り)
- [Backup/Restore] (バックアップ/リストア)
- [Firmware Upgrade] (ファームウェアのアップグレード)
- SSL 証明書
- 音声

[Port Access] (ポート アクセス) ページ (リモート コンソール ディスプレイ)

正常にログインすると、[Port Access] (ポート アクセス) ページが表示され、すべてのポートについて、そのステータスと可用性が表示されます。

KVM ターゲット サーバ (ブレード サーバや標準サーバ) に接続されているポートは、青で表示されます。こうしたポートのいずれかを右クリックして、[Port Action] (ポート アクション) メニューを開きます。詳細については、「[\[Port Action\] \(ポート アクション\) メニュー 『20p.』](#)」を参照してください。

CIM が接続されていないか、CIM 名が空白になっているポートには、デフォルト ポート名「Dominion-KX3_Port#」が割り当てられます。「Port#」は KX III の物理ポートの番号を表します。

The screenshot displays the Raritan Dominion KX III web interface. The main content area is titled "Port Access" and includes a table of ports. The table has the following columns: No., Name, Type, Status, and Availability. The rows in the table are as follows:

No.	Name	Type	Status	Availability
1	HDMI Target	DVM-HDMI	up	idle
2	Dominion-KX2_Port2	DVM-DVI	up	idle
3	Low Cost DVM (PQ20540016)	Dual-VMI	up	idle
4	Windows XP SP3	DCIM	up	idle
5	DP-Dominion-KX2_Port13	DVM-DP	up	idle
6	Dominion	DCIM	up	idle
7	Dominion-KX2_Port7	Dual-VMI	up	idle
8	pc-ix8-update	Not Available	down	idle
9	KX854-80-234-Tier5	TierDevice	up	idle
10	ix832-80-241-Tier3	TierDevice	up	idle
11	KX832-61-14-Tier1	TierDevice	up	idle
11-1	DCMSimulatorPort029	DCIM	up	idle
11-2	DCMSimulatorPort028	DCIM	up	idle
11-3	DCMSimulatorPort027	DCIM	up	idle
11-4	DCMSimulatorPort039	DCIM	up	idle

The interface also includes a sidebar with device information, port states, and user sessions. The top navigation bar includes tabs for Port Access, Power, Virtual Media, User Management, Device Settings, Security, Maintenance, Diagnostics, and Help.

このページの 4 つのタブでは、ポート別の表示、グループ別の表示、検索による表示、およびポートのスキャンが可能です。

列の見出しをクリックすることで、ポート番号、ポート名、ステータス ([Up] (アップ) および [Down] (ダウン))、可用性 ([Idle] (アイドル)、[Connected] (接続済み)、[Busy] (ビジー)、[Unavailable] (使用不可能)、[Connecting] (接続中)) で並べ替えを行うことができます。

[Set Scan] (スキャン設定) タブを使用して、KX III に接続されているターゲットを 32 台までスキャンできます。「[ポートのスキャン - リモート コンソール 『83p.』](#)」を参照してください。

カスケード接続デバイス - [Port Access] (ポート アクセス) ページ

ティアー接続構成にしており、ベース KX III デバイスから他の複数台のティアー接続デバイスにアクセスしている場合、カスケード接続デバイスは、[Port Access] (ポート アクセス) ページでカスケード接続デバイス名の左にある展開矢印アイコン ▶ をクリックすると表示されます。

ブレード シャーシ - [Port Access] (ポート アクセス) ページ

ブレード サーバは、[Port Access] (ポート アクセス) ページ上の展開可能な階層リストに表示されます。階層のルートはブレード シャーシで、個別のブレードはルートの下にラベルが付けられて表示されます。個別のブレードを表示するには、ルート シャーシの横の展開矢印アイコン ▶ を使用します。

注: ブレード シャーシを階層順に表示するには、ブレード サーバ シャーシにブレード シャーシのサブタイプを設定する必要があります。

デュアル ビデオ ポート グループ - [Port Access] (ポート アクセス) ページ

デュアル ビデオ ポート グループは、[Port Access (ポート アクセス)] ページにデュアル ポート タイプとして表示されます。ポート グループに属しているプライマリ ポートおよびセカンダリ ポートは、[Port Access (ポート アクセス)] ページに、それぞれ [Dual Port(P) (デュアル ポート (P))] および [Dual Port(S) (デュアル ポート (S))] として表示されます。たとえば、CIM タイプが DCIM の場合は、[DCIM Dual Port (P) (DCIM デュアル ポート (P))] が表示されます。

リモート クライアントからデュアル ポート ビデオ グループにアクセスする場合は、プライマリ ポートに接続すると、デュアル ポート グループのプライマリ ポートとセカンダリ ポートの両方に対する KVM 接続ウィンドウが開きます。

注: デュアル ビデオ プライマリ ポートは、ポート グループの作成時に定義されます。

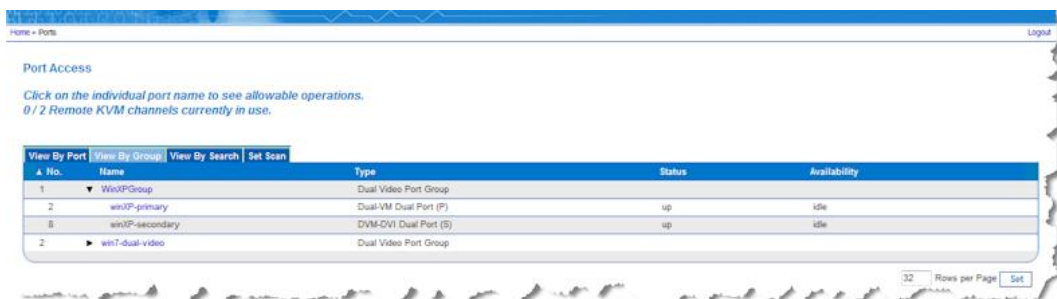
注: プライマリ ポートのクリックによってデュアル ビデオ ポート グループにリモート接続するには、2 つの KVM チャンネルが必要です。2 つのチャンネルを利用できない場合、接続リンクは表示されません。

注: デュアル ビデオ ポート グループのセカンダリ ポートをクリックしても、[Action] (アクション) メニューは表示されません。

注: ローカル ポートからプライマリ ポートおよびセカンダリ ポートに同時に接続することはできません。

[View by Group] (グループ別表示) タブ

[View by Group] (グループ別表示) タブには、ブレード シャーシ、「標準」のポート グループ、およびデュアル ビデオ ポート グループが表示されます。グループの横の展開矢印アイコン ▶ クリックすると、ポートグループに割り当てられたポートが表示されます。

**[View by Search] (検索して表示) タブ**

[View by Search] (検索して表示) タブでは、ポート名で検索できます。検索時にアスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。また、名前全体で検索することも名前の一部だけで検索することもできます。

[Set Scan] (スキャン設定) タブ

ポート スキャン機能には、[Port Access] (ポート アクセス) ページの [Set Scan] (スキャン設定) タブからアクセスします。この機能によって、スキャンするターゲットのセットを定義できます。スキャンしたターゲットのサムネイル表示も使用できます。サムネイルを選択すると、そのターゲットが Virtual KVM Client ウィンドウに表示されます。

「[ポートのスキャン - リモート コンソール 『83p.』](#)」を参照してください。

[Port Action] (ポート アクション) メニュー

[Port Access] (ポート アクセス) リストで [Port Name] (ポート名) をクリックすると、[Port Action] (ポート アクション) メニューが表示されます。

対象のポートに対して適切なメニュー オプションを選択して実行します。[Port Action] (ポート アクション) メニューには、ポートのステータスと可用性に応じて、その時点で利用可能なオプションだけが表示されます。

Home > Ports

Port Access

**Click on the individual port name to see allowable operations.
0 / 4 Remote KVM channels currently in use.**

View By Port	View By Group	View By Search	Set Scan
▲ No.	Name		
1	HDMI Target		
2	Port2		
3	Low Cost DV [PQ20540016]		
4	Windows XP SP3		

[Connect] (接続)

- [Connect] (接続) - ターゲット サーバへの新しい接続を作成します。KX III リモート コンソールの場合は、新しい Virtual KVM Client ページが表示されます。

KX III ローカル コンソールの場合は、ローカル ユーザ インタフェースからターゲット サーバに表示が切り替わります。

ローカル ポートで切り替えを行うためには、KX III ローカル コンソール インタフェースが表示されている必要があります。

ローカル ポートからのホット キー切り替えも利用できるようになりました。

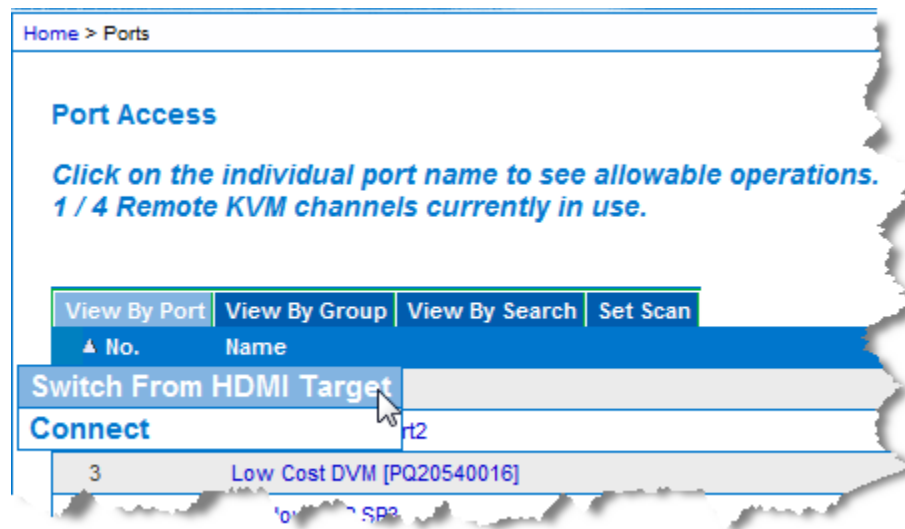
注:すべての接続がビジー状態の場合、KX III リモート コンソールで使用可能なポートに対してこのオプションは使用できません。

[Switch From] (切り替え)

- [Switch From] (切り替え元) - 既存の接続から選択したポート (KVM ターゲット サーバ) に切り替えます。

このメニュー項目は、KVM ターゲットに対してのみ、また Virtual KVM Client が開いている場合にのみ使用できます。

注: KX III ローカル コンソールでは、このメニュー項目は使用できません。

**[Disconnect] (切断)**

- [Disconnect] (切断) - このポートを切断し、このターゲット サーバの Virtual KVM Client ページを閉じます。

このメニュー項目は、ポート ステータスが [up] (アップ) および [connected] (接続済み) であるか、または [up] (アップ) および [busy] (ビジー) であるときにのみ使用できます。

注: KX III ローカル コンソールでは、このメニュー項目は使用できません。ローカル コンソールで切り替えたターゲットを切断する唯一の方法は、ホットキーを使用することです。

Home > Ports

Port Access

Click on the individual port name to see allowable operations.
1 / 4 Remote KVM channels currently in use.

View By Port	View By Group	View By Search	Set Scan
▲ No.	Name		
1	Disconnect	get	
2	Dominion-KX2_Port2		
3			
4			

[Power On] (電源オン)

- [Power On] (電源オン) - 関連付けられているコンセントを介してターゲット サーバの電源をオンにします。
このオプションは、1 つ以上の電源がターゲットに関連付けられているとき、およびこのサービスを操作する許可がユーザーに与えられているときにのみ表示されます。

[Power Off] (電源オフ)

- [Power Off] (電源オフ) - 関連付けられているコンセントを介してターゲット サーバの電源をオフにします。
このオプションは、1 つ以上の電源がターゲットに関連付けられているとき、ターゲットがオン (ポート ステータスが [up] (アップ)) のとき、およびこのサービスを操作する許可がユーザーに与えられているときにのみ表示されます。

[Power Cycle] (電源の再投入)

- [Power Cycle] (電源の再投入) - 関連付けられているコンセントを介してターゲット サーバの電源をいったんオフにしてから再びオンにします。
このオプションは、1 つ以上の電源がターゲットに関連付けられているとき、およびこのサービスを操作する許可がユーザーに与えられているときにのみ表示されます。

左パネル

KX III インタフェースの左パネルにある情報は次のとおりです。

一部の情報は、特定の条件に従って、つまり役割や利用する機能などに基づいて表示されます。各情報が表示される条件もこの表に示します。

情報	説明	表示される条件
[Time & Session] (日時およびセッション)	現在のセッションを開始した日時	常時
ユーザ	ユーザ名。	常時
[State] (状態)	アプリケーションの現在の状態 (アイドルまたはアクティブ)。アイドル状態の場合、セッションがアイドル状態になっている時間が追跡および表示されます。	常時
[Your IP] (あなたの IP アドレス)	KX III にアクセスする際に使用された IP アドレス	常時
[Last Login] (最終ログイン日時)	最後にログインした日時	常時
[Under CC-SG Management] (CC-SG の管理下)	KX III を管理している CC-SG デバイスの IP アドレス	KX III が CC-SG の管理下にある場合
[Device Information] (デバイス情報)	使用している KX III に特有の情報	常時
[Device Name] (デバイス名)	デバイスに割り当てられている名前	常時
IP アドレス	KX III の IP アドレス	常時
[Firmware] (ファームウェア)	ファームウェアの現在のバージョン	常時
[Device Model] (デバイス モデル)	KX III のモデル。	常時
[Serial number] (シリアル番号)	KX III のシリアル番号。	常時

情報	説明	表示される条件
ネットワーク	現在のネットワークに割り当てられている名前	常時
[PowerIn1] (電源入力 1)	電源コンセント 1 の接続状態 オンまたはオフ、あるいは自動検出オフ	常時
[PowerIn2] (電源入力 2)	電源コンセント 2 の接続状態 オンまたはオフ、あるいは自動検出オフ	常時
[Configured As Base] (ベース デバイスとして設定) または [Configured As Tiered] (カスケード接続デバイスとして設定)	カスケード接続を使用している場合、現在アクセスしている KX III がベースデバイスとカスケード接続デバイスのどちらであるかが表示されます。	KX III がカスケード接続構成の一要素になっている場合
ポートの状態	KX III によって現在使用されているポートのステータス	常時
[Connect Users] (接続しているユーザ)	現在 KX III に接続している、ユーザ名と IP アドレスによって識別されるユーザ	常時
オンライン ヘルプ	オンライン ヘルプへのリンク	常時
お気に入りデバイス	「 お気に入りの管理 」を参照 『89p. 』」を参照	有効になっている場合
[FIPS Mode] (FIPS モード)	FIPS モード: 有効、SSL 証明書: FIPS モード準拠。	FIPS が有効になっている場合

KX III ローカル コンソール インタフェース

KX III ローカル コンソールと KX III リモート コンソールのグラフィカル ユーザ インタフェースには、多くの類似点があります。相違点については、ヘルプに記載されています。

ローカル コンソールの使用法の詳細については、「*KX III ローカル コンソール - KX III エンド ユーザ ヘルプ* 『92p.』」を参照してください。

Ch 4

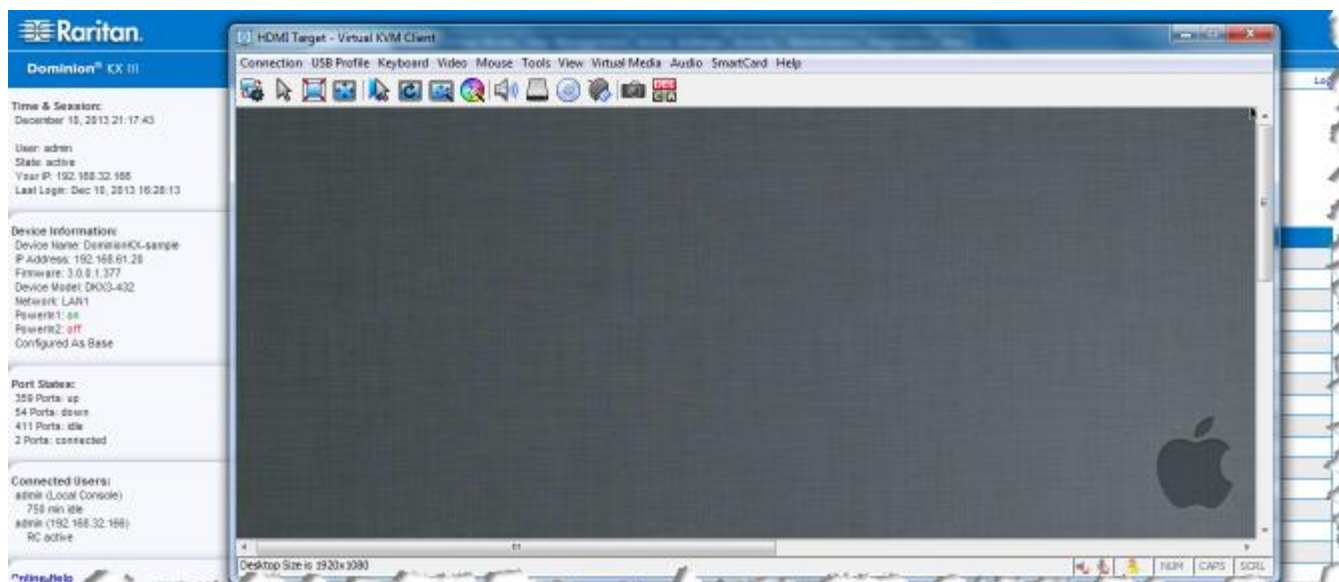
Virtual KVM Client (VKC) ヘルプ

この章の内容

概要.....	26
ターゲット サーバへの接続.....	27
接続プロパティの設定.....	28
接続情報.....	32
USB プロファイル.....	33
キーボード.....	34
ビデオのプロパティ.....	39
マウス オプション.....	43
ツール オプション.....	47
表示オプション.....	54
仮想メディア.....	56
スマート カード.....	65
デジタル音声.....	68
バージョン情報 - Virtual KVM Client.....	76

概要

KX III リモート コンソールの [Port Access] (ポート アクセス) ページからターゲット サーバにアクセスすると、必ず Virtual KVM Client (VKC) のウィンドウが開かれます。



接続されているターゲット サーバごとに 1 つの Virtual KVM Client ウィンドウが表示されます。

Virtual KVM Client ウィンドウは、お使いのコンピュータのデスクトップ上で最小化、最大化、および移動できます。

重要: ブラウザ表示を更新すると Virtual KVM Client 接続が切断されてしまうので注意してください。

Virtual KVM Client (VKC) および Active KVM Client (AKC) は、リモートターゲットへのアクセスに使用されるインターフェースです。

VKC および AKC は、特徴が似ています。ただし、以下の点は除きます。

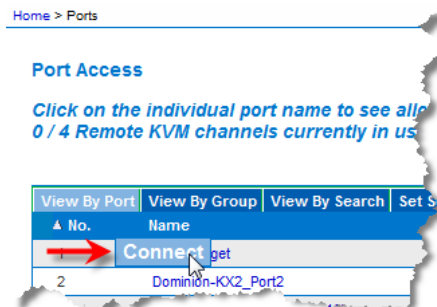
- 最小システム要件
- サポートされているオペレーティング システムとブラウザ
- AKC で作成されたキーボード マクロは、VKC では使用不可
- ダイレクト ポート アクセス設定 (「URL を経由したダイレクト ポート アクセスの有効化」を参照)
- AKC サーバ証明書検証設定 (「AKC を使用するための前提条件『80p. の“AKC を使用するため前提条件”参照』」を参照)

ターゲット サーバへの接続

KX III リモート コンソールにログインしたら、Virtual KVM Client (VKC) または Active KVM Client (AKC) 経由でターゲット サーバにアクセスします。

▶ 利用可能なターゲット サーバまたはデュアル モニタ ターゲット サーバに接続するには、以下の手順に従います。

1. [Port Access] (ポート アクセス) ページで、接続するターゲット サーバのポート名をクリックします。[Port Action] (ポート アクション) メニューが開きます。
2. [接続] をクリックします。



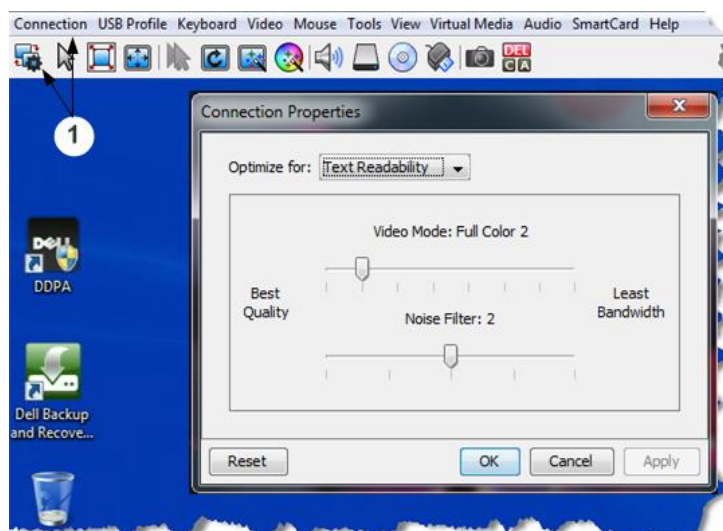
使用可能な他のメニュー オプションの詳細については、「[Port Action] (ポート アクション) メニュー『20p.』」を参照してください。

接続プロパティの設定

接続プロパティへのアクセス

▶ 接続プロパティにアクセスするには、以下の手順に従います。

- 1 [Connection] (接続) の [Properties] (プロパティ) をクリックするか、[Connection...] (接続...) アイコンをクリックして、[Connection Properties] (接続プロパティ) ダイアログ ボックスを開きます。



接続プロパティの概要

Virtual KVM Client (VKC) および Active KVM Client (AKC) では、接続プロパティの管理がサポートされています。

接続プロパティで、ターゲット サーバへのリモート接続経由のストリーミング ビデオ パフォーマンスを管理できます。

このプロパティは、自分が使用している接続にのみ適用され、VKC または AKC を介して同じターゲット サーバにアクセスしている他のユーザの接続には適用されません。

接続プロパティに変更を加えた場合、その変更は、VKC および AKC で保持されます。

デフォルトの接続プロパティ設定 - 最適化による最高のパフォーマンスの実現

KX III は、ほとんどのビデオ ストリーミング条件で最適なパフォーマンスが得られるように設定されています。

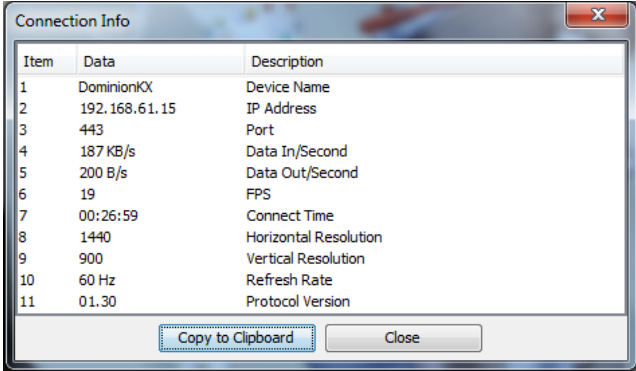
デフォルトの接続設定は、次のようになっています。

- [Optimize for] (最適化): [Text Readability] (テキストの読みやすさ) - ビデオ モードは、テキストの読みやすさが最大になります。
この設定は、サーバ管理の実行などの一般的な IT アプリケーションやコンピュータ アプリケーションに最適です。
- [Video Mode] (ビデオ モード) - デフォルトでは [Full Color 2] (フルカラー 2) に設定されます。
ビデオ フレームは、高画質の 24 ビット カラーで送信されます。この設定は、高速 LAN を利用する場合に適しています。
- [Noise Filter] (ノイズ フィルタ) - デフォルトでは 2 に設定されます。

通常は、ノイズ フィルタ設定を変更する必要はありません。

いつでも [Connection Properties] (接続プロパティ) ダイアログ ボックスで [Reset] (リセット) をクリックしてデフォルトの設定に戻します。

ヒント: [Connection Information] (接続情報) ダイアログ ボックスを使用して、接続をリアルタイムに監視します。『接続情報のアクセスおよびコピー』『33p.』を参照してください。



Item	Data	Description
1	DominionKX	Device Name
2	192.168.61.15	IP Address
3	443	Port
4	187 KB/s	Data In/Second
5	200 B/s	Data Out/Second
6	19	FPS
7	00:26:59	Connect Time
8	1440	Horizontal Resolution
9	900	Vertical Resolution
10	60 Hz	Refresh Rate
11	01.30	Protocol Version

Copy to Clipboard Close

[Optimize for] (最適化): 選択

[Text Readability] (テキストの読みやすさ)

[Text Readability] (テキストの読みやすさ) を選択すると、すべてのビデオモードは、高画質になり、テキストが読みやすくなります。

この設定は、サーバ管理を実行するときなど、コンピュータの GUI を操作する場合に最適です。

フル カラー ビデオ モードで作業する場合は、コントラストがわずかに高められ、テキストがより鮮明になります。

低画質ビデオ モードでは、帯域幅が減少し、精度が低下します。

[Color Accuracy] (色精度)

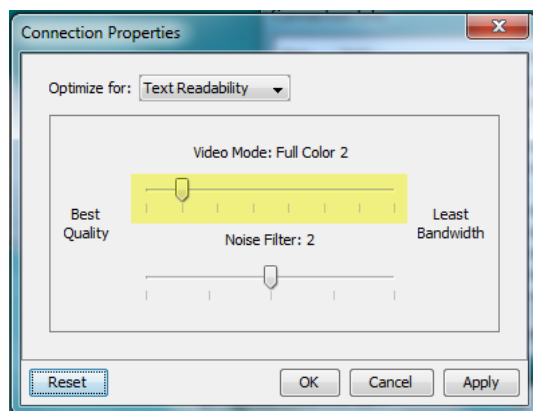
[Color Accuracy] (色精度)が選択されている場合、すべてのビデオ モードは、均一な色応答のフル カラーで表示されます。

この設定は、動画などのビデオ ストリームやその他のブロードキャストストリームの表示に適用されます。

低画質ビデオ モードでは、テキストなどの細部の鮮明さが低下します。

[Video Mode] (ビデオ モード)

[Video Mode] (ビデオ モード) スライダーで、ビデオ品質、フレーム レート、および帯域幅に作用する、各ビデオ フレームのエンコードを制御します。



一般に、このスライダを左に動かすと、高画質となりますが、帯域幅は減少し、場合によっては、フレーム レートが低下します。

このスライダを右に動かすと、より強力的に圧縮され、フレームあたりの帯域幅は減少しますが、ビデオ品質が低下します。

システム帯域幅が制限要因となっている場合には、ビデオ モード スライダを右に動かすと、フレーム レートが高くなる可能性があります。

最適化の設定として [Text Readability] (テキストの読みやすさ) が選択されている場合、右の 4 つのモードでは、色解像度が低下するか、色がなくなります。

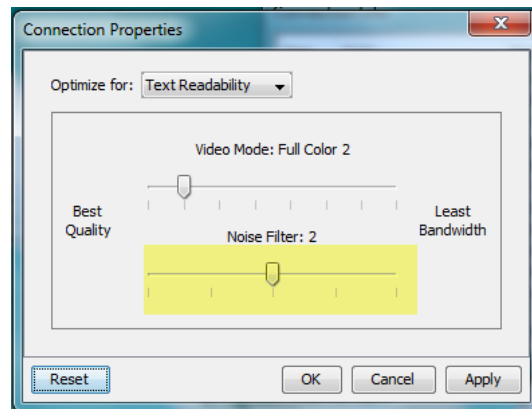
これらのモードは、テキストや GUI 要素が優先され、帯域幅が重要となる管理作業に適しています。

いつでも [Connection Properties] (接続プロパティ) ダイアログ ボックスで [Reset] (リセット) をクリックしてデフォルトの設定に戻します。

[Noise Filter] (ノイズ フィルタ)

特に必要がない限り、ノイズ フィルタ設定は変更しないでください。デフォルトの設定は、ほとんどの状況で十分に機能するようになっています。

[Noise Filter] (ノイズ フィルタ) では、フレーム間のノイズを KX III でのどの程度吸収するかを制御します。



[Noise Filter] (ノイズ フィルタ) スライダを左に動かすと、フィルタしきい値が低くなり、よりダイナミックなビデオ品質となります。ただし、ノイズが増える可能性があるため、帯域幅が増大し、フレーム レートは低下します。

このスライダを右に動かすと、しきい値が高くなるため、ノイズが少なくなり、使用帯域幅は減少します。ビデオ アーチファクトは増える可能性があります。

ノイズ フィルタのスライダを右に動かすと、帯域幅が厳しく制限された接続でコンピュータ GUI にアクセスする場合に役立つ可能性があります。

いつでも [Connection Properties] (接続プロパティ) ダイアログ ボックスで [Reset] (リセット) をクリックしてデフォルトの設定に戻します。

接続情報

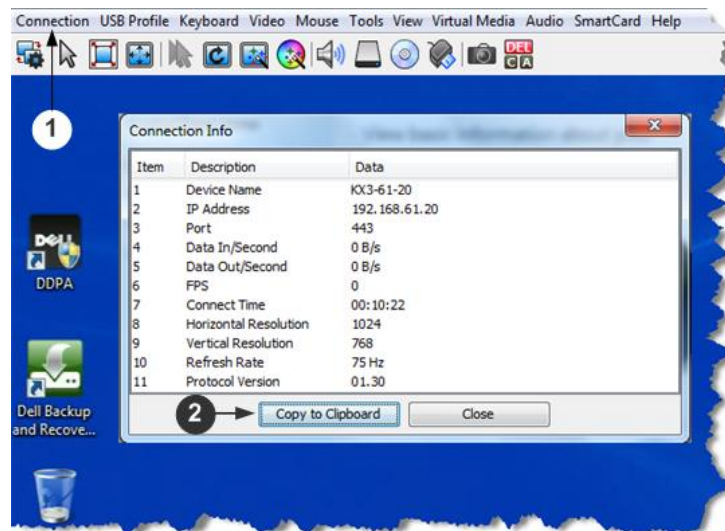
リアルタイム接続情報を表示する [Connection Information] (接続情報) ダイアログ ボックスを開き、必要に応じてダイアログ ボックスから情報をコピーします。

この機能が役に立つのは、現在の接続に関する情報をリアルタイムに収集したい場合などです。「[接続プロパティの設定](#)『28p.』」を参照してください。

現在の接続に関する以下の情報が表示されます。

- [KX III Name] (KX III 名) - KX III の名前です。
- [IP Address] (IP アドレス) - KX III の IP アドレスです。
- [Port] (ポート) - KX III へのアクセスに使用される KVM 通信 TCP/IP ポートです。
- [Data In/Second] (データ入力/秒) - KX III から受信したデータレートです。
- [Data Out/Second] (データ出力/秒) - KX III に送信したデータレートです。
- [Connect Time] (接続時間) - 現在の接続時間です。
- [FPS] - KX III と送受信したビデオ フレーム/秒です。
- [Horizontal Resolution] (水平解像度) - ターゲット サーバの水平解像度です。
- [Vertical Resolution] (垂直解像度) - ターゲット サーバの垂直解像度です。
- [Refresh Rate] (リフレッシュ レート) - ターゲット サーバのリフレッシュ レートです。
- [Protocol Version] (プロトコル バージョン) - Raritan 通信プロトコルバージョンです。

接続情報のアクセスおよびコピー

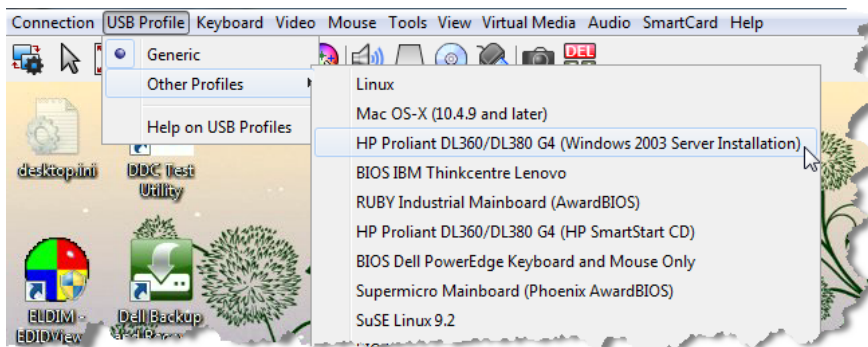


手順

- 1 [Connection] (接続) の [Info...] (情報...) をクリックして、[Connection] (接続) 情報ダイアログ ボックスを開きます。
- 2 [Copy to Clipboard] (クリップボードにコピー) をクリックします。選択したファイルに情報を貼り付けます。

USB プロファイル

Virtual KVM Client (VKC) でターゲット サーバの USB プロファイルを設定するには、メニューの [USB Profile] (USB プロファイル) をクリックして、メニュー項目を選択します。




KVM ターゲット サーバに最適な USB プロファイルを選択します。
たとえば、サーバで Windows® オペレーティング システムが実行されている場合は、Generic プロファイルが最適です。
あるいは、BIOS メニューの設定の変更または仮想メディア ドライブからの起動を行う場合、ターゲット サーバ モデルによっては、BIOS プロファイルの方が適している可能性があります。
USB プロファイルの詳細については、オンライン ヘルプの「USB プロファイル (USB Profiles)」を参照してください。

キーボード

[Send Ctrl+Alt+Del] (Ctrl+Alt+Del の送信) マクロ

Ctrl+Alt+Delete マクロは、頻繁に使用されるため事前にプログラムされています。

[Keyboard] (キーボード) の [Send Ctrl+Alt+Del] (Ctrl+Alt+Del の送信) を選択するか、ツール バーの [Ctrl+Alt+Delete] ボタン  をクリックすると、現在接続中のサーバまたは KVM スイッチにこのキー操作が送信されます。

一方、Ctrl キー、Alt キー、Delete キーを同時に押すと、Windows オペレーティング システムの構造により、コマンドはターゲット サーバへ送信されずに操作中の PC に適用されます。

[Send LeftAlt+Tab] (Send LeftAlt+Tab の送信)

[Keyboard] (キーボード) の [Send LeftAlt+Tab] (Send LeftAlt+Tab の送信) を選択して、接続先のターゲット サーバまたは KVM スイッチの開かれているウィンドウを切り替えます。

CIM キーボード/マウス オプションの設定

▶ **DCIM-USBG2 の設定メニューにアクセスするには、以下の手順に従います。**

1. Windows® のメモ帳などのウィンドウにマウス ポインタを置きます。
2. [Set CIM Keyboard/Mouse options] (CIM キーボード/マウス オプションを設定する) を選択します。この操作は、左 Ctrl + Num Lock キーをターゲットに送信することと同じです。CIM セットアップ メニュー オプションが表示されます。
3. 言語とマウスを設定します。
4. メニューを終了し、通常の CIM 機能に戻ります。

[Send Text to Target] (テキストをターゲットに送信)

▶ マクロでテキストをターゲットに送信する機能を使用するには、以下の手順に従います。

1. [Keyboard] (キーボード) の [Send Text to Target] (テキストをターゲットに送信) をクリックします。[Send Text to Target] (テキストをターゲットに送信) ダイアログ ボックスが表示されます。
2. ターゲットに送信するテキストを入力します。

注: テキストをターゲットに送信する機能では、英語以外の文字はサポートされていません。

3. ターゲットで英語 (アメリカ)/国際的な キーボード レイアウトが使用されている場合は、[Target system is set to the US/International keyboard layout] (ターゲットシステムで英語 (アメリカ)/国際的な キーボード レイアウトを使用) チェックボックスをオンにします。
4. [OK] をクリックします。

キーボード マクロ

キーボード マクロを利用することで、ターゲット サーバに対するキー入力確実にターゲット サーバに送信され、ターゲット サーバのみで解釈されます。キーボード マクロを利用しない場合、Virtual KVM Client が実行されているコンピュータ (クライアント PC) によって解釈される可能性があります。

マクロはクライアント PC に保存され、その PC 専用になります。したがって、別の PC を使用したときは、作成したマクロを使用できません。

さらに、キーボード マクロはコンピュータ単位で管理されるので、あるユーザが使用している PC に別のユーザが自分の名前でもログインした場合でも、1 人目のユーザが作成したマクロが 2 人目のユーザに対して表示されます。

Virtual KVM Client (VKC) で作成されたキーボード マクロは、Active KVM Client (AKC) では使用できません。また、その逆も同様です。

マクロの新規作成

▶ マクロを作成するには、以下の手順に従います。

1. [Keyboard] (キーボード) の [Keyboard Macros] (キーボード マクロ) をクリックします。[Keyboard Macros] (キーボード マクロ) ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [Add] (追加) をクリックします。[Add Keyboard Macro] (キーボード マクロの追加) ダイアログ ボックスが表示されます。

3. [Keyboard Macro Name] (キーボード マクロ名) フィールドにマクロの名前を入力します。この名前は、マクロが作成された後に [Keyboard] (キーボード) メニューに表示されます。
4. [Hot-Key Combination] (ホットキーの組み合わせ) フィールドで、ドロップダウン リストからキー操作の組み合わせを選択します。これにより、定義済みのキー入力でマクロを実行できます。(オプション)
5. [Keys to Press] (押すキー) ドロップダウン リストで、コマンドの実行に使用されるキー操作のエミュレート用のキーを選択します。キーは、押す順番で選択します。1 つ選択するごとに、[Add Key] (キーを追加) を選択します。キーを選択するごとに、[Macro Sequence] (マクロ シーケンス) フィールドに表示されます。また、1 つ選択するごとに、その [Release Key] (キーのリリース) コマンドが自動的に追加されます。

たとえば、左 Ctrl + Esc キーを選択してウィンドウを閉じるマクロを作成します。これは、[Macro Sequence] (マクロ シーケンス) ボックスに以下のように表示されます。

[Press Left Alt] (左 Alt の押下)

[Press F4] (F4 の押下)

ESC

[Release F4] (F4 のリリース)

ESC

[Release Left Alt] (左 Alt のリリース)

6. [Macro Sequence] (マクロ シーケンス) フィールドで、マクロ シーケンスが正しく定義されていることを確認します。
 - a. キー操作の 1 つの手順を削除するには、手順を選択して [Remove] (削除) をクリックします。
 - b. キー操作の手順の順番を変更するには、手順をクリックし、上向きまたは下向きの矢印ボタンを使用して必要に応じて並べ替えます。
7. [OK] をクリックしてマクロを保存します。[Clear] (クリア) をクリックすると、すべてのフィールドがクリアされ、最初の状態に戻ります。[OK] をクリックすると [Keyboard Macros] (キーボード マクロ) ダイアログ ボックスが現れ、新しいキーボード マクロがリスト表示されます。
8. [Close] (閉じる) をクリックして、[Keyboard Macro] (キーボード マクロ) ダイアログ ボックスを閉じます。マクロがアプリケーションの [Keyboard] (キーボード) メニューに表示されます。
9. マクロを実行するには、メニューで新しいマクロを選択するか、マクロに割り当てたキー操作を使用します。

マクロのインポート

▶ マクロをインポートするには、以下の手順に従います。

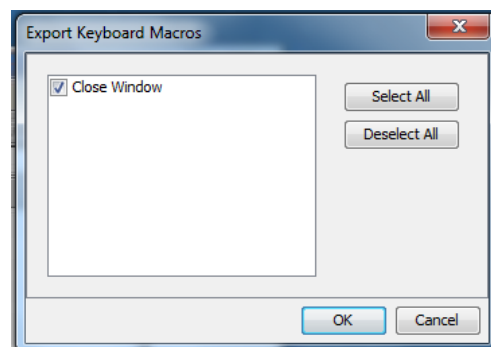
1. [Keyboard] (キーボード) の [Import Keyboard Macros] (キーボード マクロのインポート) をクリックして、[Import Macros] (マクロのインポート) ダイアログ ボックスを開きます。マクロ ファイルがあるフォルダに移動します。
2. マクロ ファイルをクリックし、[Open] (開く) をクリックしてマクロをインポートします。
 - a. ファイル内のマクロ数が多い場合は、エラー メッセージが表示され、[OK] を選択するとインポートが中断されます。
 - b. インポートが失敗した場合は、エラー ダイアログ ボックスが表示され、失敗した理由についてのメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、インポートできなかったマクロをスキップしてインポートが続行されます。
3. インポートするマクロを、それに対応するチェックボックスをオンにするか、[Select All] (すべて選択) または [Deselect All] (すべて選択解除) オプションを使用して選択します。
4. [OK] をクリックしてインポートを開始します。
 - a. 重複するマクロが見つかった場合は、[Import Macros] (マクロのインポート) ダイアログ ボックスが表示されます。以下のいずれかの手順に従います。

- [Yes] (はい) をクリックして、既存のマクロを、インポートしたマクロで置き換えます。
 - [Yes to All] (すべてはい) をクリックして、現在選択されているマクロとその他に見つかった重複マクロすべてを置き換えます。
 - [No] (いいえ) をクリックすると、元のマクロが維持され、次のマクロに進みます。
 - [No to All] (すべていいえ) をクリックすると、元のマクロが維持され、次のマクロに進みます。その他に見つかったすべての重複マクロも同様にスキップされます。
 - [Cancel] (キャンセル) をクリックすると、インポートが終了します。
 - または、[Rename] (名前変更) をクリックして、マクロの名前を変更してそれをインポートします。[Rename] (名前変更) が選択された場合は、[Rename Macro] (マクロ名の変更) ダイアログ ボックスが表示されます。フィールドに新しいマクロ名を入力し、[OK] をクリックします。ダイアログ ボックスが閉じられ、処理が続行されます。入力した名前が別のマクロと重複している場合は、アラートが表示されるので、別のマクロ名を入力する必要があります。
- b. インポート処理中にインポート済みマクロの許容数を越えた場合は、ダイアログ ボックスが表示されます。[OK] をクリックして、マクロのインポート試行を続行するか、[Cancel] (キャンセル) をクリックしてインポート処理を中止します。

これでマクロがインポートされます。既に存在するホットキーを含むマクロがインポートされた場合、インポートされたマクロのホットキーが破棄されます。

マクロのエクスポート

1. [Tools] (ツール) の [Export Macros] (マクロのエクスポート) を選択して、[Select Keyboard Macros to Export] (エクスポートするキーボード マクロの選択) ダイアログ ボックスをクリックします。



2. エクスポートするマクロを、それに対応するチェックボックスをオンにするか、[Select All] (すべて選択) または [Deselect All] (すべて選択解除) オプションを使用して選択します。
3. [OK] (OK) をクリックします。[Export Keyboard Macros] (キーボードマクロのエクスポート) ダイアログ ボックスが表示されます。マクロ ファイルを探して選択します。デフォルトでは、マクロはデスクトップにあります。
4. マクロ ファイルを保存するフォルダを選択し、ファイル名を入力し、[Save] (保存) をクリックします。マクロが既に存在する場合は、警告メッセージが表示されます。
5. [Yes] (はい) を選択して既存のマクロを上書きするか、[No] (いいえ) をクリックしてマクロを上書きせずに警告を閉じます。

ビデオのプロパティ


画面を更新する

[Refresh Screen] (画面の更新) コマンドを使用すると、ビデオ画面が更新されます。ビデオの設定を自動的に更新する方法はいくつかあります。

- [Refresh Screen] (画面の更新) コマンドを使用すると、ビデオ画面が更新されます。
- [Auto-sense Video Settings] (ビデオ設定の自動検出) コマンドを使用すると、ターゲット サーバのビデオ設定が自動的に検出されます。
- [Calibrate Color] (色調整) コマンドを使用すると、ビデオの表示色が調整されます。

これに加え、[Video Settings] (ビデオ設定) コマンドを使用すると、手動で設定を調整できます。


▶ **ビデオ設定を更新するには、次のいずれかの手順に従います。**

- [Video] (ビデオ) の [Refresh Screen] (画面の更新) を選択するか、ツールバーの [Refresh Screen] (画面の更新) ボタン  をクリックします。

[Auto-sense Video Settings] (ビデオ設定の自動検出)

[Auto-sense Video Settings] (ビデオ設定の自動検出) コマンドを使用すると、ビデオ設定 (解像度、垂直走査周波数) が再検出され、ビデオ画面が再描画されます。

▶ **ビデオ設定を自動的に検出するには、以下の手順に従います。**


- [Video] (ビデオ) の [Auto-sense Video Settings] (ビデオ設定の自動検出) を選択するか、ツールバーの [Auto-sense Video Settings] (ビデオ設定の自動検出) ボタン  をクリックします。調整が行われていることを示すメッセージが表示されます。

色の調整

[Calibrate Color] (色調整) コマンドは、送信されたビデオ画像の色レベル (色相、輝度、彩度) を最適化するために使用します。色設定は、ターゲット サーバごとに適用されます。

注: [Calibrate Color] (色調整) コマンドは、現在の接続のみに適用されません。

▶ **色を調整するには、以下の手順に従います。**

- [Video] (ビデオ) の [Calibrate Color] (色調整) を選択するか、ツールバーの [Calibrate Color] (色調整) ボタン  をクリックします。ターゲット デバイス画面の色が調整されます。

ビデオ設定の調整

[Video Settings] (ビデオ設定) コマンドを使用すると、ビデオ設定を手動で調整できます。

▶ **ビデオ設定を変更するには、以下の手順に従います。**

1. [Video] (ビデオ)、[Video Settings] (ビデオ設定) を選択して、[Video Settings] (ビデオ設定) ダイアログ ボックスを開きます。
2. 必要に応じて、以下の設定を調整します。設定を調整すると、その効果が即座に表示に反映されます。
 - a. [PLL Settings] (PLL 設定)
[Clock] (クロック) - ビデオ画面上にビデオ ピクセルが表示される速度を制御します。クロック設定値を変更すると、ビデオ画像が水平方向に伸縮します。設定値は奇数を推奨します。通常は自動検出機能によって適切に設定されるため、ほとんどの環境ではこの設定を変更する必要はありません。

[Phase] (位相) - 位相の値の範囲は 0 ~ 31 です。これより大きな値は反復されます。アクティブなターゲット サーバ用に最適なビデオ画像が得られる位相の位置で停止してください。

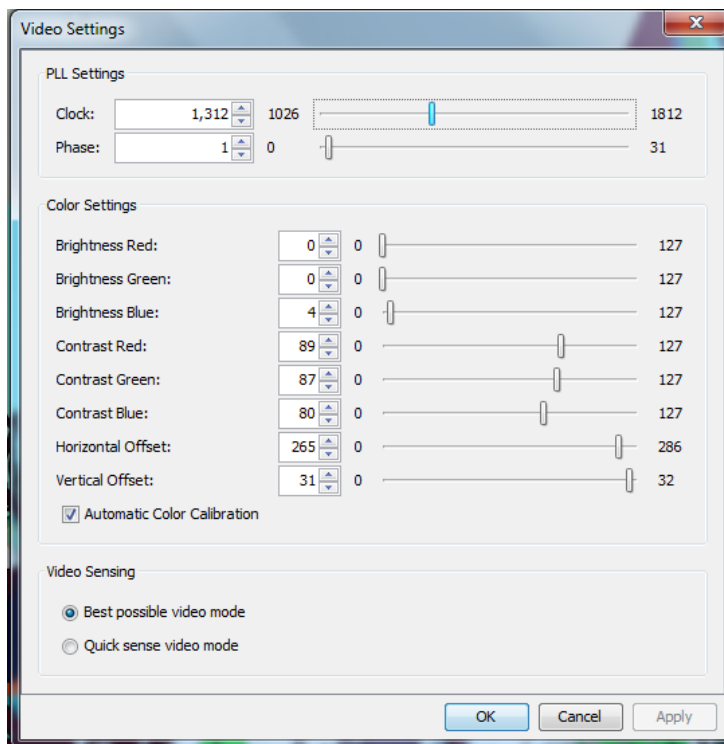
- b. [Brightness] (明るさ): この設定は、ターゲット サーバの画面表示の輝度を調整するために使用します。
- c. [Brightness Red] (赤輝度) - ターゲット サーバの画面に表示される赤の信号の輝度を制御します。
- d. [Brightness Green] (緑輝度) - 緑の信号の輝度を制御します。
- e. [Brightness Blue] (青輝度) - 青の信号の輝度を制御します。
- f. [Contrast Red] (赤コントラスト) - 赤の信号のコントラストを制御します。
- g. [Contrast Green] (緑コントラスト) - 緑の信号のコントラストを制御します。
- h. [Contrast Blue] (青コントラスト) - 青の信号のコントラストを制御します。

ビデオ画像が大幅にぼやけている場合、設定でクロックと位相を調節することで、アクティブなターゲット サーバの画像を改善します。

警告: クロック設定と位相設定を変更する際には、注意が必要です。ビデオ画像が消えたり歪んだりする可能性があるだけでなく、元の状態に戻せなくなることがあります。変更を加える前に、ラリタン テクニカル サポートにお問い合わせください。

- i. [Horizontal Offset] (水平オフセット) - ターゲット サーバの画面がモニタに表示されるとききの水平位置を制御します。
 - j. [Vertical Offset] (垂直オフセット) - ターゲット サーバの画面がモニタに表示されるとききの垂直位置を制御します。
3. [Automatic Color Calibration] (自動色調節) を選択して、この機能を有効にします。
 4. ビデオ検出モードを選択します。
 - [Best possible video mode] (最適ビデオ モード)
ターゲットやターゲットの解像度が変更されたときに、すべての自動検出処理が実行されます。このオプションを選択すると、最適な画像品質になるようにビデオが調整されます。
 - [Quick sense video mode] (クイック検出ビデオ モード)
このオプションを使用すると、クイック ビデオ自動検出が使用され、ターゲットのビデオがより早く表示されます。このオプションは、再起動直後のターゲット サーバの BIOS 設定を入力するときに特に有効です。
 5. 設定を適用してダイアログ ボックスを閉じるには、[OK] をクリックします。ダイアログ ボックスを閉じずに設定を適用するには、[Apply] (適用) をクリックします。


注: 一部の Sun サーバでは、ある種の Sun 背景画面 (外周部が非常に暗いものなど) が中央の位置に正確に表示されない場合があります。別の背景を使用するか、画面の左上隅に明るい色のアイコンを配置してください。



ターゲット コマンドによるスクリーンショット (ターゲット スクリーンショット)

[Screenshot from Target server] (ターゲット サーバのスクリーンショット) コマンドを使用すると、ターゲット サーバのスクリーンショットを取得できます。必要に応じて、このスクリーンショットを、選択した場所にビットマップ、JPEG、または PNG ファイルとして保存します。

▶ ターゲット サーバのスクリーンショットを取得するには、以下の手順に従います。

1. [Video] (ビデオ) の [Screenshot from Target server] (ターゲット サーバのスクリーンショット) を選択するか、ツールバーの [Target Screenshot] (ターゲット スクリーンショット) ボタン  をクリックします。
2. [Save] (保存) ダイアログ ボックスで、ファイルを保存する場所を選択し、ファイルに名前を付け、[Files of type] (ファイルの種類) ドロップダウン リストからファイル形式を選択します。

3. [Save] (保存) をクリックしてスクリーンショットを保存します。

マウス オプション

デュアル マウス モードでオプションが適切に設定されている場合、2 つのマウス カーソルは同調します。

デュアル マウス モードで、ターゲット サーバを制御しているとき、リモート コンソールには、2 つのマウス カーソルが表示されます。1 つは KX III クライアント ワークステーションのマウス カーソルで、もう 1 つはターゲット サーバのマウス カーソルです。

この場合、シングル マウス モードとデュアル マウス モードのどちらかを使用できます。

デバイスでは、2 つのマウス カーソルが存在するときに以下のマウス モードが提供されます。

- Absolute (ずれない) (マウス同期)
- Intelligent (インテリジェント) (マウス モード)
- Standard (標準) (マウス モード)

マウス ポインタが KVM Client ターゲット サーバ ウィンドウ内にある場合、マウスの動作やクリックは、接続されているターゲット サーバに直接送信されます。

クライアントのマウス ポインタは、マウスの加速設定により、動作がわずかにターゲット マウス ポインタより先行します。

高速 LAN 接続では、シングル マウス モードでターゲット サーバのポインタのみを表示できます。

この 2 つのモード (シングル マウスとデュアル マウス) は自由に切り替えることができます。

デュアル マウス モード

ずれないマウス モード

このモードでは、ターゲット マウスの加速または速度が異なる値に設定されている場合でも、クライアントとターゲットのカーソルを同期するために絶対座標が使用されます。

このモードは USB ポートを備えたサーバでサポートされ、仮想メディア CIM のデフォルトのモードです。

ずれないマウス モード では、仮想メディア CIM を使用する必要があります。

- D2CIM-VUSB
- D2CIM-DVUSB
- D2CIM-DVUSB-DVI
- D2CIM-DVUSB-HDMI
- D2CIM-DVUSB-DP

▶ **ずれないマウス モードに切り替えるには、以下の手順に従います。**

- [Mouse] (マウス) の [Absolute] (ずれない) を選択します。

キーボードおよびマウスには、DVUSB CIM の黒のコネクタが使用されています。グレーのコネクタは、仮想メディアに使用します。

CIM の両方のプラグをデバイスに接続したままにします。両方のプラグがターゲット サーバに接続されていない場合は、デバイスが正しく動作しないことがあります。

インテリジェント マウス モード

デバイスでは、インテリジェント マウス モードにおいて、ターゲットのマウス設定を検出し、それに応じてマウス カーソルを同期できるので、ターゲットでマウスの加速を設定できます。インテリジェント マウス モードは、VM ターゲット以外のデフォルトです。

インテリジェント マウス モードへの切り替え

▶ **インテリジェント マウス モードに切り替えるには、以下の手順に従います。**

- [Mouse] (マウス) の [Intelligent] (インテリジェント) を選択します。

インテリジェント マウス同期の条件

[Mouse] (マウス) メニューにある [Intelligent Mouse Synchronization] (インテリジェント マウス同期) コマンドを選択すると、マウスが動いていないときにマウス カーソルが自動的に同期されます。この機能を適切に動作させるには、次の条件が満たされている必要があります。

- ターゲットにおいて、アクティブ デスクトップが無効であること。
- ターゲット ページの左上隅にウィンドウが表示されていないこと。
- ターゲット ページの左上隅にアニメーション背景が表示されていないこと。
- ターゲットのマウス カーソルが通常のものであり、アニメーションカーソルでないこと。
- ターゲット マウスの速度が、非常に遅い値や非常に速い値に設定されていないこと。
- [ポインタの精度を高める] や [ポインタを自動的に既定のボタン上に移動する] などの高度なマウス プロパティが無効であること。
- [ビデオ設定] ウィンドウで [最適ビデオ モード] を選択していること。
- ターゲットのビデオの外周部が明確に表示されていること (つまり、ターゲットのビデオ画像の端にスクロールしたときに、ターゲット デスクトップとリモート KVM コンソール ウィンドウの間に黒いボーダーが表示されている必要があります)。
- インテリジェント マウス同期機能を使用中に、デスクトップの左上隅にファイル アイコンやフォルダ アイコンがあると、この機能が正しく動作しない可能性があります。この機能での問題を避けるために、デスクトップの左上隅にファイル アイコンやフォルダ アイコンを置かないことを推奨します。

ターゲット ビデオが自動検出された後で、ツール バーの [Synchronize Mouse] (マウス同期) ボタンをクリックして、手動でマウス同期を開始する必要があります。ターゲットの解像度に変更された場合や、マウス カーソルが互いに同期しなくなった場合にも、この操作を行います。

インテリジェント マウス同期が失敗した場合、標準マウス同期と同じ動作になります。

マウス設定は、ターゲットのオペレーション システムによって異なります。詳細については、使用する OS のマニュアルを参照してください。また、インテリジェント マウス同期は UNIX ターゲットでは機能しません。

標準マウス モード


標準マウス モードは、相対マウス位置を使用した標準のマウス同期アルゴリズムです。標準マウス モードを使用する場合、クライアントとサーバのカーソルが同期するように、マウスの加速を無効にし、マウスに関連するその他のパラメータを適切に設定する必要があります。

▶ **標準マウス モードに切り替えるには、以下の手順に従います。**

- [Mouse] (マウス) の [Standard] (標準) を選択します。

マウス同期のヒント


マウス同期に問題がある場合は、以下の手順に従います。

1. 選択したビデオ解像度と垂直走査周波数がデバイスでサポートされていることを確認します。[KVM Client Connection Info] (KVM Client 接続情報) ダイアログ ボックスには、デバイスの表示で使用している実際の値が表示されます。
2. [KVM Client auto-sense] (KVM Client の自動検出) ボタンをクリックして自動検出を強制します。
3. 以上の手順で Linux、UNIX、Solaris KVM ターゲット サーバのマウス同期が改善しない場合は、以下の手順に従います。
 - a. ターミナル ウィンドウを開きます。
 - b. 次のコマンドを入力します。 `xset mouse 1 1`
 - c. ターミナル ウィンドウを閉じます。
4. [KVM Client mouse synchronization] (KVM Client マウス同期) ボタン  をクリックします。

マウスの同期

デュアル マウス モードで [Synchronize Mouse] (マウスの同期) コマンドを使用すると、ターゲット サーバのマウス ポインタと KVM Client のマウス ポインタとの同期化が再実行されます。

▶ **マウスを同期するには、次のいずれかの手順に従います。**


- [Mouse] (マウス) の [Synchronize Mouse] (マウスの同期) を選択するか、ツールバーの [Synchronize Mouse] (マウスの同期) ボタン  をクリックします。

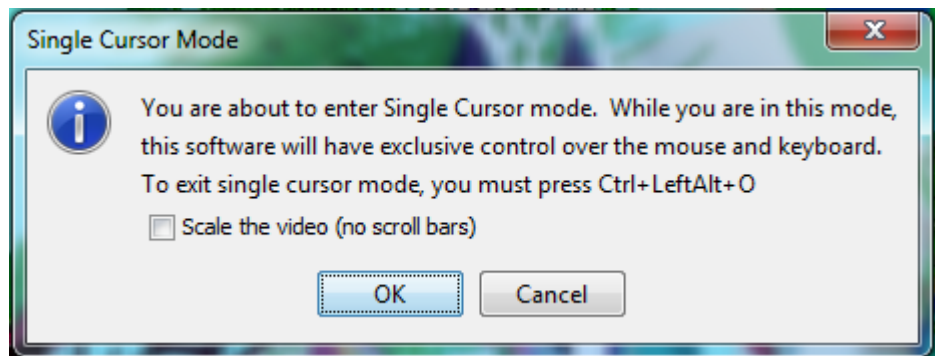
注: このオプションは、標準マウス モードとインテリジェント マウス モードでのみ使用可能です。

シングル マウス モード

シングル マウス モードでは、ターゲット サーバのマウス カーソルだけを使用します。ローカル マウス ポインタは画面に表示されません。

注:クライアントが仮想マシン上で実行している場合、シングル マウス モードは Windows および Linux のターゲットでは機能しません。

- ▶ シングル マウス モードにするには、次のいずれかの手順に従います。
 - [Mouse] (マウス) の [Single Mouse Cursor] (シングル マウス カーソル) を選択します。
 - ツール バーの [Single/Double Mouse Cursor] (シングル/ダブル マウス カーソル) ボタン  をクリックします。



- ▶ シングル マウス モードを終了するには、以下の手順に従います。
 1. シングル マウス モードを終了するには、キーボードの Ctrl+Alt+O を押します。

ツール オプション

[General Settings] (全般)

- ▶ ツール オプションを設定するには、以下の手順に従います。
 1. [Tools] (ツール) メニューの [Options] (オプション) を選択します。
[Options] (オプション) ウィンドウが表示されます。
 2. テクニカル サポートから指示されたときだけ、[Enable Logging] (ログ記録を有効にする) チェックボックスをオンにします。
このオプションをオンにすると、ホーム ディレクトリにログ ファイルが作成されます。
 3. 必要に応じて、ドロップダウン リストからキーボードの種類を選択します。

含まれるオプションは次のとおりです。

- [US/International] (アメリカ英語/国際)
- [French (France)] (フランス語 (フランス))
- [German (Germany)] (ドイツ語 (ドイツ))
- 日本語
- [United Kingdom] (イギリス英語)
- [Korean (Korea)] (韓国語 (韓国))
- [French (Belgium)] (フランス語 (ベルギー))
- [Norwegian (Norway)] (ノルウェー語 (ノルウェー))
- [Portuguese (Portugal)] (ポルトガル語 (ポルトガル))
- [Danish (Denmark)] (デンマーク語 (デンマーク))
- [Swedish (Sweden)] (スウェーデン語 (スウェーデン))
- [German (Switzerland)] (ドイツ語 (スイス))
- [Hungarian (Hungary)] (ハンガリー語 (ハンガリー))
- [Spanish (Spain)] (スペイン語 (スペイン))
- [Italian (Italy)] (イタリア語 (イタリア))
- スロベニア語
- [Translation: French - US] (変換: フランス語 - アメリカ英語)
- [Translation: French - US International] (変換: フランス語 - アメリカ英語/国際)

AKC では、デフォルトのキーボードの種類はローカル クライアントであるため、このオプションは適用されません。

4. ホットキーを設定します。

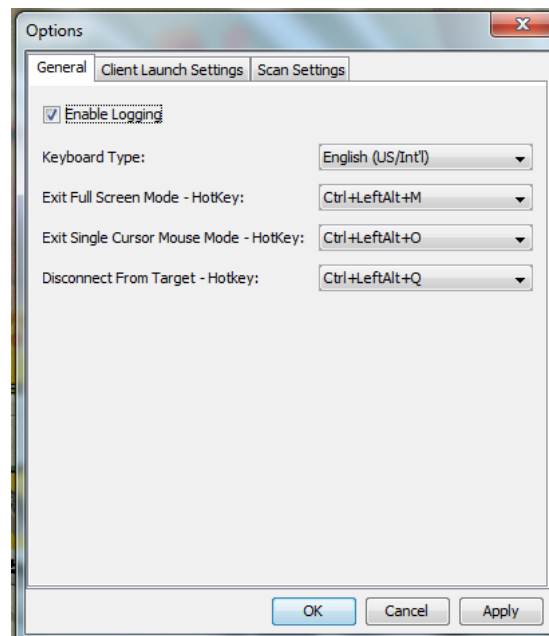
- [Exit Full Screen Mode - Hotkey] (全画面モードの終了 - ホットキー)。
全画面モードに切り替えると、ターゲット サーバの表示が全画面表示になり、ターゲット サーバと同じ解像度が取得されます。これは、このモードを終了するためのホットキーです。
- [Exit Single Cursor Mode - Hotkey] (シングル カーソル モードの終了 - ホットキー)。
シングル カーソル モードに入ると、ターゲット サーバのマウス カーソルのみが表示されます。これは、シングル カーソル モードを終了して、クライアント マウス カーソルに戻るために使用するホットキーです。
- [Disconnect from Target - Hotkey] (ターゲットから切断 - ホットキー)。
このホットキーを有効にすると、ターゲットからすばやく切断できます。

アプリケーションでは、同じホットキーの組み合わせを複数の機能に割り当てることはできません。

たとえば、Q が既に [Disconnect from Target] (ターゲットから切断) 機能に割り当てられている場合、それを [Exit Full Screen Mode] (全画面モードの終了) 機能に割り当てることはできません。

さらに、ホットキーがアップグレードによってアプリケーションに追加されたときにそのキーのデータ値が既に使用されていた場合は、次に利用できる値が、代わりにその機能に適用されます。

5. [OK] をクリックします。



キーボードの制限

トルコ語キーボード

トルコ語のキーボードを使用している場合は、Active KVM Client (AKC) を介してターゲット サーバに接続する必要があります。他の Raritan クライアントではサポートされていません。

スロベニア語キーボード

JRE の制限により、< キーは、スロベニア語キーボードでは機能しません。

Linux での言語設定

Linux 上の Sun JRE では、システムの環境設定を使用して設定される外国語のキーボードで正しいキー イベントを生成する際に問題があるので、外国語キーボードは、次の表で説明する方法を使用して設定することをお勧めします。

言語	設定方法
アメリカ英語/ 国際	デフォルト設定
フランス語	Keyboard Indicator
ドイツ語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
日本語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
イギリス英語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
韓国語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
ベルギー語	Keyboard Indicator
ノルウェー語	Keyboard Indicator
デンマーク語	Keyboard Indicator
スウェーデン 語	Keyboard Indicator
ハンガリー語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
スペイン語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
イタリア語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
スロベニア語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
ポルトガル語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)

注: デスクトップ環境として *Gnome* を使用している *Linux* システムでは、*Keyboard Indicator* を使用してください。

クライアント起動設定

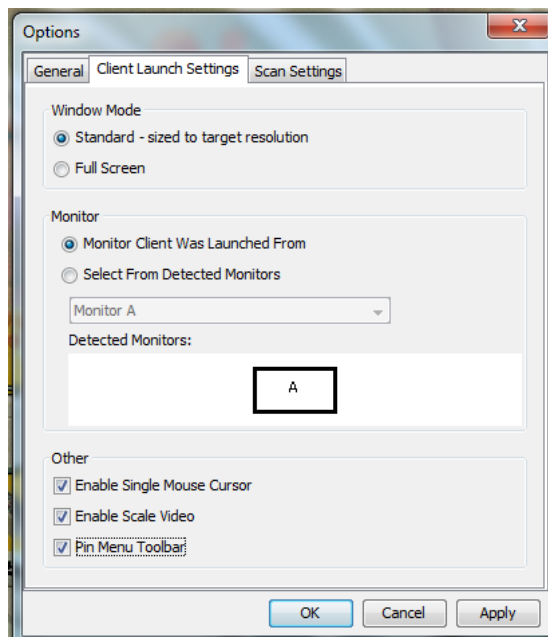
クライアント起動設定をカスタマイズすると、KVM セッションにおける画面設定を定義できます。

▶ **クライアント起動設定をカスタマイズするには、以下の手順に従います。**

1. [Tools] (ツール) メニューの [Options] (オプション) を選択します。
[Options] (オプション) ウィンドウが表示されます。
2. [Client Launch Settings] (クライアント起動設定) タブをクリックします。
 - ターゲット ウィンドウ設定をカスタマイズするには

- a. ターゲットの現在の解像度に合ったサイズのウィンドウを開くには、[Standard - sized to target Resolution] (標準 - ターゲットの解像度に合わせる) を選択します。ターゲットの解像度がクライアントの解像度よりも高い場合、画面全体にターゲット ウィンドウが表示され、表示しきれない部分がある場合は、スクロールバーが追加表示されます。
- b. ターゲット ウィンドウを全画面モードで開くには、[Full Screen] (全画面) を選択します。
 - ターゲット ビューアが起動するモニタをカスタマイズするには
 - a. クライアント上で使用されているアプリケーション (例: Web ブラウザ、アプレット) を表示しているモニタでターゲット ビューアを起動するには、[Monitor Client Was Launched From] (クライアントが起動されているモニタ) を選択します。
 - b. アプリケーションによって現在検出されているモニタの一覧から選択するには、[Select From Detected Monitors] (検出されたモニタの中から選択) を選択します。以前選択したモニタが検出されなくなった場合、"Currently Selected Monitor Not Detected" (現在選択されているモニタが検出されませんでした) というメッセージが表示されます。
 - 追加の起動設定をカスタマイズするには、以下の手順に従います。
 - a. サーバにアクセスされたときにデフォルト マウス モードとしてシングル マウス モードを有効にするには、[Enable Single Cursor Mode] (シングル カーソル モードを有効にする) を選択します。
 - b. ターゲット サーバにアクセスされたときに、表示サイズを自動的に拡大、縮小するには、[Enable Scale Video] (ビデオの拡大、縮小を有効にする) を選択します。
 - c. 全画面モードの場合でもターゲットのツールバーを表示したままにする場合は、[Pin Menu Toolbar] (メニュー ツールバーを常に表示) を選択します。デフォルトでは、ターゲットが全画面モードの場合、メニューは、マウスを画面上部に移動した場合のみ表示されます。

3. [OK] をクリックします。



VKC および AKC でのポート スキャンの設定

VKC および AKC でのポート スキャンの設定は、KX III リモート コンソールからのスキャンに適用されます。

ローカル コンソールのポート スキャン オプションを設定するには、「**ローカル コンソール スキャンの設定**『101p.』」を参照してください。

選択したターゲットを検索してそれをスライド ショー ビューで表示するポート スキャン機能を使用すると、最大 32 のターゲットを一度にモニタできます。

ターゲットに接続することも、必要に応じて特定のターゲットをフォーカスすることもできます。スキャン対象は、標準ターゲット、ブレード サーバ、カスケード接続 Dominion デバイス、KVM スイッチの各ポートです。

Virtual KVM Client (VKC) または Active KVM Client (AKC) からスキャン設定を指定します。

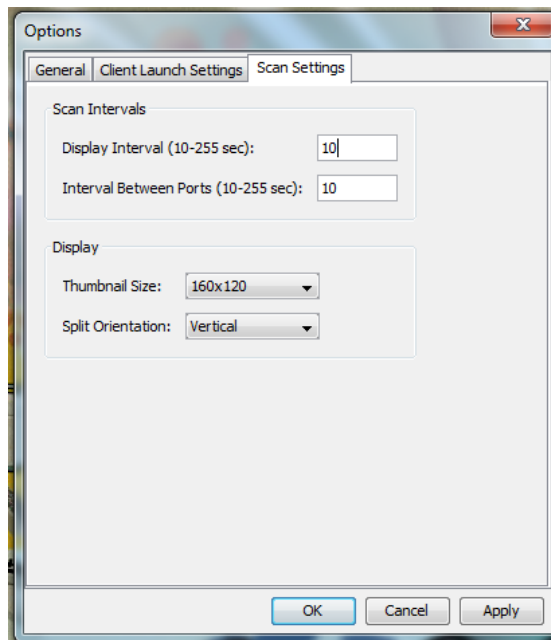
「**ポートのスキャン - リモート コンソール**『83p.』」を参照してください。

[Scan Settings] (スキャン設定) タブを使用して、スキャン間隔およびデフォルト表示オプションをカスタマイズします。

ポート スキャンの設定

▶ スキャン設定をカスタマイズするには、以下の手順に従います。

1. [ツール] メニューの [オプション] を選択します。[オプション] ウィンドウが表示されます。
2. [スキャン設定] タブを選択します。
3. [表示間隔 (10 ~ 255 秒):]: フィールドで、フォーカスを持つターゲットを [ポート スキャン] ウィンドウの中央に表示する秒数を指定します。
4. [Interval Between Ports (10 - 255 sec):] (ポート間の間隔 (10 ~ 255 秒):) フィールドで、ポート間でデバイスを一時停止する間隔を指定します。
5. [表示] セクションで、[ポート スキャン] ウィンドウのサムネイルのサイズと分割方向のデフォルト表示オプションを変更します。
6. [OK] をクリックします。



表示オプション

[View Toolbar] (ツール バーの表示)

Virtual KVM Client では、ツール バーの表示/非表示を切り替えることができます。

- ▶ ツール バーの表示/非表示 (オン/オフ) を切り替えるには、以下の手順に従います。
- [View] (表示) の [View Toolbar] (ツール バーの表示) を選択します。

[View Status Bar] (ステータス バーの表示)

デフォルトでは、ステータス バーはターゲット ウィンドウの下部に表示されます。

- ▶ ステータス バーを非表示にするには、以下の手順に従います。
- [View] (表示) の [Status Bar] (ステータス バー) をクリックして選択解除します。
- ▶ ステータス バーを復元するには、以下の手順に従います。
- [View] (表示) の [Status Bar] (ステータス バー) をクリックして選択します。

[Scaling] (拡大、縮小)

ターゲットのウィンドウを拡大、縮小することで、ターゲット サーバ ウィンドウ全体の内容を表示することができます。

Virtual KVM Client のウィンドウ サイズに合わせて、縦横比を維持したまま、ターゲット ビデオのサイズを拡大または縮小することができるため、スクロール バーを使用することなくターゲット サーバのデスクトップ全体を表示することができます。

- ▶ 拡大、縮小 (オン/オフ) を切り替えるには、以下の手順に従います。
- [View] (表示) の [Scaling] (拡大、縮小) を選択します。

[Full Screen Mode] (全画面モード)


全画面モードに切り替えると、ターゲットの全画面が表示され、ターゲット サーバと同じ解像度になります。

このモードを終了するためのホットキーは、[Options] (オプション) ダイアログ ボックスで指定します。「**ツール オプション 『47p.』**」を参照してください。

全画面モードになっているときに、マウス ポインタを画面上端に移動すると、全画面モード メニュー バーが表示されます。

全画面モードの場合でもメニュー バーを表示したままにする場合は、[Tool] (ツール) の [Options] (オプション) ダイアログ ボックスの [Pin Menu Toolbar] (メニュー ツールバーを常に表示) を有効にします。「**ツール オプション 『47p.』**」を参照してください。

▶ 全画面モードに切り替えるには、以下の手順に従います。

- [View] (表示) の [Full Screen] (全画面) を選択するか、[Full Screen] (全画面) ボタン  をクリックします。

▶ 全画面モードを終了するには、以下の手順に従います。

- [Tool] (ツール) の [Options] (オプション) ダイアログで設定されているホットキーを押します。デフォルトは Ctrl+Alt+M です。

常に全画面モードの状態でもターゲットにアクセスしたい場合、全画面モードをデフォルトにすることができます。

▶ 全画面モードをデフォルトに設定するには

1. [Tools] (ツール) メニューの [Options] (オプション) をクリックし、[Options] (オプション) ダイアログ ボックスを開きます。
2. [Enable Launch in Full Screen Mode] (全画面モードで起動する) を選択し、[OK] (OK) をクリックします。

仮想メディア

すべての KX III モデルにおいて仮想メディアがサポートされています。KVM の機能を拡張する仮想メディアにより、クライアント PC やネットワーク ファイル サーバ上のメディアにリモートのターゲット サーバからアクセスできるようになります。

この機能を使用すると、クライアント PC やネットワーク ファイル サーバでマウントされたメディアが、ターゲット サーバでも仮想的にマウントされます。これにより、そのメディアはターゲット サーバ自体に物理的に接続されているような形で読み書きできるようになります。

それぞれの KX III は仮想メディアに対応しているので、CD、DVD、USB、音声再生および録音デバイス、内部およびリモート ドライブ、イメージなどのいろいろなデバイスを使用したりリモート管理タスクが可能です。

仮想メディアのセッションは、128 または 256 ビットの AES または RC4 暗号化によって保護されます。

仮想メディアを使用するための条件

KX III の前提条件

- 仮想メディアへのアクセスを要求するユーザに対して、該当するポートへのアクセスや、これらのポートの仮想メディア アクセス (VM アクセス ポート権限) を許可するように KX III を設定する必要があります。ポート権限はグループレベルで設定されます。
- デバイスとターゲット サーバ間に USB 接続が存在する必要があります。
- PC 共有を使用する場合は、[Security Settings] (セキュリティ設定) ページでセキュリティ設定を有効にする必要があります。(オプション)
- 接続先の KVM ターゲット サーバの適切な USB プロファイルを選択する必要があります。

リモート PC

- 仮想メディアの一部のオプションを使用するには、リモート PC に対する管理者特権が必要です (ドライブ全体のドライブ リダイレクト機能など)。

注: Microsoft Vista または Windows 7 を使用している場合は、[ユーザアカウント制御] を無効にするか、Internet Explorer を起動するときに [管理者として実行] を選択しますこのためには、[スタート] メニューの [Internet Explorer] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

ターゲット サーバ

- KVM ターゲット サーバは USB 接続のドライブをサポートする必要があります。
- USB 2.0 ポートの方が高速なため、推奨されます。

仮想メディアに必要な CIM

次のいずれかの CIM を使用して仮想メディアを利用する必要があります。

- D2CIM-VUSB
- D2CIM-DVUSB
- D2CIM-DVUSB-DVI
- D2CIM-DVUSB-HDMI
- D2CIM-DVUSB-DP

キーボードおよびマウスには、DVUSB CIM の黒のコネクタが使用されています。グレーのコネクタは、仮想メディアに使用します。

CIM の両方のプラグをデバイスに接続したままにします。両方のプラグがターゲット サーバに接続されていない場合は、デバイスが正しく動作しないことがあります。

ローカル ドライブのマウント

このオプションを使用すると、ドライブ全体がマウントされます。つまり、クライアントコンピュータのディスク ドライブ全体がターゲット サーバに仮想的にマウントされます。

このオプションは、ハード ディスク ドライブと外部ドライブにのみ使用してください。ネットワーク ドライブ、CD-ROM ドライブ、または DVD-ROM ドライブは対象外です。

ローカル ドライブのマウントに関する留意事項

Windows XP® オペレーティング システムが稼動している KVM ターゲット サーバでは、NTFS 形式のパーティション (ローカル C ドライブなど) がリダイレクトされた後で新しいマス ストレージ接続を行うことができない場合があります。

その場合には、リモート コンソールを閉じて再接続した後で、別の仮想メディア デバイスをリダイレクトしてください。同じターゲット サーバに別のユーザーが接続している場合、そのユーザーの接続も閉じる必要があります。

仮想メディアによりサポートされているタスク

仮想メディアを使用することで、以下のような作業をリモートから実行できるようになります。

- ファイルの転送
- 診断の実行
- アプリケーションのインストールと修正パッチ (patch) の適用
- オペレーティング システムの完全インストール
- デジタル音声の録音および再生

サポートされている仮想メディア タイプ

Windows®、Mac®、Linux™ の各クライアントでは、以下の仮想メディア タイプがサポートされています。

- 内蔵ハード ディスク ドライブおよび外付けハード ディスク ドライブ
- 内蔵または USB マウントされた CD ドライブや DVD ドライブ
- USB マス ストレージ デバイス
- PC ハード ディスク ドライブ
- ISO イメージ (ディスク イメージ)
- デジタル音声デバイス*

注: ラリタンは ISO9660 を標準でサポートしています。ただし、他の ISO 標準も使用できます。

読み取り/書き込み可能に設定できない状況

以下の場合、仮想メディアを読み取り/書き込み可能にすることはできません。

- Linux® および Mac® の各クライアント
- ドライブが書き込み保護されている場合
- ユーザに読み取り/書き込みの権限がない場合。
 - ポート権限の [Access] (アクセス) が [None] (なし) または [View] (表示) に設定されている場合。
 - ポート権限の [VM Access] (VM アクセス) が [Read-Only] (読み取り専用) または [Deny] (拒否) に設定されている場合。

サポートされている仮想メディア オペレーティング システム

サポートされているクライアント オペレーティング システムは次のとおりです。

- Windows® 7 オペレーティング システム
- Windows 8 オペレーティング システム
- Windows XP® オペレーティング システム
- openSUSE® 11.4 Celadon (x86_64)
- Fedora® 18
- RHEL® 6.4
- OSX Mountain Lion® 10.7 (以降)
- Solaris® 10

Active KVM Client (AKC) を使用して仮想メディア タイプをマウントできますが、Windows オペレーティング システムのみが対象となります。

サポートされている仮想メディア ドライブ数

仮想メディア機能を使用する場合、現在ターゲットに適用されている USB プロファイルでサポートされている異なる種類のドライブを 2 台までマウントできます。このドライブは、KVM セッションの間のみアクセスできます。

たとえば、特定の CD-ROM をマウントして、それを使用し、作業が終了したら切断することができます。それでも、別の CD-ROM を仮想的にマウントできるように、この CD-ROM 仮想メディアの“チャンネル”は開いたままになります。このような仮想メディアの“チャンネル”は、USB プロファイルがサポートしている限り、KVM セッションが閉じられるまで開いたままになっています。

仮想メディアを使用するには、ターゲット サーバからアクセスできるようにするメディアを、クライアントまたはネットワーク ファイル サーバに接続します。


この手順を最初に行う必要はありませんが、このメディアにアクセスする前に行う必要があります。

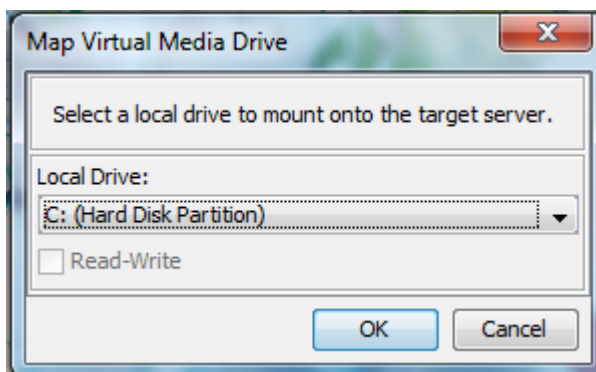
仮想メディアの接続および切断

クライアント コンピュータの仮想メディア ドライブへのアクセス

▶ クライアント コンピュータの仮想メディア ドライブにアクセスするには、以下の手順に従います。

1. Virtual KVM Client で、[Virtual Media] (仮想メディア) の [Connect Drive] (ドライブの接続) を選択するか、[Connect Drive...] (ドライブ

の接続...) ボタン  をクリックします。[Map Virtual Media Drive] (仮想メディア ドライブの割り当て) ダイアログ ボックスが表示されます。



2. [Local Drive] (ローカル ドライブ) ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。

読み取りと書き込みの機能が必要な場合には、[Read-Write] (読み取り/書き込み可能) チェックボックスをオンにします。

このオプションは、リムーバブル ドライブ以外では無効になっています。詳細は、「[読み取り/書き込み可能に設定できない状況](#)」『58p. 』を参照してください。

このチェックボックスをオンにすると、接続した USB ディスクに読み取りと書き込みを実行できるようになります。

警告: 読み取り/書き込みアクセスを有効にすると危険な場合があります。同じドライブに対して同時に複数のクライアント PC からアクセスすると、データが壊れる恐れがあります。書き込みアクセスが不要な場合は、このオプションをオフのままにしてください。


3. [OK] をクリックします。メディアがターゲット サーバに仮想的にマウントされます。このメディアには、他のドライブとまったく同じようにアクセスすることができます。

CD-ROM/DVD-ROM/ISO イメージのマウント

このオプションを使用して、CD-ROM、DVD-ROM、ISO イメージをマウントします。

注: Raritan は ISO9660 形式を標準でサポートしています。ただし、その他の CD-ROM 拡張でも動作します。

▶ **CD-ROM、DVD-ROM、ISO イメージにアクセスするには、以下の手順に従います。**

1. Virtual KVM Client で、[Virtual Media] (仮想メディア) の [Connect CD-ROM/ISO Image] (CD-ROM/ISO イメージに接続) を選択するか、
 [Connect CD-ROM/ISO] (CD-ROM/ISO に接続) ボタン  をクリックします。[Map Virtual Media CD/ISO Image] (仮想メディア CD/ISO イメージの割り当て) ダイアログ ボックスが表示されます。
2. 内部および外部の CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブの場合
 - a. [Local CD/DVD Drive] (ローカル CD/DVD ドライブ) を選択します。
 - b. [Local CD/DVD Drive] (ローカル CD/DVD ドライブ) ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。使用可能なすべての内部/外部の CD ドライブおよび DVD ドライブの名前が、ドロップダウン リストに表示されます。
 - c. [接続] をクリックします。
3. ISO イメージの場合
 - a. [ISO Image] (ISO イメージ) オプションを選択します。CD、DVD、またはハード ディスクのディスク イメージにアクセスする場合に、このオプションを使用します。サポートされる形式は ISO 形式のみです。
 - b. [Browse] (参照) をクリックします。
 - c. 使用するディスク イメージが含まれるパスを指定して、[Open] (開く) をクリックします。パスが [Image Path] (イメージのパス) フィールドに入力されます。
 - d. [接続] をクリックします。
4. ファイル サーバ上のリモート ISO イメージの場合
 - a. [Remote Server ISO Image] (リモート サーバの ISO イメージ) オプションを選択します。
 - b. ドロップダウン リストから、ホスト名とイメージを選択します。ファイル サーバとイメージ パスは、[File Server Setup] (ファイル サーバのセットアップ) ページを使用して設定できます。[File Server Setup] (ファイル サーバのセットアップ) ページで設定した項目がドロップダウン リストに表示されます。

- c. [File Server Username] (ファイル サーバ ユーザ名) - ファイルサーバへのアクセスに必要なユーザ名です。名前には、mydomain/username のようにドメイン名を含めることができます。
- d. [File Server Password] (ファイル サーバ パスワード) - ファイルサーバへのアクセスに必要なパスワードです (入力時、フィールドはマスクされます)。
- e. [接続] をクリックします。
メディアがターゲット サーバに仮想的にマウントされます。このメディアには、他のドライブとまったく同じようにアクセスすることができます。

注:Linux® ターゲット上のファイル进行操作する場合、仮想メディアを使用してコピーしたファイルを表示するには、コピー後に Linux の Sync コマンドを使用します。Sync コマンドを実行するまではファイルを表示できません。

注:Windows 7® オペレーティング システム® を使用している場合、デフォルトでは、ローカル CD/DVD ドライブまたはリモート ISO イメージをマウントしたとき、リムーバブル ディスクは Windows の [マイ コンピュータ] フォルダに表示されません。ローカル CD/DVD ドライブまたはリモート ISO イメージをこのフォルダに表示するには、[ツール] メニューの [フォルダ オプション] をクリックし、[空のドライブは [コンピュータ] フォルダに表示しない] チェック ボックスをオフにします。

注: サードパーティ ソフトウェアの技術的な制限により、IPv6 アドレスを使用して仮想メディア経由でリモート ISO イメージにアクセスすることはできません。

仮想メディア ドライブの切断

▶ **仮想メディア ドライブを切断するには、以下の手順に従います。**

- ローカル ドライブの場合は、[Virtual Media] (仮想メディア) の [Disconnect Drive] (ドライブの切断) を選択します。
- CD-ROM、DVD-ROM、ISO イメージの場合は、[Virtual Media] (仮想メディア) の [Disconnect CD-ROM/ISO Image] (CD-ROM/ISO イメージの切断) を選択します。

注:切断コマンドを使用する方法だけでなく、KVM 接続を閉じてでも仮想メディアが切断されます。

Windows XP 環境での仮想メディア

Virtual KVM Client または Active KVM Client を Windows® XP 環境で実行している場合、CD-ROM 接続、ISO、および ISO イメージを除く仮想メディア タイプにアクセスするには、ユーザに管理者権限が必要です。

Linux 環境での仮想メディア

アクティブ システム パーティション

Linux クライアントからアクティブ システム パーティションをマウントすることはできません。

Linux Ext3/4 ドライブ パーティションは、仮想メディアを接続する前に `umount /dev/<device label>` でアンマウントしておく必要があります。

ドライブ パーティション

オペレーティング システム間のドライブ パーティションの制限は、以下のとおりです。

- Windows® および Mac の各ターゲットでは Linux 形式のパーティションの読み取りはできない
- Windows および Linux では Mac 形式のパーティションの読み取りはできない
- Linux でサポートされているのは Windows Fat パーティションのみ

root ユーザ権限の要件

Linux クライアントからターゲットに CD ROM をマウントし、その後 CD ROM のマウントを解除する場合は、仮想メディア接続が切断されることがあります。

この問題を回避するには、root ユーザであることが必要です。

Mac 環境での仮想メディア

アクティブ システム パーティション

仮想メディアを使用して、Mac クライアントのアクティブ システム パーティションをマウントすることはできません。

ドライブ パーティション

オペレーティング システム間のドライブ パーティションの制限は、以下のとおりです。

- Windows® および Mac の各ターゲットでは Linux 形式のパーティションの読み取りはできない
- Windows では Mac 形式のパーティションの読み取りはできない
- Windows FAT および NTFS は Mac でサポートされている
- Mac ユーザがターゲットサーバに接続するためには、既にマウントされているデバイスをアンマウントする必要があります。デバイスをアンマウントするには、`>diskutil umount /dev/disk1s1` を使用し、再マウントするには、`diskutil mount /dev/disk1s1` を使用します。

仮想メディア ファイル サーバのセットアップ (ファイル サーバ ISO イメージの場合のみ)

この機能は、仮想メディアを使用してファイル サーバ ISO イメージにアクセスする場合にのみ必要です。Raritan は ISO9660 形式を標準でサポートしています。ただし、その他の CD-ROM 拡張でも動作します。

注:ファイル サーバには、SMB/CIFS のサポートが必要です。

リモート コンソールの [File Server Setup] (ファイル サーバのセットアップ) ページで、仮想メディアを使用してアクセスするファイル サーバとイメージのパスを指定します。ここで指定されたファイル サーバ ISO イメージは、[Remote Server ISO Image] (リモート サーバの ISO イメージ) で [Hostname] (ホスト名) および [Image] (イメージ) ドロップダウンリスト ([Map Virtual Media CD/ISO Image] (仮想メディア CD/ISO イメージの割り当て) ダイアログ ボックス) の選択肢として表示されます。「[CD-ROM/DVD-ROM/ISO イメージのマウント 『61p.』](#)」を参照してください。

▶ **仮想メディアとしてアクセスするファイル サーバ ISO イメージを指定するには、以下の手順に従います。**

1. リモート コンソールから仮想メディアを選択します。[File Server Setup] (ファイル サーバのセットアップ) ページが開きます。
2. 仮想メディアとしてアクセスするすべてのメディアについて、[Selected] (選択) チェックボックスをオンにします。
3. アクセスするファイル サーバ ISO イメージに関する情報を入力します。
 - [IP Address/Host Name] (IP アドレス/ホスト名) - ファイル サーバのホスト名または IP アドレスです。
 - [Image Path] (イメージのパス) - ISO イメージの場所を表す完全パス名です。たとえば、/sharename0/path0/image0.iso、¥sharename1¥path1¥image1.iso などです。

注:ホスト名は 232 文字以内で指定してください。

4. [Save] (保存) をクリックします。これで、指定したすべてのメディアが [Map Virtual Media CD/ISO Image] (仮想メディア CD/ISO イメージの割り当て) ダイアログ ボックスで選択できるようになりました。

注:Windows 2003® サーバに接続し、サーバから ISO イメージをロードしようとする、*「Virtual Media mounting on port failed. Unable to connect to the file server or incorrect File Server username and password」* (ポートで仮想メディアのマウントに失敗しました。ファイル サーバに接続できないか、ファイル サーバのユーザ名とパスワードが正しくありません) というエラーが表示される場合があります。このエラーが発生した場合は、*「Microsoft ネットワーク サーバー: 通信にデジタル署名を行う」* オプションを無効にします。

スマート カード

KX III を使用すると、スマート カード リーダーをターゲット サーバにマウントして、スマート カード認証および関連アプリケーションをサポートできます。

サポートされているスマート カード、スマート カード リーダー、およびシステム要件については、「**スマート カードの最小システム要件、CIM、およびサポートされているスマート カード リーダーとサポートされていないスマート カード リーダー 『65p. 』**」を参照してください。

注:USB スマート カード トークン (eToken NG-OTP) は、リモートクライアントからのみサポートされています。

ローカル コンソールからのスマート カード リーダーのマウントもサポートされます。

Dominion デバイスのヘルプの「**ローカル コンソールのスマート カード アクセス 『102p. 』**」を参照してください。

スマート カードの最小システム要件、CIM、およびサポートされているスマート カード リーダーとサポートされていないスマート カード リーダー

スマート カード リーダーを使用する前に、以下を確認してください。

- **スマート カードの最小システム要件 『131p. 』**
- **サポートされているコンピュータ インタフェース モジュール (CIM) の仕様 『125p. 』**
- **サポートされているスマート カード リーダーとサポートされていないスマート カード リーダー**

スマート カード リーダーへのアクセス時の認証

サーバにリモートでアクセスすると、接続されたスマート カード リーダーを選択し、それをサーバにマウントできます。

スマート カード認証はターゲット サーバで使用されますが、デバイスへのログインには使用されません。したがって、スマート カードの PIN と資格情報を変更するのにデバイス アカウントを更新する必要はありません。

スマート カード使用時の PC 共有モードおよびプライバシー設定

デバイスで PC 共有モードを有効にすると、複数のユーザがターゲットサーバへのアクセスを共有できます。

ただし、スマート カード リーダーがターゲットに接続されている場合は、PC 共有モードの設定にかかわらず、デバイスによってプライバシーが強化されます。

さらに、ターゲット サーバで共有セッションに加わっている場合は、ターゲット サーバへの排他的アクセスが可能になるまでスマート カード リーダーのマウントが無効になります。

スマート カード リーダーの検出

ターゲット サーバとの KVM セッションが確立されると、VKC および AKC で [Smart Card] (スマート カード) メニュー/ボタンを使用できます。

[Smart Card] (スマート カード) ボタンを選択するか、メニューから [Smart Card] (スマート カード) を選択すると、リモート クライアントに接続されているスマート カード リーダーがダイアログ ボックスに表示されます。

このダイアログ ボックスでは、追加のスマート カード リーダーを接続したり、ターゲット サーバに接続されているスマート カード リーダーのリストを更新したり、スマート カード リーダーの接続を解除したりできます。

スマート カードの取り外しと再挿入も行うことができます。この機能を使用して、適切なログイン ダイアログ ボックスを表示するために、カードの取り外しまたは再挿入が必要であるターゲット サーバの OS に通知を送信できます。通知は、他のアクティブな KVM セッションに影響を与えることなく 1 台のターゲット サーバに送信できます。


スマート カード リーダーのマウント

カード リーダーおよびスマート カードをターゲット サーバにマウントすると、サーバはそれらのリーダーやカードが直接接続されているかのように動作します。

スマート カードまたはスマート カード リーダーを取り外すと、ターゲット サーバの OS で設定されているカードの取り外しポリシーに従って、ユーザ セッションがロックされるか、またはユーザがログアウトされます。

KVM セッションが切断されるか、または新しいターゲットに切り替えたために KVM セッションが終了した場合、スマート カード リーダーはターゲット サーバから自動的にマウント解除されます。

▶ **VKC または AKC からスマート カード リーダーをマウントするには、以下の手順に従います。**

1. [Smart Card] (スマート カード) メニューをクリックし、[Smart Card Reader] (スマート カード リーダー) を選択します。または、ツールバーの [Smart Card] (スマート カード) ボタン  をクリックします。
2. [Select Smart Card Reader] (スマート カード リーダーの選択) ダイアログ ボックスでスマート カード リーダーを選択します。
3. [Mount] (マウント) をクリックします。
4. 進行状況を示すダイアログ ボックスが開きます。次回ターゲット サーバに接続したときにスマート カード リーダーを自動的にマウントするには、[Mount selected card reader automatically on connection to targets] (選択したカード リーダーをターゲットへの接続時に自動的にマウントする) チェックボックスをオンにします。[OK] をクリックして、マウント処理を開始します。

スマート カード リーダーの更新

- ▶ **[Select Smart Card Reader] (スマート カード リーダーの選択) ダイアログ ボックスのスマート カード リーダーを更新には、以下の手順に従います。**
- 新しいスマート カード リーダーがクライアント PC に接続された場合は、[Refresh List] (リストの更新) をクリックします。

スマート カードの取り外しおよび再挿入の通知の送信

- ▶ **スマート カードの取り外しおよび再挿入の通知をターゲット サーバに送信するには、以下の手順に従います。**
 - 現在マウントされているスマート カード リーダーを選択し、[Remove/Reinsert] (取り外し/再挿入) ボタンをクリックします。

スマート カード リーダーのアンマウント (取り外し)

- ▶ **スマート カード リーダーのマウントを解除するには、以下の手順に従います。**
 - マウントを解除するスマート カード リーダーを選択し、[Unmount] (マウント解除) ボタンをクリックします。

デジタル音声

KX III では、リモート クライアントのデジタル音声再生デバイスおよびキャプチャ デバイスとターゲット サーバ間のエンドツーエンドの双方向デジタル音声接続をサポートしています。

音声デバイスには、USB 接続を介してアクセスされます。

最新のデバイス ファームウェアが必要です。

次のいずれかの CIM を使用する必要があります。

- D2CIM-DVUSB
- D2CIM-DVUSB-DVI
- D2CIM-DVUSB-HDMI
- D2CIM-DVUSB-DP

Windows®、Linux®、Mac® の各オペレーティング システムがサポートされています。Virtual KVM Client (VKC) および Active KVM Client (AKC) は、オーディオ デバイスへの接続をサポートしています。

注: 音声 CD は、仮想メディアでサポートされていないので、音声機能では使用できません。

音声機能の使用を始める前に、以下のヘルプ セクションに記載されている音声関連情報を確認することを推奨します。

- **サポートされている音声デバイス形式** 『69p.』
- デュアル ポート ビデオに関する推奨事項
- サポートされているマウス モード
- デュアル ビデオ サポートに必要な CIM
- 留意事項、**音声** 『158p.』

サポートされている音声デバイス形式

KX III では、ターゲット上の再生デバイスと録音デバイスを 1 台ずつサポートします。サポートされている音声デバイス形式は次のとおりです。

- ステレオ、16 ビット、44.1K
- モノラル、16 ビット、44.1K
- ステレオ、16 ビット、22.05K
- モノラル、16 ビット、22.05K
- ステレオ、16 ビット、11.025K
- モノラル、16 ビット、11.025K

音声の再生とキャプチャに関する推奨事項と要件

音声レベル

- ターゲットの音声レベルを中域に設定します。
たとえば、Windows® クライアントでは、音声を 50 以下に設定します。

この設定は、クライアントの音声デバイス コントロールではなく、再生またはキャプチャ用の音声デバイスで行う必要があります。

PC 共有モードが有効になっている場合の音声接続に関する推奨事項

PC 共有モードでの動作中に音声機能を使用している場合は、さらに音声デバイスがターゲットに接続されると、音声の再生やキャプチャが中断されます。

たとえば、ユーザ A がターゲット 1 に再生デバイスを接続して音声再生アプリケーションを実行し、ユーザ B が同じターゲットにキャプチャデバイスを接続するとします。この場合、ユーザ A の再生セッションは中断されるので、音声アプリケーションを再起動する必要があります。この中断が発生する理由は、新しいデバイス設定で USB デバイスを再列挙する必要があるためです。

ターゲットで新しいデバイスのドライバをインストールする場合は、少し時間がかかることがあります。

音声アプリケーションは、再生の完全な停止、次のトラックへの移動、または再生の続行となる可能性があります。

正確な動作は、音声アプリケーションで切断/再接続イベントがどのように処理されるかによって異なります。

帯域幅要件

次の表は、選択した各形式で音声を転送する場合の音声再生およびキャプチャの帯域幅要件の詳細です。

音声形式	ネットワーク帯域幅要件
44.1 KHz、16 ビット ステレオ	176 kbps
44.1 KHz、16 ビット モノラル	88.2 kbps
2.05 KHz、16 ビット ステレオ	88.2 kbps
22.05 KHz、16 ビット モノラル	44.1 kbps
11.025 KHz、16 ビット ステレオ	44.1 kbps
11.025 KHz、16 ビット モノラル	音声 22.05 kbps

実際に、音声デバイスをターゲットに接続するときに使用される帯域幅は、ターゲットで音声アプリケーションを開いたり使用したりする際に消費されるキーボード データやビデオ データがあるため、広がっています。

一般的には、再生およびキャプチャを実行する前に、1.5 MB 以上の接続を維持していることを推奨します。

ただし、ターゲット画面の解像度を高くして高品質なビデオ コンテンツをフル カラー接続すると、さらに多くの帯域幅を消費するため、音声の品質が大幅に劣化します。

品質の低下を軽減できるように、帯域幅が狭い場合にビデオが音声品質に与える影響を軽減するための推奨のクライアント設定は数多くあります。

- 音声の再生を低品質の形式で接続します。帯域幅を消費するビデオによる影響は、44k よりも 11k で接続した方が大幅に減少します。
- [Connection Properties] (接続プロパティ) で、接続速度を、クライアントからサーバへの接続に最適な値に設定します。
- [Connection Properties] (接続プロパティ) で、色深度をできる限り低い値に設定します。色深度を 8 ビット カラーにすると、消費される帯域幅が大幅に減少します。
- [Smoothing] (スムージング) を [High] (高) に設定します。これにより、表示されるビデオ ノイズが減少し、ターゲット ビデオの画質が向上します。
- [Video] (ビデオ) 設定で、[Noise Filter] (ノイズ フィルタ) を最も高い設定 7 (最高値) にすると、ターゲットの画面変更に使用される帯域幅が小さくなります。

音声設定の保存

音声デバイス設定は、KX III デバイス単位で適用されます。

KX III の音声デバイス設定が指定され、保存されたら、同じ設定がそのデバイスに適用されます。

たとえば、ステレオ、16 ビット、44.1K の形式を使用するように Windows® 音声デバイスを設定できます。

さまざまなターゲットに接続してその Windows 音声デバイスを使用すると、各ターゲット サーバにはステレオ、16 ビット、44.1K の形式が適用されます。

再生デバイスおよび録音デバイスの両方について、デバイスに適用されるデバイス タイプ、デバイス形式、およびバッファ設定が保存されます。

音声デバイスの接続方法および設定方法については、「**デジタル音声デバイスの接続および切断** 『73p.』」を参照し、音声デバイスのバッファ設定については、「**キャプチャ/再生バッファ サイズの調整 (音声設定)**」を参照してください。



複数のユーザがターゲット上の同じ音声デバイスに同時にアクセスできるように、PC 共有モードおよび VM 共有モードでの動作中に音声機能を使用している場合は、セッションを開始するユーザの音声デバイス設定が、セッションに参加するすべてのユーザに適用されます。

したがって、ユーザが音声セッションに参加する場合は、ターゲット マシンの設定が使用されます。「**単一のリモート クライアントから複数のターゲットへの接続** 『72p.』」を参照してください。

単一のリモート クライアントから複数のターゲットへの接続

単一のリモート クライアントから同時に最大 4 つのターゲット サーバの音声デバイスに接続します。

音声デバイスの接続方法については、「**デジタル音声デバイスの接続および切断** 『73p.』」を参照してください。

スピーカー アイコン  がクライアント ウィンドウの下部のステータス バーに表示されます。音声を使用されていない場合、このアイコンはグレーで表示されます。スピーカー アイコンとマイク アイコン  がステータス バーに表示されている場合は、セッションがキャプチャされ、ストリーム配信されます。

注: 音声セッションが進行中の場合は、必ずセッションをアクティブなままにするか、KX III のアイドル状態のタイムアウト時間を変更して音声セッションがタイムアウトにならないようにしてください。

オペレーティング システムの音声再生サポート

次の表で、オペレーティング システムごとに音声再生/キャプチャが機能する Raritan クライアントを確認できます。

オペレーティング システム	音声再生およびキャプチャをサポートしているクライアント
Windows®	<ul style="list-style-type: none"> Active KVM Client (AKC) Virtual KVM Client (VKC)
Linux®	<ul style="list-style-type: none"> Virtual KVM Client (VKC)
Mac®	<ul style="list-style-type: none"> Virtual KVM Client (VKC)

デジタル音声デバイスの接続および切断

音声デバイス設定は、KX III デバイス単位で適用されます。


KX III の音声デバイス設定が指定され、保存されたら、同じ設定がそのデバイスに適用されます。

詳細については、「[音声設定の保存](#) [72p.]」を参照してください。

注: PC 共有モードおよび VM 共有モードでの動作中に音声機能を使用している場合、重要な情報については、「[音声の再生とキャプチャに関する推奨事項と要件](#) [69p.]」を参照してください。「[単一のリモートクライアントから複数のターゲットへの接続](#) [72p.]」も参照してください。

デジタル音声デバイスの接続

▶ **音声デバイスに接続するには、以下の手順に従います。**

1. 音声デバイスをリモート クライアント PC に接続してから、KX III とのブラウザ接続を起動します。
2. [Port Access] (ポート アクセス) ページでターゲットに接続します。
3. 接続できたら、ツールバーの [Audio] (音声) ボタン  をクリックします。

[Connect Audio Device] (音声デバイスに接続) ダイアログ ボックスが表示されます。リモート クライアント PC に接続されている利用可能な音声デバイスの一覧が表示されます。

注: リモート クライアント PC に接続されている利用可能な音声デバイスがない場合、[Audio] (音声) アイコンはグレーで表示されます。

4. 再生デバイスを接続する場合は、[Connect Playback Device] (再生デバイスを接続) をオンにします。
5. 接続するデバイスをドロップダウン リストから選択します。
6. 再生デバイスの音声形式を [Format:] (形式:) ドロップダウン リストから選択します。

注:使用する形式は、利用可能なネットワーク帯域幅に基づいて選択します。サンプリング レートが低い形式であるほど、消費する帯域幅は少なくなり、ネットワークの輻輳を許容できます。



7. 録音デバイスを接続する場合は、[Connect Recording Device] (録音デバイスを接続) をオンにします。

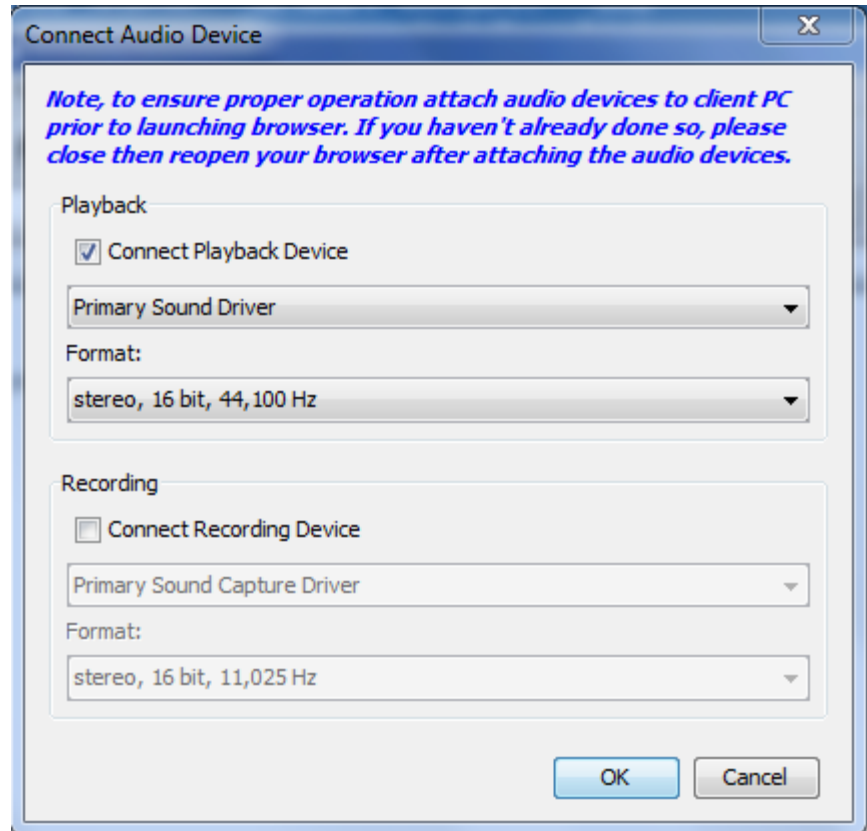
注:[Connect Recording Device] (録音デバイスを接続) ドロップダウンに表示されるデバイス名は、Java クライアント向けに 30 文字に切り捨てられます。

8. 接続するデバイスをドロップダウン リストから選択します。
9. 録音デバイスの音声形式を [Format:] (形式:) ドロップダウン リストから選択します。
10. [OK] をクリックします。音声接続が確立されると、確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

音声接続が確立されない場合は、エラー メッセージが表示されます。


音声接続が確立されると、[Audio] (音声) メニューが [Disconnect Audio] (音声の切断) に変わります。さらに、音声デバイス用の設定は保存され、音声デバイスに適用されます。

スピーカー アイコン  がクライアント ウィンドウの下部のステータス バーに表示されます。音声を使用されていない場合、このアイコンはグレーで表示されます。スピーカー アイコンとマイク アイコン  がステータス バーに表示されている場合は、セッションがキャプチャされ、ストリーム配信されます。



音声デバイスの切断

▶ 音声デバイスを切断するには、以下の手順に従います。

- ツールバーの [Audio] (音声) アイコン  をクリックし、切断を確認するダイアログ ボックスが開かれたら [OK] をクリックします。確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

キャプチャ/再生バッファ サイズの調整 (音声設定)

音声デバイスが接続されたら、必要に応じてキャプチャ/再生バッファ サイズを調整できます。

この機能は、音声の品質を管理する場合に役に立ちます。音声の品質は、帯域幅の制限やネットワーク使用量の急増による影響を受けることがあります。

バッファ サイズを増やすと、音声の品質は改善されますが、配信速度が低下することがあります。

有効な最大バッファ サイズは 400 ミリ秒であり、それより大きくすると、音声品質が大幅に低下します。

バッファ サイズは、音声セッション中も含めて、必要なときにいつでも調整できます。

音声設定は、VKC または AKC で設定されます。

音声設定の調整

▶ **音声設定を調整するには、以下の手順に従います。**

1. [Audio] (音声) メニューから [Audio Settings] (音声設定) を選択します。[Audio Settings] (音声設定) ダイアログ ボックスが開きます。
2. 必要に応じてキャプチャや再生のバッファ サイズを調整します。[OK] をクリックします。



バージョン情報 - Virtual KVM Client

このメニュー コマンドを選択すると、Virtual KVM Client のバージョン情報が表示されます。このバージョン情報は、ラリタン テクニカル サポートを利用するときに必要なになります。

▶ **バージョン情報を調べるには、以下の手順に従います。**

1. [Help] (ヘルプ) の [About Raritan Virtual KVM Client] (バージョン情報) を選択します。

2. 後でサポート時にアクセスできるように、[Copy to Clipboard] (クリップボードにコピー) ボタンを使用して、ダイアログ ボックスに含まれている情報をクリップボード ファイルにコピーします (必要な場合)。

この章の内容

概要.....	78
ターゲット サーバへの接続.....	78
AKC でサポートされている Microsoft .Net Framework.....	79
AKC でサポートされているオペレーティング システム.....	79
AKC でサポートされているブラウザ.....	80
AKC を使用するため前提条件.....	80

概要

Active KVM Client (AKC) は、Microsoft Windows .NET® 技術に基づいています。

これにより、Raritan の Virtual KVM Client (VKC) の実行に必要な Java® Runtime Environment (JRE) を使用しなくても Windows 環境でクライアントを実行できます。

AKC は CC-SG とも連動します。

AKC は、以下を除いて VKC と同じ機能を備えています。

- AKC で作成されたキーボード マクロは、VKC では使用不可
- ダイレクト ポート アクセス設定（「URL を経由したダイレクト ポート アクセスの有効化」を参照）
- AKC サーバ証明書検証設定（「*AKC を使用するための前提条件* 『80p. の“*AKC を使用するため前提条件*”参照』」を参照）
- AKC ではお気に入りが自動的にロードされ、VKC ではロードされない。「*お気に入りの管理* 『89p.』」を参照

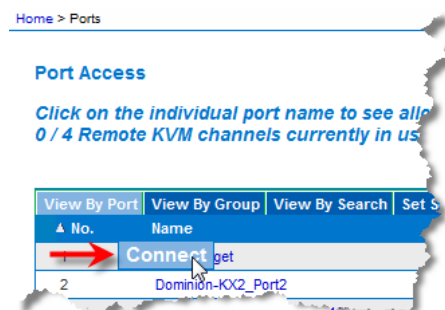
各機能の使用法の詳細については、「*Virtual KVM Client (VKC) ヘルプ* 『26p.』」を参照してください。

ターゲット サーバへの接続

KX III リモート コンソールにログインしたら、Virtual KVM Client (VKC) または Active KVM Client (AKC) 経由でターゲット サーバにアクセスします。

- ▶ **利用可能なターゲット サーバまたはデュアル モニタ ターゲット サーバに接続するには、以下の手順に従います。**
1. [Port Access] (ポート アクセス) ページで、接続するターゲット サーバのポート名をクリックします。[Port Action] (ポート アクション) メニューが開きます。

2. [接続] をクリックします。



使用可能な他のメニュー オプションの詳細については、「[\[Port Action\]](#) (ポート アクション) メニュー 『20p.』」を参照してください。

AKC でサポートされている Microsoft .Net Framework

Active KVM Client (AKC) には、Windows .NET® バージョン 3.5、4.0、または 4.5 が必要です。AKC は、インストールされている 3.5 および 4.0 の両方と連動します。

AKC でサポートされているオペレーティング システム

Internet Explorer® から起動すると、Active KVM Client (AKC) から KX III を介してターゲット サーバにアクセスできます。

AKC は、以下のプラットフォームに対応しています。

- Windows XP® オペレーティング システム
- Windows Vista® (64 ビット版も可)
- Windows 7® (64 ビット版も可)
- Windows 8® (64 ビット版も可)

注: WINDOWS PC FIPS を有効にし、かつ、AKC とスマート カードを使用してターゲットにアクセスする場合、Windows 7 を使用する必要があります。

AKC を実行するには .NET が必要になるため、.NET がインストールされていない場合、またはサポートされていないバージョンの .NET がインストールされている場合は、.NET バージョンの確認を指示するメッセージが表示されます。

注: Windows XP® オペレーティング システムのユーザは、AKC を起動する前に、基盤となる .NET 3.5 または 4.0 がインストールされているか確認することをお勧めします。.NET バージョンが機能していることを確認できない場合は、.NET バージョンの確認を求めるデフォルトのメッセージが表示される代わりにファイルをダウンロードするよう求められる場合があります。

AKC でサポートされているブラウザ

- Internet Explorer® 8 (以降)
Internet Explorer 8 (以降) ではないブラウザから AKC を開こうとすると、ブラウザの確認と Internet Explorer への切り替えを指示するエラーメッセージが表示されます。

AKC を使用するため前提条件

Cookie を許可

アクセスするデバイスの IP アドレスからの Cookie が現在ブロックされていないことを確認します。

"信頼済みサイト ゾーン" に KX III IP アドレスを追加

Windows Vista®、Windows® 7、および Windows 2008 Server のユーザは、アクセス対象のデバイスの IP アドレスが、ブラウザの信頼済みサイトゾーンに追加されていることを確認する必要があります。

"保護モード" を無効化

Windows Vista®、Windows® 7、および Windows 2008 Server のユーザは、KX III にアクセスするときに、保護モードが有効になっていないことを確認する必要があります。

AKC ダウンロード サーバ証明書の検証を有効にする

デバイス (または CC-SG) の管理者が [Enable AKC Download Server Certificate Validation] (AKC ダウンロード サーバ証明書の検証を有効にする) オプションを有効にした場合は、以下の手順に従います。

- 管理者は、有効な証明書をデバイスにアップロードするか、自己署名証明書をデバイスで生成する必要があります。証明書で有効なホストが指定されている必要があります。
- 各ユーザは、CA 証明書 (または自己署名証明書のコピー) をブラウザの信頼されたルート証明機関ストアに追加する必要があります。

CC-SG 管理クライアントから Active KVM Client を起動する場合は、JRE™ 1.7.x (以降) が必要です。

この章の内容

概要..... 81
 KX III へのログイン..... 82
 ポートのスキャン - リモート コンソール..... 83
 パスワードの変更..... 88
 お気に入りの管理..... 89

概要

ネットワーク接続経由で KX III にログインする場合は、リモート コンソールにアクセスします。最初のアクセス ページは、[Port Access] (ポート アクセス) ページです。

「*KX III へのログイン* 『14p.』」および「*[Port Access] (ポート アクセス) ページ (リモート コンソール ディスプレイ)* 『17p.』」を参照してください。

The screenshot shows the Raritan web interface for a Dominion KX III device. The main content area is titled "Port Access" and includes a table of port information. The table has the following data:

No.	Name	Type	Status	Availability
1	HDMI Target	DVM-HDMI	up	idle
2	Dominion-KX2_Port2	DVM-DVI	up	idle
3	Low Cost DVM (PQ20540016)	Dual-VM	up	idle
4	Windows XP SP3	DCIM	up	idle
5	DP-Dominion-KX2_Port13	DVM-DP	up	idle
6	Dominion	DCIM	up	idle
7	Dominion-KX2_Port7	Dual-VM	up	idle
8	pc-ix8-update	Not Available	down	idle
9	KX832-80-234-Tier5	TierDevice	up	idle
10	ix832-80-241-Tier3	TierDevice	up	idle
11	KX832-61-14-Tier1	TierDevice	up	idle
11-1	DCMSimulatorPort029	DCIM	up	idle
11-2	DCMSimulatorPort028	DCIM	up	idle
11-3	DCMSimulatorPort027	DCIM	up	idle
11-4	DCMSimulatorPort039	DCIM	up	idle

The interface also shows a sidebar with "Device Information" (Device Name: DominionKX-sample, IP Address: 192.168.61.20, Firmware: 3.0.0.1.369, Device Model: DKX3-432) and "Port States" (359 Ports: up, 54 Ports: down, 413 Ports: idle). The "Port Access" page includes a navigation menu at the top and a "Logout" link at the top right.

リモート コンソールを使用して、ターゲット サーバのアクセスおよびスキャン、お気に入りの管理、およびパスワードの変更を行います。

リモート コンソールのインタフェース要素の詳細については、「**KX III リモート コンソール インタフェース** 『16p.』」を参照してください。

KX III へのログイン

Microsoft .NET® や Java Runtime Environment™ がインストールされており、ネットワーク接続機能を備えたワークステーションから KX III リモート コンソールにログインします。

KX III にログインして使用するには、ポップアップを許可する必要があります。

セキュリティ警告と検証メッセージ、およびそれらを抑制または除外する手順については、「**セキュリティ警告および検証メッセージ** 『9p.』」を参照してください。

▶ KX III にログインするには、以下の手順に従います。

1. サポートされている Web ブラウザを起動します。
2. 次のどちらかを入力します。
 - URL: *http://IP-ADDRESS* (Java ベースの Virtual KVM Client を使用する場合)

または

 - *http://IP-ADDRESS/akc* (Microsoft .NET ベースの Active KVM Client の場合)

IP-ADDRESS は、KX III に割り当てられた IP アドレスです。

また、HTTPS を使用するか、管理者によって割り当てられた、KX III の DNS 名 (適用可能な場合) を使用することもできます。

常に、HTTP の IP アドレスから HTTPS の IP アドレスにリダイレクトされます。

3. ユーザ名とパスワードを入力して、[Login] (ログイン) をクリックします。
4. ユーザ同意書に承諾します (該当する場合)。
5. セキュリティ警告が表示される場合は、アクセスの承諾または許可、あるいはその両方を行います。

ポートのスキャン - リモート コンソール

ポート スキャン機能を使用して、選択したターゲットを検索し、それをスライド ショーの一部として個々のサムネイルで表示します。

この機能により、スライド ショーの間に表示される各ターゲット サーバを個々に表示できるので、一度に最大 32 のターゲットを監視できます。

ターゲットに接続するか、必要に応じて特定のターゲットをフォーカスします。

スキャン対象は、標準ターゲット、ブレード サーバ、カスケード接続 Dominion デバイス、KVM スイッチの各ポートです。

デュアル ビデオ ポート グループでは、プライマリ ポートはポート スキャンの対象になりますが、リモート クライアントから接続する場合、セカンダリ ポートは対象になりません。両方のポートをローカル ポートからスキャンの対象にすることができます。

注:ポート スキャン機能は、リモート コンソールとローカル コンソールで使用できますが、機能はわずかに異なっています。

ポートのスキヤンのスライド ショー - リモート コンソール

スキヤンを開始すると、[Port Scan] (ポート スキヤン) ウィンドウが開きます。

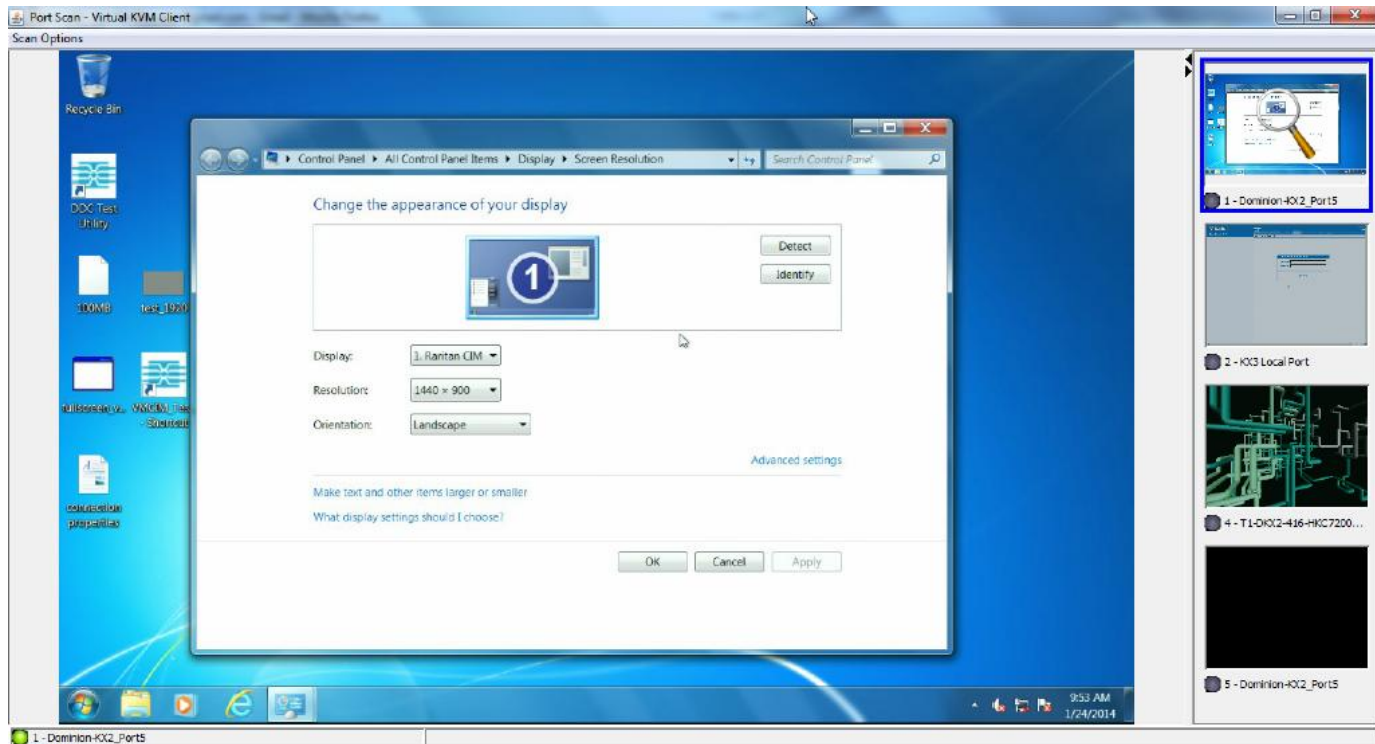
ターゲットが見つかるたびに、スライド ショーのサムネイルとして表示されます。

スライド ショーでは、デフォルト間隔の 10 秒ごとに、またはユーザが指定した間隔に従ってターゲットのサムネイルがスクロールされます。

スキヤンによってターゲットがスクロールされるときは、スライド ショーでフォーカスされているターゲットがページの中央に表示されます。

ターゲット名はサムネイルの下とウィンドウ下部のタスクバーに表示されます。

ターゲットがビジーである場合は、ターゲット サーバへのアクセス ページの代わりに空白の画面が表示されます。



Virtual KVM Client (VKC) または Active KVM Client (AKC) からリモートコンソールのスキャン設定を指定します。

「**VKC および AKC でのポート スキャンの設定 『52p.』**」を参照してください。

注: ローカル コンソールのスキャン ポート設定は、[Local Port Settings] (ローカル ポート設定) ページで指定されます。「**ポートのスキャン - ローカル コンソール 『97p.』**」を参照してください。

ポート スキャン中のターゲット ステータス インジケータ - リモート コンソール

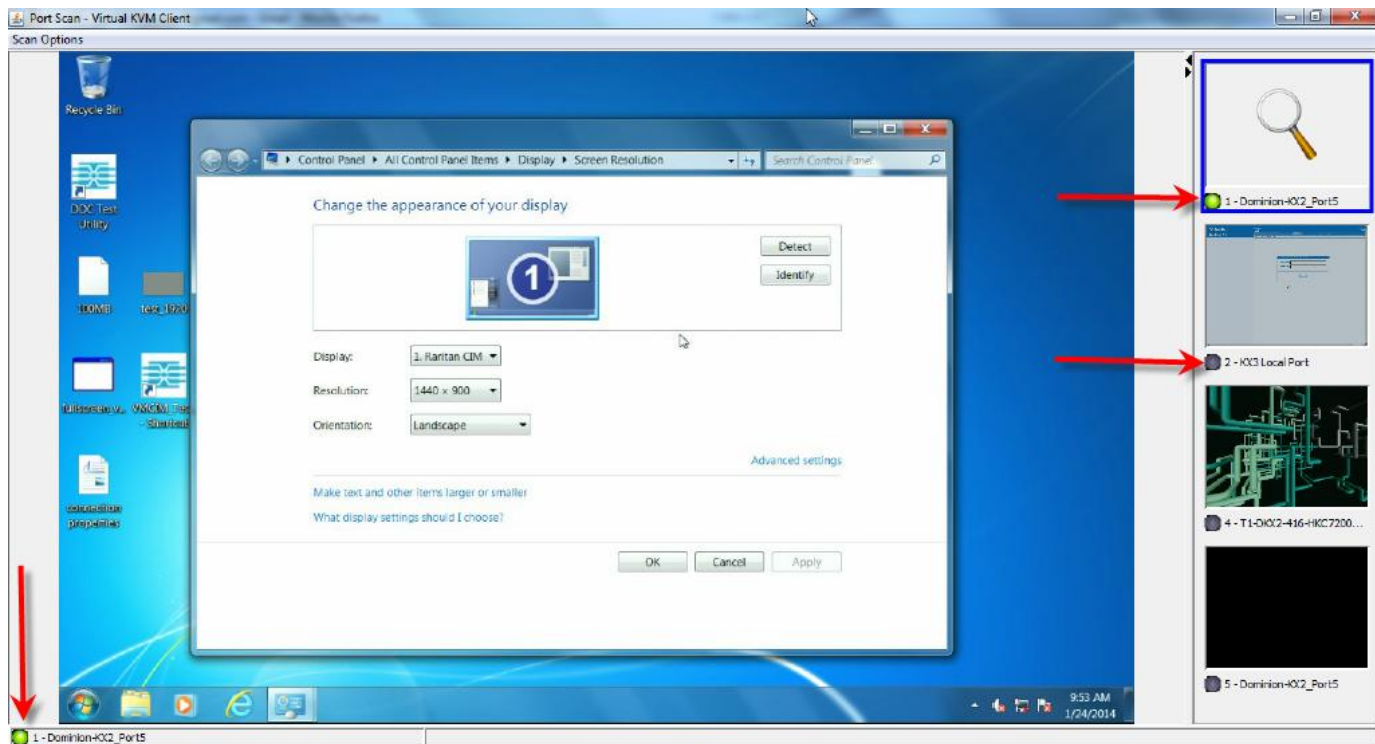
各ターゲットのステータスは、緑色、黄色、および赤色のライトで示され、ターゲット サムネイルの下に表示されます。

ターゲットがフォーカスされている場合、ステータスを示すインジケータは、タスク バーにも表示されます。

各ターゲットのライトは、フォーカスされるまではグレーで表示されます。

ステータス ライトは、以下を示します。

- 緑 - ターゲットはアップ/アイドルまたはアップ/接続済み
- 黄色 - ターゲットはダウンしているが接続済み
- 赤 - ターゲットはダウン/アイドル、ビジー、またはアクセス不可能



ポート スキャン オプションの使用


ターゲットのスキャン中は、次のオプションを使用できます。

これらのすべてのオプションは、[Expand] (展開)/[Collapse] (折りたたみ) アイコンを除き、[Port Scan] (ポート スキャン) ビューアの左上の [Options] (オプション) メニューから選択します。

ウィンドウを閉じると、オプションはデフォルトに戻ります。

注: Virtual KVM Client (VKC) または Active KVM Client (AKC) から表示 間隔などのスキャン設定を指定します。『VKC および AKC でのポート スキャンの設定』『52p.』』を参照してください。

▶ サムネイルの表示または非表示

- ウィンドウの左上の [Expand] (展開)/[Collapse] (折りたたみ) アイコン  を使用して、サムネイルを表示または非表示にします。デフォルト表示では展開されています。

▶ サムネイル スライド ショーの一時停止

- [Options] (オプション) の [Pause] (一時停止) を選択すると、あるターゲットから次のターゲットへのサムネイルのローテーションが一時停止します。サムネイルのローテーションはデフォルト設定です。

▶ サムネイル スライド ショーの再開

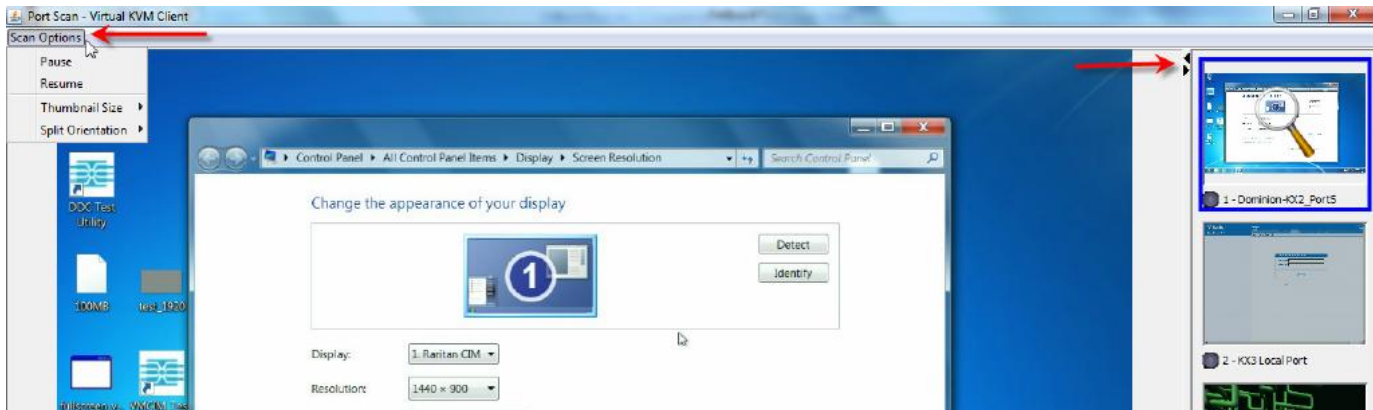
- [Options] (オプション) の [Resume] (再開) を選択すると、サムネイルのローテーションが再開されます。

▶ [Port Scan] (ポート スキャン) ビューアのサムネイルのサイズ変更

- サムネイルを拡大するには、[Options] (オプション)、[Size] (サイズ)、[360x240] の順に選択します。
- サムネイルを最小化するには、[Options] (オプション)、[Size] (サイズ)、[160x120] の順に選択します。これはデフォルトのサムネイル サイズです。

▶ [Port Scan] (ポート スキャン) ビューアの表示方向の変更

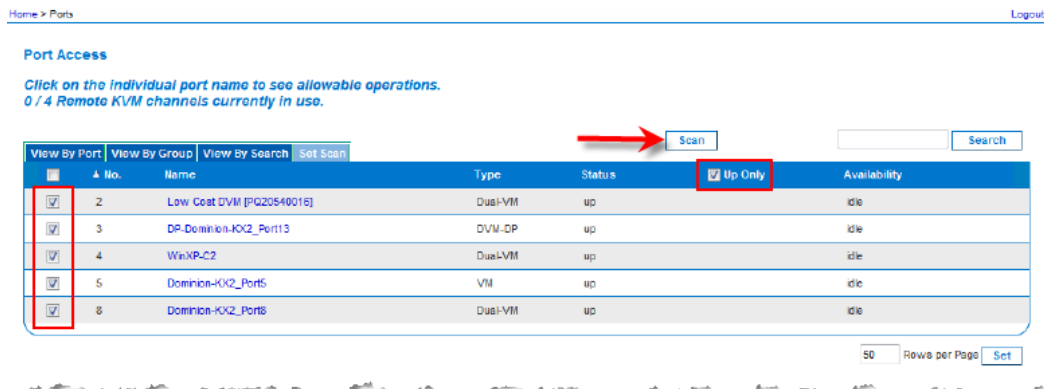
- [Options] (オプション)、[Split Orientation] (分割方向)、[Horizontal] (横) の順に選択すると、サムネイルが [Port Scan] (ポート スキャン) ビューアの下部に沿って表示されます。
- [Options] (オプション)、[Split Orientation] (分割方向)、[Vertical] (縦) の順に選択すると、サムネイルが [Port Scan] (ポート スキャン) ビューアの右側に沿って表示されます。これがデフォルト表示です。



ターゲットのスキャン

▶ ターゲットをスキャンするには、以下の手順に従います。

1. [Port Access] (ポート アクセス) ページの [Set Scan] (スキャン設定) タブをクリックします。
2. 各ターゲットの横にあるチェックボックスをオンにしてスキャン対象に含めるターゲットを個別に選択するか、ターゲット列の上部にあるチェックボックスをオンにしてすべてのターゲットを選択します。
3. アップ ステータスのターゲットだけをスキャンに含める場合は、[Up Only] (アップのみ) チェックボックスをオンのままにします。アップかダウンかに関係なくすべてのターゲットを含める場合は、このチェックボックスをオフにします。
4. [Scan] (スキャン) をクリックしてスキャンを開始します。
スキャンされたターゲットは、ページのスライドショービューに表示されます。



5. [Options] (オプション) の [Pause] (一時停止) をクリックすると、スライドショーが一時停止してターゲット間での移動が停止します。[Options] (オプション) の [Resume] (再開) をクリックするとスライドショーが再開されます。

- ターゲットのサムネイルをクリックすると、それが次にスキャンされます。
- サムネイルをダブルクリックすると、そのターゲットに接続されます。

パスワードの変更

▶ **KX III パスワードを変更するには、以下の手順に従います。**

- [User Management] (ユーザ管理) の [Change Password] (パスワードの変更) を選択します。[Change Password] (パスワードの変更) ページが開きます。
- [Old Password] (旧パスワード) フィールドに現在のパスワードを入力します。
- [New Password] (新しいパスワード) フィールドに新しいパスワードを入力します。[Confirm New Password] (新しいパスワードの確認) フィールドにパスワードを再入力します。パスワードには、最大 64 文字の英数字と特殊文字を使用できます。
- [OK] をクリックします。
- パスワードが正常に変更された旨のメッセージが表示されます。
[OK] をクリックします。

注: 強力なパスワードが使用されている場合は、パスワードに必要な形式に関する情報がこのページに表示されます。パスワードと強力なパスワードについての詳細は、オンライン ヘルプの「Strong Passwords (強力なパスワード)」を参照してください。

The screenshot shows a web interface for changing a password. At the top, there is a breadcrumb trail: "Home > User Management > Change Password". Below this is a blue header bar with the text "Change Password". The form contains three input fields: "Old Password", "New Password", and "Confirm New Password". At the bottom of the form, there are two buttons: "OK" and "Cancel".

お気に入りの管理

お気に入り機能を利用すると、よく使用するデバイスにすばやくアクセスできます。

[Port Access] (ポート アクセス) ページの左下隅 (サイドバー) にある [Favorite Devices] (お気に入りデバイス) セクションでは、以下の操作が可能です。

- お気に入りデバイスのリストを作成および管理する。
- よく使用するデバイスにすばやくアクセスする。
- 名前、IP アドレス、または DNS ホスト名別にお気に入りのリストを表示する。
- サブネット上の KX III デバイスを検出する (ログインの前および後)。
- 検出された KX III デバイスを、接続されている Dominion デバイスから取得する (ログインの後)。

お気に入りの有効化

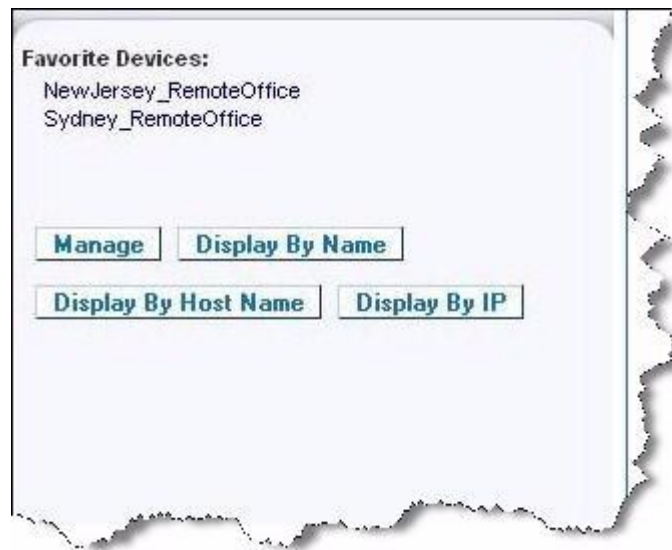
- KX III インタフェースの左パネルの [Favorite Devices] (お気に入りデバイス) セクションで [Enable] (有効にする) をクリックします。

The screenshot shows the Raritan Dominion KX III web interface. The left sidebar contains several sections: 'Time & Session' (January 01, 2000 22:52:18), 'User: admin', 'Device Information' (Device Name: DominionKX, IP Address: 192.168.61.20), 'Port States' (5 Ports: up, 27 Ports: down, 32 Ports: idle), 'Connected Users' (admin (192.168.32.179) active), 'Online Help', and 'Favorite Devices'. In the 'Favorite Devices' section, there is a blue button labeled 'Enable' with a red arrow pointing to it from the right. The main content area shows 'Port Access' with a table of 17 ports. The first four ports are highlighted in blue, indicating they are currently in use.

View By Port	View By Group	View By Search	Set Scan
▲ No.	Name		
1	Windows7-150FT-cable		
2	Low Cost DVM [PQ20540016]		
3	DP-Dominion-KX2_Port13		
4	WinXP-C2		
5	Dominion-KX2_Port5		
6	Dominion_KX3_Port8		
7	Dominion_KX3_Port7		
8	Dominion-KX2_Port8		
9	Dominion_KX3_Port9		
10	Dominion_KX3_Port10		
11	Dominion_KX3_Port11		
12	Dominion_KX3_Port12		
13	Dominion_KX3_Port13		
14	Dominion_KX3_Port14		
15	Dominion_KX3_Port15		
16	Dominion_KX3_Port16		
17	Dominion_KX3_Port17		

お気に入りのアクセスおよび表示

- ▶ お気に入りの **KX III** デバイスにアクセスするには、以下の手順に従います。
 - ([Favorite Devices] (お気に入りデバイス) の下に表示されている) デバイス名をクリックします。新しいブラウザが開き、デバイスが表示されます。
- ▶ お気に入りを名前順に表示するには、以下の手順に従います。
 - [Display by Name] (名前順) をクリックします。
- ▶ お気に入りを **IP** アドレス順に表示するには、以下の手順に従います。
 - [Display by IP] (IP 順) をクリックします。
- ▶ お気に入りをホスト名順に表示するには、以下の手順に従います。
 - [Display by Host Name] (ホスト名順) をクリックします。



この章の内容

概要.....	92
ターゲット サーバにアクセスする.....	92
ローカル コンソールの画面解像度.....	93
ユーザが同時接続可能.....	93
ホット キーと接続キー.....	94
ポートのスキャン - ローカル コンソール.....	97
ローカル コンソールのスマート カード アクセス.....	102
ローカル コンソールの USB プロファイル オプション.....	103
KX III ローカル コンソール ファクトリ リセット.....	104
デバイスのリセット ボタンによる KX III のリセット.....	105

概要

ローカル コンソール インタフェースでは、ローカルに KX III にアクセスできます。

このセクションには、ローカル コンソールでエンド ユーザが実行するタスクに関するヘルプが記載されています。

ターゲット サーバにアクセスする

▶ ターゲット サーバにアクセスするには

1. アクセスしたいターゲット サーバのポート名をクリックします。ポート アクション メニューが開きます。
2. ポート アクション メニューの [Connect] (接続) をクリックします。そのターゲット サーバの画面に切り替わります。

ローカル コンソールの画面解像度

KX III ローカル コンソールにモニタを接続すると、KX III でモニタの本来の解像度が検出されます。通常、検出されるのは、モニタでサポートされている最大の解像度です。

モニタの本来の解像度がローカル コンソールでサポートされている場合、KX III では、その解像度が使用されます。

本来の解像度がローカル コンソールでサポートされておらず、それ以外の解像度がモニタおよびローカル コンソールでサポートされていない場合、KX III では、ローカル コンソールに最後に接続したモニタの解像度が使用されます。

たとえば、KX III ローカル コンソールに 1600 x 1200、60Hz の解像度に設定されたモニタを接続するとします。この解像度は、ローカル コンソールでサポートされているので、KX III で使用されます。

次にローカル コンソールに接続するモニタが、サポートされている解像度に設定されていない場合、KX III では、1024 x 768、60Hz の解像度が使用されます。

ローカル コンソールのサポートされている画面解像度については、「**KX III ローカル ポートのサポートされている DVI 解像度**『125p.』」を参照してください。

さらに、「**ビデオ モードと解像度に関する留意事項**『152p.』」も確認してください。

ユーザが同時接続可能

KX III ローカル コンソールを使用する場合、接続されている各 KVM ターゲット サーバへの独立したアクセス パスが設定されます。

つまり、KX III ローカル コンソールを使用している最中でも、他ユーザがネットワーク経由で KX III に同時接続できます。また、リモートユーザが KX III に接続している最中でも、KX III ローカル コンソールを使用してラックからサーバに同時接続できます。

ホット キーと接続キー

KX III ローカル コンソールの画面は、現在アクセスしているターゲット サーバの画面に完全に置き換えられます。ターゲット サーバから切断し、ローカル コンソールの画面に戻るには、ホット キーを使用します。

接続キーは、ターゲット サーバに接続したり、ターゲット サーバを切り替えたりする際に使用します。

ターゲット サーバの画面が表示されているときにホットキーを使用することにより、KX III ローカル コンソールの画面をすばやく開くことができます。

「ローカル コンソールからの KX III ローカル ポートの設定」を参照してください。

KX III ローカル コンソール インタフェースへの切り替え - デフォルトのホット キー

▶ ターゲット サーバの画面から KX III ローカル コンソールの画面に戻るには

- Scroll Lock キーをすばやく 2 回押します。
ターゲット サーバの画面から KX III ローカル コンソールの画面に切り替わります。

このキー組み合わせを変更するには、[Local Port Settings] (ローカル ポート設定) ページを使用します。オンライン ヘルプの「ローカル コンソールからの KX III ローカル ポートの設定」を参照してください。

接続キーの例

標準型サーバの場合

接続キーを押したときのアクション キー組み合わせの例

KX III ローカル コンソールからポートに接続する	KX III ローカル コンソールからポート 5 に接続するには <ul style="list-style-type: none"> • 左 Alt キーを押す → 5 キーを押して離す → 左 Alt キーを離す
ポートを切り替える	ポート 5 からポート 11 に切り替えるには <ul style="list-style-type: none"> • 左 Alt キーを押す → 1 キーを押して離す → 1 キーを押して離す → 左 Alt キーを離す
ターゲット サーバ	ポート 11 から切断し、KX III ローカル コンソール

標準型サーバの場合	
接続キーを押したときのアクション	キー組み合わせの例
から切断し、KX III ローカル コンソールの画面に戻る	<p>ールの画面 (ターゲット サーバに接続する時に開いていたページ) に戻るには</p> <ul style="list-style-type: none"> • Scroll Lock キーをすばやく 2 回押す
ブレード シャーシの場合	
接続キーを押したときのアクション	キー組み合わせの例
KX III ローカル コンソールからポートに接続する	<p>ポート 5 のスロット 2 に接続するには</p> <ul style="list-style-type: none"> • 左 Alt キーを押す → 5 キーを押して離す → 2 キーを押して離す → 左 Alt キーを離す
ポートを切り替える	<p>ポート 5 のスロット 2 からポート 5 のスロット 11 に切り替えるには</p> <ul style="list-style-type: none"> • 左 Alt キーを押す → 5 キーを押して離す → 1 キーを押して離す → 1 キーを押して離す → 左 Alt キーを離す
ターゲット サーバから切断し、KX III ローカル コンソールの画面に戻る	<p>ポート 11 のスロット 11 から切断し、KX III ローカル コンソールの画面 (ターゲット サーバに接続する時に開いていたページ) に戻るには</p> <ul style="list-style-type: none"> • Scroll Lock キーをすばやく 2 回押す

Sun サーバへのアクセス時に使用できる特別なキー組み合わせ

ローカル ポートでは、Sun Microsystems™ サーバの特別なキーに対して、次のキー組み合わせが機能します。これらの特別なキー組み合わせは、Sun ターゲット サーバに接続しているときに使用できます。

Sun サーバのキー	ローカル ポートにおけるキー組み合わせ
Again	Ctrl+ Alt +F2
Props	Ctrl+ Alt +F3
Undo	Ctrl+ Alt +F4
Stop A	Break a
Front	Ctrl+ Alt +F5
Copy	Ctrl+ Alt +F6
Open	Ctrl+ Alt +F7
Find	Ctrl+ Alt +F9
Cut	Ctrl+ Alt +F10
Paste	Ctrl+ Alt +F8
Mute	Ctrl+ Alt +F12
Compose	Ctrl+ Alt + KPAD *
Vol +	Ctrl + Alt + KPAD +
Vol -	Ctrl + Alt + KPAD -
Stop	キー組み合わせなし
電力	キー組み合わせなし

ポートのスキャン - ローカル コンソール

ポート スキャン機能を使用して、選択したターゲットを検索し、それをスライド ショーの一部として個々のサムネイルで表示します。

この機能により、スライド ショーの間に表示される各ターゲット サーバを個々に表示できるので、一度に最大 32 のターゲットを監視できます。

ターゲットに接続するか、必要に応じて特定のターゲットをフォーカスします。

スキャン対象は、標準ターゲット、ブレード サーバ、カスケード接続 Dominion デバイス、KVM スイッチの各ポートです。

デュアル ビデオ ポート グループでは、プライマリ ポートはポート スキャンの対象になりますが、リモート クライアントから接続する場合、セカンダリ ポートは対象になりません。両方のポートをローカル ポートからスキャンの対象にすることができます。

任意のターゲット サーバのサムネイルをクリックし、スキャン モードを終了してターゲットに接続するか、ローカル ポートの ConnectKey シーケンスを使用します。

スキャン モードを終了するには、サムネイル表示で [Stop Scan] (スキャンの停止) ボタンをクリックするか、DisconnectKey シーケンス ホットキーを使用します。

注:ポート スキャン機能は、リモート コンソールとローカル コンソールで使用できますが、機能はわずかに異なっています。「ポートのスキャン - リモート コンソール 『83p. 』」を参照してください。

ポートのスキャンのスライド ショー - ローカル コンソール

スキャンを開始すると、[Port Scan] (ポート スキャン) ウィンドウが開きます。

ターゲットが見つかるたびに、スライド ショーのサムネイルとして表示されます。

スライド ショーでは、デフォルト間隔の 10 秒ごとに、またはユーザが指定した間隔に従ってターゲットのサムネイルがスクロールされます。

スキャンによってターゲットがスクロールされるときは、スライド ショーでフォーカスされているターゲットがページの中央に表示されます。

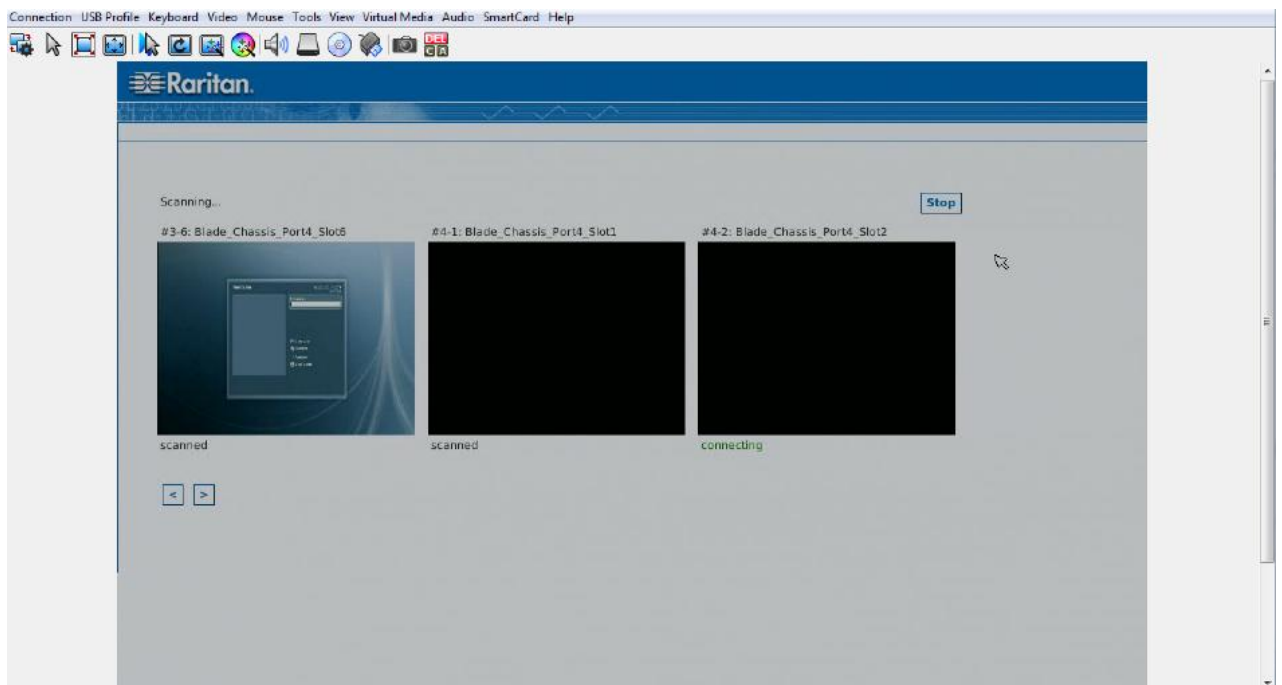
ターゲット名はサムネイルの下とウィンドウ下部のタスクバーに表示されます。

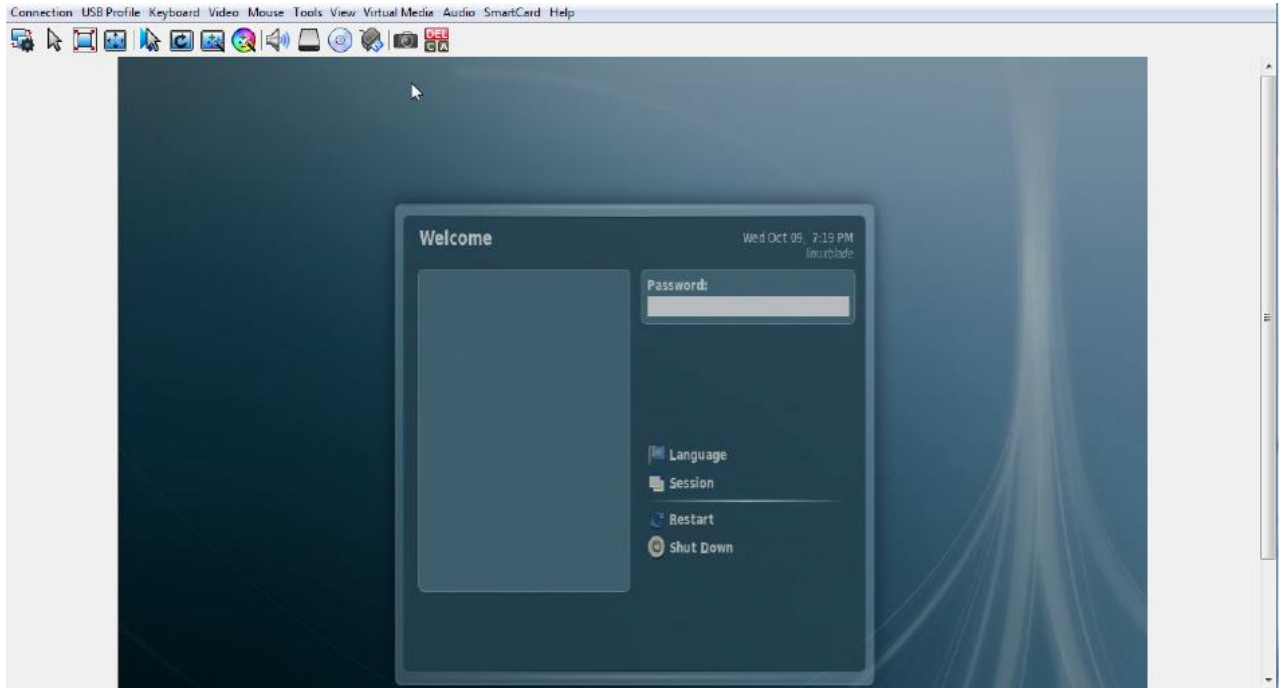
ターゲットがビジーである場合は、ターゲット サーバへのアクセス ページの代わりに空白の画面が表示されます。

[Local Port Settings] (ローカル ポート設定) ページでスライド ショーのサムネイルのローテーション時間およびサムネイル フォーカス間隔を設定します。

「**ローカル コンソール スキャンの設定 『101p.』**」を参照してください。

注: Virtual KVM Client (VKC) または Active KVM Client (AKC) からリモート コンソールのスキャン設定を指定します。 VKC および AKC でのポート スキャンの設定 『52p.』」を参照してください。



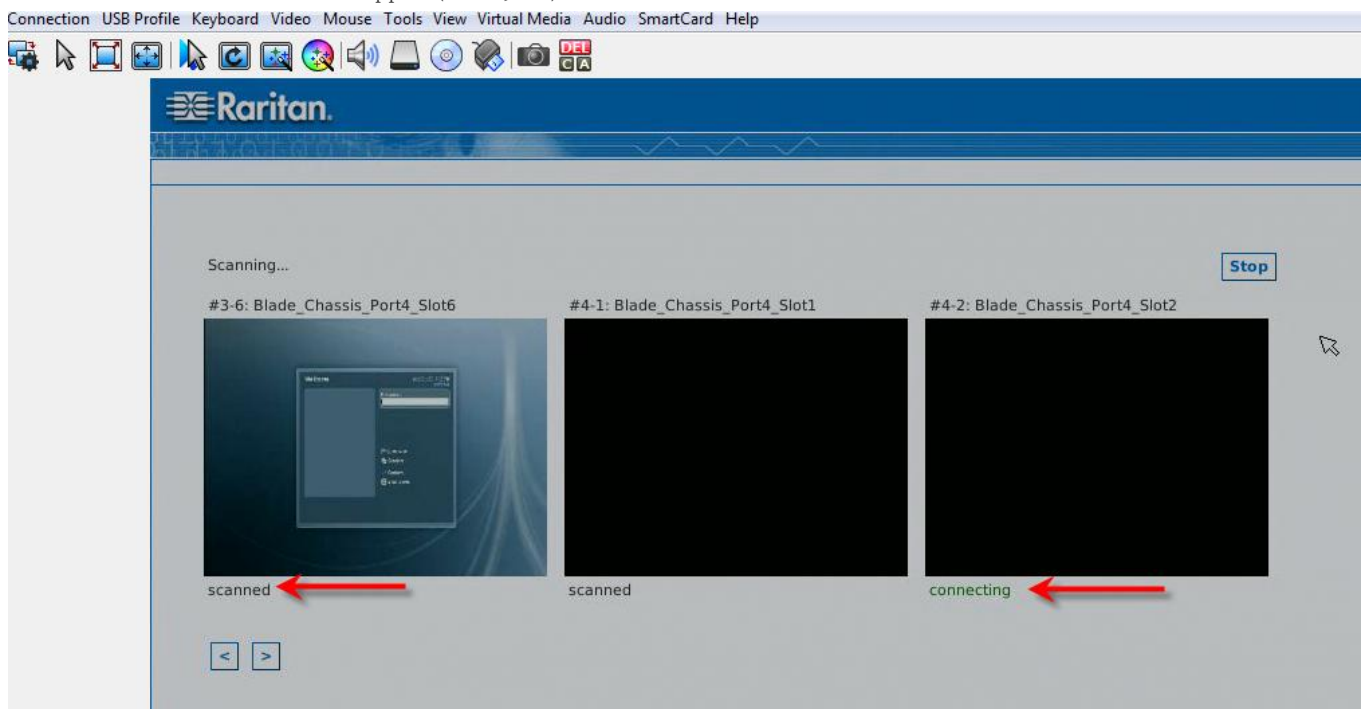


ポート スキャン中のターゲット ステータス インジケータ - ローカル コンソール

ローカル コンソールのサムネイル表示では、各ターゲットがスライド
ショー ビューでフォーカスされるまで、そのステータスがページのサム
ネイルの下に示されます。

各ターゲットのスキャン ステータスは、次のように表示されます。

- not scanned (未スキャン)
- connecting (接続中)
- scanned (スキャン済み)
- skipped (スキップ)



ローカル コンソール スキャンの設定

ローカル コンソールのポート スキャン オプションを設定するには、以下の手順に従います。

注: Virtual KVM Client (VKC) または Active KVM Client (AKC) からリモート コンソールのスキャン設定を指定します。『VKC および AKC のポート スキャンの設定』を参照してください。

▶ **ローカル コンソールのスキャン ポートを設定するには、以下の手順に従います。**

1. ローカル コンソールで、[Device Settings] (デバイス設定) を選択します。
2. [Local Port Settings] (ローカル ポート設定) セクションで、[Local Port Scan Mode] (ローカル ポート スキャン モード) を選択します。
3. 必要に応じて表示間隔を変更します。
 - [Display Interval] (表示間隔) - スキャン表示間隔を変更します。
 - [Interval Between Ports] (ポート間の間隔) - スキャン中にさまざまなポートを切り替える間隔を変更します。

ターゲットのスキャン - ローカル コンソール

▶ **ターゲットをスキャンするには、以下の手順に従います。**

1. [Port Access] (ポート アクセス) ページの [Set Scan] (スキャン設定) タブをクリックします。
2. 各ターゲットの横にあるチェックボックスをオンにしてスキャン対象に含めるターゲットを個別に選択するか、ターゲット列の上部にあるチェックボックスをオンにしてすべてのターゲットを選択します。
3. アップ ステータスのターゲットだけをスキャンに含める場合は、[Up Only] (アップのみ) チェックボックスをオンのままにします。アップかダウンかに関係なくすべてのターゲットを含める場合は、このチェックボックスをオフにします。
4. [Scan] (スキャン) をクリックしてスキャンを開始します。
スキャンされたターゲットは、ページのスライド ショー ビューに表示されます。

ローカル コンソールのスマート カード アクセス

ローカル コンソールでスマート カードを使用してサーバにアクセスするには、KX III に搭載されているいずれかの USB ポートを使用して USB スマート カード リーダーを KX III に接続します。

スマート カード リーダーは、KX III に接続したり KX III から取り外したりすると、KX III によって自動検出されます。

サポートされているスマート カードおよびシステム要件の一覧については、「サポートされているスマート カード リーダーとサポートされていないスマート カード リーダー」および「**スマート カードの最小システム要件** 『131p. 』」を参照してください。

カード リーダーおよびスマート カードをターゲット サーバにマウントすると、サーバはそれらのリーダーやカードが直接接続されているかのように動作します。

スマート カードまたはスマート カード リーダーを取り外すと、ターゲット サーバの OS で設定されているカードの取り外しポリシーに従って、ユーザ セッションがロックされるか、またはユーザがログアウトされます。

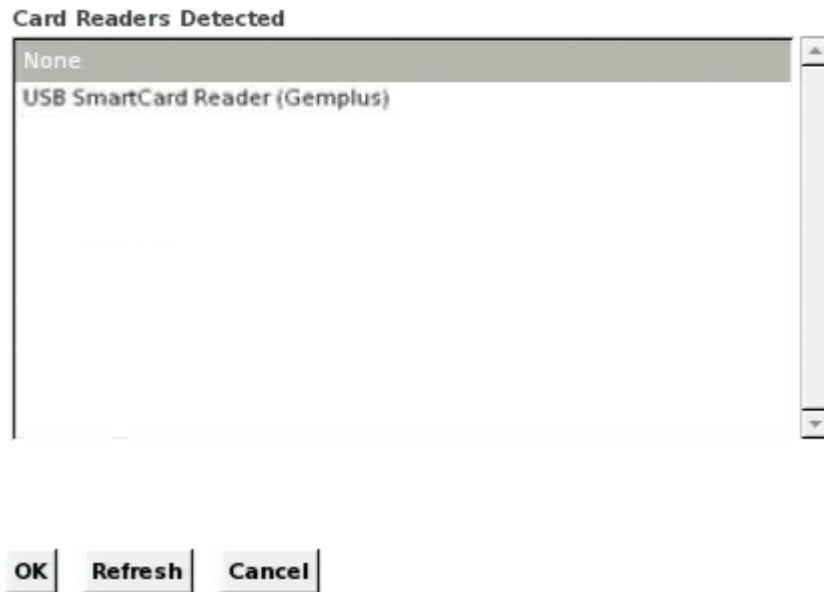
KVM セッションが切断されるか、または新しいターゲットに切り替えたために KVM セッションが終了した場合、スマート カード リーダーはターゲット サーバから自動的にマウント解除されます。

▶ **KX III ローカル コンソールからスマート カード リーダーをターゲットにマウントするには、以下の手順に従います。**

1. デバイスに搭載されているいずれかの USB ポートを使用して、USB スマート カード リーダーを KX III に接続します。接続すると、スマート カード リーダーは KX III によって検出されます。
2. ローカル コンソールで [Tools] (ツール) をクリックします。
3. [Card Reader Detected] (検出されたカード リーダー) リストからスマート カード リーダーを選択します。スマート カード リーダーをマウントしない場合は、リストから [None] (なし) を選択します。
4. [OK] (OK) をクリックします。スマート カード リーダーを追加すると、操作が正常に完了したことを示すメッセージがページに表示されます。ページの左パネルの [Card Reader] (カード リーダー) に、状態として [Selected] (選択) または [Not Selected] (未選択) が表示されます。

- ▶ **[Card Readers Detected] (検出されたカード リーダー) リストを更新するには、以下の手順に従います。**
 - 新しいスマート カードがマウントされた場合は、[Refresh] (更新) をクリックします。[Card Readers Detected] (検出されたカード リーダー) リストが更新され、新しく追加されたスマート カード リーダーが表示されます。

Select Card Reader



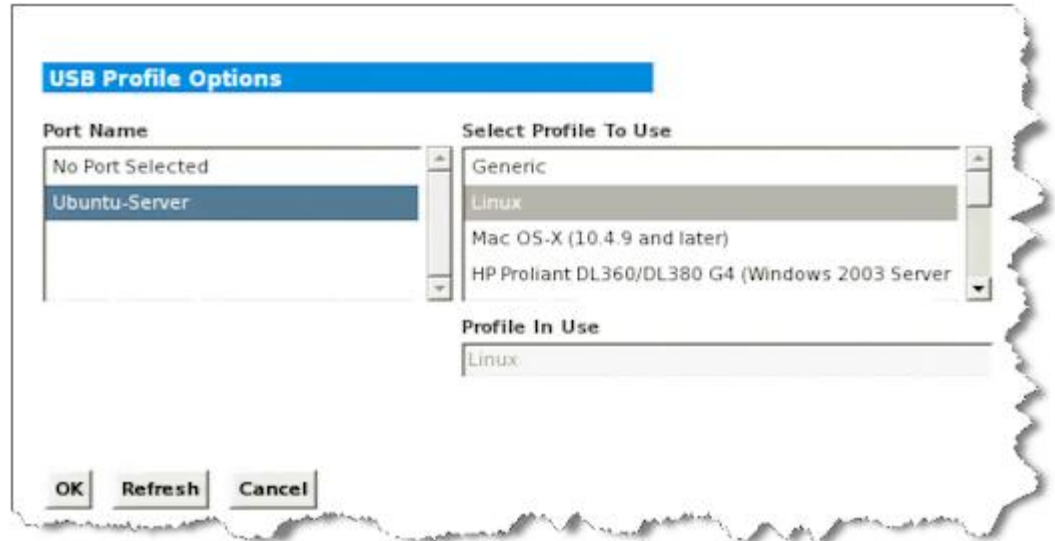
ローカル コンソールの USB プロファイル オプション

[Tools] (ツール) ページの [USB Profile Options] (USB プロファイル オプション) セクションで、USB プロファイルを選択できます。

プロファイルを適用可能なポートが [Port Name] (ポート名) フィールドに表示されます。ポートを選択すると、そのポートに適用可能なプロファイルが [Select Profile To Use] (使用するプロファイルを選択) フィールドに表示されます。ポートに対して選択したプロファイルは、[Profile In Use] (使用中のプロファイル) フィールドに表示されます。

- ▶ **USB プロファイルをローカル コンソール ポートに適用するには**
 1. [Port Name] (ポート名) フィールドで、USB プロファイルを適用するポートを選択します。
 2. [Select Profile To Use] (使用するプロファイルを選択) フィールドで、そのポートに適用するプロファイルを選択します。

3. [OK] (OK) をクリックします。その USB プロファイルがローカルポートに適用され、また、[Profile In Use] (使用中のプロファイル) フィールドに表示されます。



KX III ローカル コンソール ファクトリ リセット

注:出荷時設定にリセットする前に、**監査ログ**を保存しておくことを推奨します。

出荷時設定にリセットされると、**監査ログ**が削除されます。また、リセット イベントは**監査ログ**に記録されません。**監査ログ**の保存手順については、「**監査ログ**」を参照してください。

▶ 出荷時設定にリセットするには

1. [Maintenance] (保守) メニューの [Factory Reset] (出荷時設定にリセット) をクリックします。[Factory Reset] (出荷時設定にリセット) ページが開きます。
2. リセット モードを選択します。選択できるオプションは次のとおりです。
 - [Full Factory Reset] (完全リセット): すべての設定値を削除し、工場出荷時のデフォルト値にリセットします。KX III が CC-SG の管理下にある場合は、CC-SG との関連付けが解除されます。このリセット モードではすべての設定値がリセットされるので、リセットしてもよいかどうかを確認するためのダイアログ ボックスが開きます。

- [Network Parameter Reset] (ネットワーク パラメータ値をリセット): デバイスのネットワーク パラメータ値を出荷時設定にリセットします。パラメータ値を表示するには、[Device Settings] (デバイス設定) の [Network Settings] (ネットワーク設定) をクリックします。
3. [Reset] (リセット) をクリックして続行します。すべてのネットワーク設定値がリセットされるので、リセットしてもよいかどうかを確認するためのダイアログ ボックスが開きます。
 4. [OK] をクリックして続行します。リセットが完了すると、KX III が自動再起動します。

デバイスのリセット ボタンによる KX III のリセット

デバイスの背面パネルにリセット ボタンがあります。誤ってリセットされないように、ボタンはパネルに埋め込まれています (このボタンを使用するには、先端が尖った道具が必要です)。

リセット ボタンを押したときに実行される処理については、[Encryption & Share] (暗号化および共有) ページで定義します。「暗号化および共有」を参照してください。参照してください。

注: 出荷時設定にリセットする前に、監査ログを保存しておくことを推奨します。

出荷時設定にリセットされると、監査ログが削除されます。また、リセット イベントは監査ログに記録されません。監査ログの保存手順については、「監査ログ」を参照してください。

▶ デバイスをリセットするには、以下の手順に従います。

1. KX III の電源を切ります。
2. 先端の尖った道具を使用してリセット ボタンを押し続けます。
3. リセット ボタンを押したまま、KX III の電源を入れ直します。
4. リセット ボタンを 10 秒間押したままにします。



KX III と Cat5 Reach DVI の接続 - 拡張ローカル ポート機能の提供

この章の内容

概要	107
Cat5 Reach DVI の概要	107
KX III と Cat5 Reach DVI の接続	108

概要

拡張ローカル ポートは、KX III を収容しているラックを越えて、たとえば別の KVM スイッチまでローカル ポートの接続距離を延長します。

接続距離を延長するには、リモート コンソールまたは他のデバイスに接続されている Raritan Cat5 Reach DVI トランスミッタやレシーバと連動するように KX III を設定します。

Cat5 Reach DVI に接続すると、KX III は、最大 152 m (500 フィート) 離すことができます。

Ethernet スイッチをダイジーチェーン接続して KX III を Cat5 Reach DVI に接続すると、KX III の接続距離を 914 m (3000 フィート) まで延長できます。

Cat5 Reach DVI の概要

Cat5 Reach DVI の詳細については、*Raritan サポート ページ* <http://www.raritan.com/support> で利用可能な Cat5 Reach DVI オンラインヘルプを参照してください。

Cat5 Reach DVI に関する追加情報や購入に関する情報については、*Raritan にお問い合わせください* 『<http://www.raritan.com/contact-us/>参照』。

KX III と Cat5 Reach DVI の接続

注: 図中の画像は、KX III を特定するものではありませんが、接続は正確です。

このセクションでは、KVM スイッチを使用する 3 つのシナリオを説明します。

- KVM スイッチとそのローカル コンソールの間 に Cat5 Reach DVI を接続します。
- 2 つの KVM スイッチの間に Cat5 Reach DVI を接続します。
- コンピュータ/サーバと KVM スイッチの間に Cat5 Reach DVI を接続します。

接続する前にすべてのデバイスの電源をオフにします。

ローカル コンソールおよびリモート コンソールのセットアップの詳細については、Cat5 Reach DVI ヘルプの「**Connecting a Keyboard/Mouse/Video Source (キーボード/マウス/ビデオ ソースの接続)**」を参照してください。

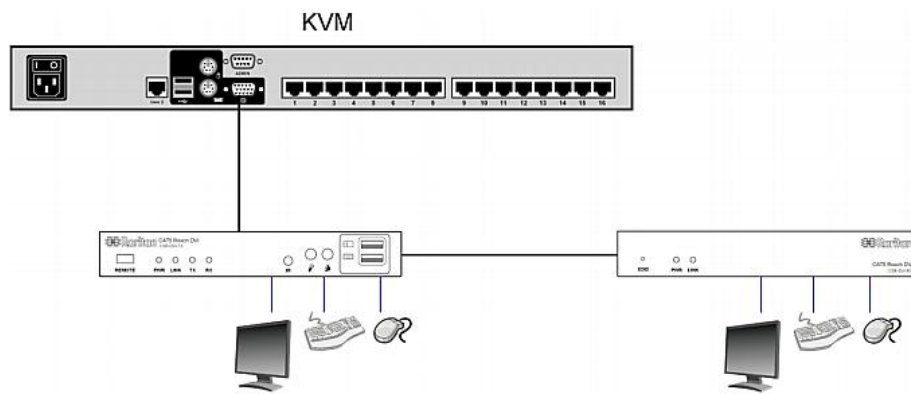
▶ **KX III と Cat5 Reach DVI を接続するには、以下の手順に従います**

1. セットアップがまだの場合は、ローカル コンソールおよびリモート コンソールを、それぞれ Cat5 Reach DVI トランスミッタおよびレシーバと共にセットアップします。

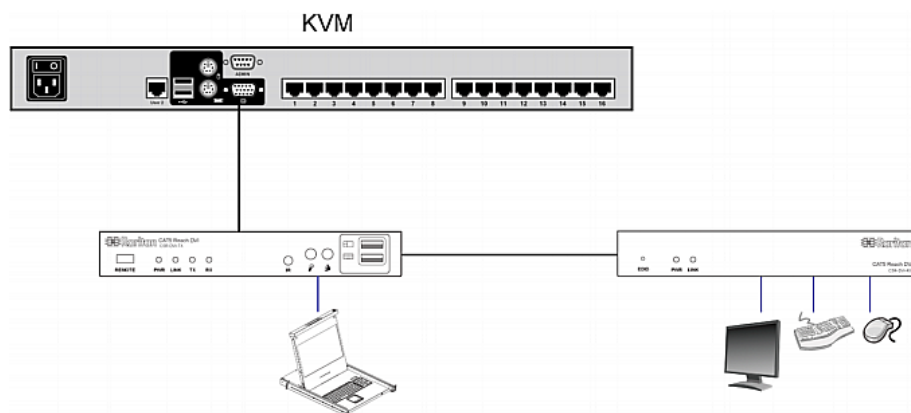
詳細については、Cat5 Reach DVI ヘルプの「**Basic Installation (基本インストール)**」を参照してください。

2. Cat5e/6 ケーブルを使用してトランスミッタおよびレシーバを接続します。
3. トランスミッタおよびレシーバをそれぞれ適切な電源に接続します。
4. KVM スイッチのローカル コンソール ポートをトランスミッタに接続します。
 - a. Raritan が提供する DVI ケーブルの片側をトランスミッタの DVI-I IN ポートに接続し、反対側を KVM スイッチのビデオ ポートに接続します。
 - b. Raritan が提供する USB ケーブルの USB-B コネクタをトランスミッタの USB-B ポートに接続し、反対側を KVM スイッチのローカル USB-A ポートに接続します。

5. KVM スイッチの電源をオンにします。



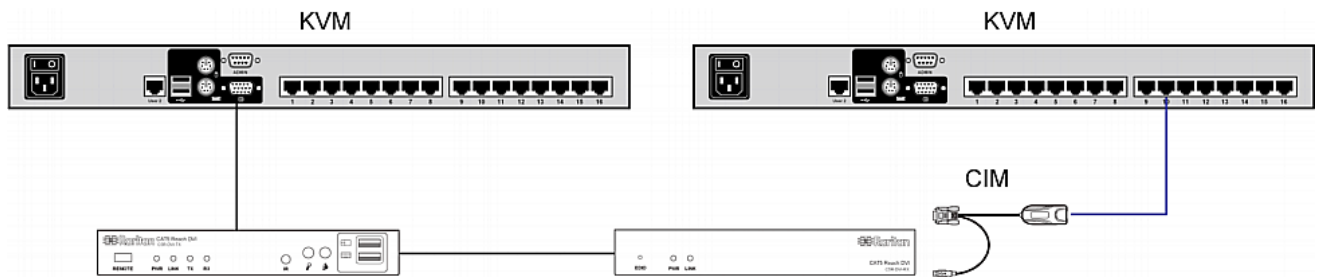
ヒント: ローカルまたはリモート コンソールには、キーボード、マウス、およびモニタのセットではなく、KVM ドロワーを装備できます。下の図を参照してください。



▶ **2つのカスケード接続 KVM スイッチ間の距離を延ばすには、以下の手順に従います。**

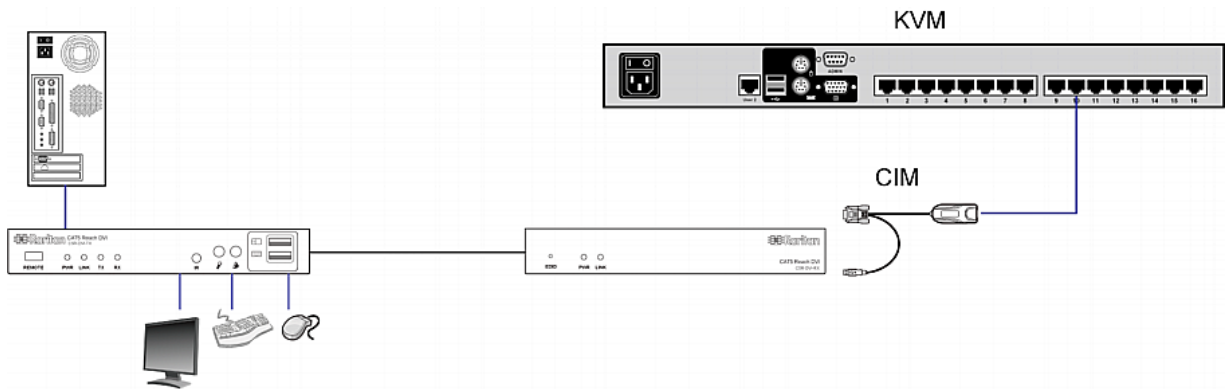
1. レシーバを KVM スイッチに接続して、リモート コンソールをセットアップします。
 - a. USB CIM をレシーバに接続します。
 - b. この USB CIM を Cat5 ケーブルで KVM スイッチの任意のチャンネル ポートに接続します。
2. Cat5e/6 ケーブルを使用してトランスミッタおよびレシーバを接続します。
3. トランスミッタおよびレシーバをそれぞれ適切な電源に接続します。
4. KVM スイッチをトランスミッタに接続します。

5. 両方の KVM スイッチの電源をオンにします。



▶ コンピュータと KVM スイッチの間の距離を延ばすには、以下の手順に従います。

1. オプションのローカルコンソールとトランスミッタをセットアップします。
2. レシーバを KVM スイッチに接続して、リモート コンソールをセットアップします。
3. Cat5e/6 ケーブルを使用してトランスミッタおよびレシーバを接続します。
4. トランスミッタおよびレシーバをそれぞれ適切な電源に接続します。
5. コンピュータをトランスミッタに接続します。
6. コンピュータの電源をオンにします。



この章の内容

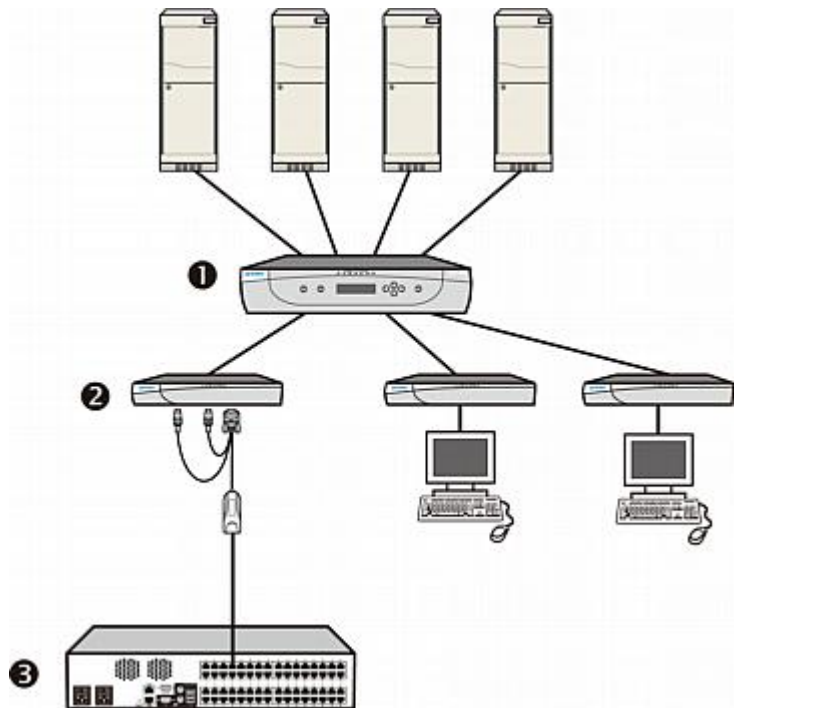
概要..... 111
 サポートされている Paragon II CIMS および設定..... 112
 KX III への Paragon II の接続..... 117

概要

CC-SG から Paragon II にアクセスできるように、Paragon II システムを CC-SG で管理されている KX III デバイスに接続します。

この図は、KX III の統合構成を示しています。

注:画像は、例にすぎず、お使いのデバイスと異なる場合があります。



①	Paragon II のスイッチ、サーバ、およびユーザ ステーションが接続されている Paragon II システム
②	DCIM-USB G2 を搭載したユーザ ステーション
③	KX III

KX III または CC-SG から Paragon II システムにアクセスすると (KX III が CC-SG の管理下にある場合)、Paragon II OSUI ログイン画面が表示されます。

この統合では、現在の Paragon II ファームウェアで実装されている OSUI 機能または現在の KX III ファームウェアで実装されている KX III 機能 (仮想メディア機能を除く) を実行できます。

KX III を介して Paragon II OSUI にアクセスする場合は、手動でマウスを同期しないでください。OSUI 画面ではマウスは不要であり、マウスを同期すると、キーボードの応答が数秒遅れます。

詳細については、「**サポートされている Paragon II CIMS および設定**」
『112p. 』」を参照してください。

サポートされている Paragon II CIMS および設定

KX III では P2CIM-APS2DUAL CIM および P2CIM-AUSBDUAL CIM がサポートされています。これらの CIM を使用した場合、RJ45 で 2 台の異なる KVM スイッチに接続できます。

これらの CIM がサポートされているので、KVM スイッチのいずれかに障害が発生した場合に備えて、ターゲットにアクセスするための 2 つ目の経路を確保できます。

Paragon CIM	サポートされるもの	サポートされないもの
P2CIM-APS2DUAL	<ul style="list-style-type: none"> IBM® PS/2 型のキーボード ポートとマウス ポートを備えたサーバ 自動スキュー補正 (CIM が Paragon II に接続されているが、KX III に接続されていない場合) インテリジェント マウス モード 標準マウス モード 	<ul style="list-style-type: none"> 仮想メディア スマート カード ずれないマウス モード ブレード シャーシとの併用 KVM のカスケード接続構成

Paragon CIM	サポートされるもの	サポートされないもの
P2CIM-AUSBDUAL	<ul style="list-style-type: none"> • USB 型または Sun™ USB 型のキーボードポートとマウスポートを備えたサーバ • 自動スキュー補正 (CIM が Paragon II に接続されているが、KX III に接続されていない場合) • インテリジェント マウス モード • 標準マウス モード 	<ul style="list-style-type: none"> • 仮想メディア • スマート カード • ずれないマウス モード • ブレード シャーシとの併用 • KVM のカスケード接続構成

KX III - KX III 構成の Paragon CIM に関するガイドライン

KX III - KX III 構成で Paragon CIM を使用する場合は、次に示すシステム構成ガイドラインに従ってください。

同時アクセス

両方の KX III KVM スイッチで、ターゲットへの同時アクセスに対して同じポリシーを設定する必要があります。つまり、どちらも [PC-Share] (PC 共有) にするか、どちらも [Private] (プライベート) に設定します。ターゲットへのプライベート アクセスが必要な場合は、どちらの KVM スイッチもそれに応じて構成する必要があります。

- [Security] (セキュリティ)、[Security Settings] (セキュリティ設定)、[Encryption & Share] (暗号化および共有) を選択し、[PC Share Mode] (PC 共有モード) を [Private] (プライベート) に設定します。

これにより、すべてのユーザ グループおよびすべてのターゲットにおいて、ターゲットへの同時アクセスはできなくなります。

KX III では、ターゲットへの同時アクセスをより高い粒度で、ユーザ グループ単位で制御できます。これは、ユーザ グループの PC 共有権限を設定することで行われます。ただし、これが適用されるのは KX III の範囲内のみです。P2CIM-APS2DUAL または P2CIM-AUSB2DUAL を KX III と組み合わせて使用する際にプライバシーを保証する必要がある場合、ユーザ グループに対する PC 共有権限を使用しないでください。

CIM 名の更新

P2CIM-APS2 および P2CIM-AUSB の名前は CIM のメモリに保持されています。メモリ上には、Paragon CIM の名前 (最大 12 文字) を保持するための領域と、KX III の名前 (最大 32 文字) を保持するための領域の、2 つの領域があります。

Paragon CIM を KX III に初めて接続したとき、CIM の名前がメモリから取得され、KX III によって使用される CIM のメモリ領域に書き込まれます。続いて、KX III から、KX III によって使用されるメモリ領域に対して、CIM 名の照会または更新が行われます。KX III から、Paragon II によって使用されるメモリ領域に対して更新が行われることはありません。

一方の KX III によって CIM 名が更新されると、もう一方の KX III がそのターゲットへの接続を試みるたびに、更新後の CIM 名が検出および取得されます。そのときまで、この CIM 名がもう一方の KX III 上で更新されることはありません。

ポートのステータスと可用性

ポートのステータスは、KX III の [Port Access] (ポート アクセス) ページに [Up] (稼動) または [Down] (非稼動) として表示されます。このステータスは最新の情報に更新され、CIM の電源が入っていて KX III のポートに接続されているかどうかを示されます。

ポートの可用性は、KX III の [Port Access] (ポート アクセス) ページに [Idle] (アイドル)、[Busy] (ビジー)、または [Connected] (接続) として表示されます。この可用性情報は、同じ KX III から起動されたターゲットの稼動状況を反映するように更新されます。

もう一方の KX III からそのターゲットに接続している場合は、この KX III から接続が試みられたときに可用性が検査されます。KX III に対して設定されている PC 共有ポリシーに基づいて、アクセスが拒否または許可されます。そのときまで、この可用性情報がもう一方の KX III 上で更新されることはありません。

ターゲットがビジーであるためにアクセスが拒否された場合、通知が表示されます。

CC-SG との連係動作

CC-SG から起動される処理は、管理対象 KX III から通知されるステータス、可用性情報、および CIM 名に基づいて決まります。ターゲットが 2 台の管理対象 KX III に接続されており、これらの KX III が CC-SG に追加されている場合、ノードが 2 つ作成されます。各ノードには固有の oob-kvm インタフェースが関連付けられます。各 KX III の oob-kvm インタフェースで、単一のノードを設定することもできます。

KX III がプライベート モードに設定されている場合、2 つ目の接続が試みられると、“接続できず、アクセスが拒否された” という内容のメッセージがユーザに表示されます。

CC-SG の [Port Profile] (ポート プロファイル) ペインでポート名を変更すると、変更後の名前が管理対象 KX III にプッシュ送信されます。もう一方の KX III の対応するポート名は、そのもう一方の oob-kvm インタフェース経由でターゲットへの接続が試みられるまで、CC-SG 内で更新されません。

KX III - Paragon II 構成に関するガイドライン

P2CIM-APS2DUAL または P2CIM-AUSBDUAL を使用して KX III と Paragon II を接続できます。

同時アクセス

KX III と Paragon II の両方で、ターゲットへの同時アクセスに関して同じポリシーを設定してください。

Paragon II の動作モード	モードの説明	サポート
プライベート	特定のチャネル ポートに接続されているサーバなどのデバイスに、同時に 1 人のユーザだけが排他アクセスできます。	サポートされています。Paragon II と KX III の両方を [Private] (プライベート) に設定する必要があります。プライベート設定は、ユーザグループごとではなく KX

Paragon II の動作モード	モードの説明	サポート
		<p>III に対して適用されます。</p> <p>Paragon II では、赤は“ビジー”、緑は“使用可能”を意味します。</p>
PC 共有	<p>特定のチャンネル ポートに接続されているサーバなどのデバイスを、複数のユーザが選択して制御することができます。ただし、キーボードとマウスを制御できるユーザは同時に 1 人だけです。</p>	<p>サポートされています。</p> <p>ただし、Paragon II で設定される PC 共有アイドル タイムアウトはサポートされていません。両方のユーザが、キーボードとマウスを同時に制御できます。</p> <p>Paragon II では、緑は“使用可能”を意味します。このことは、別のユーザが既にターゲットにアクセスしている場合にも当てはまります。</p>
パブリック表示	<p>一方のユーザが、特定のチャンネル ポートに接続されているサーバなどのデバイスにアクセスしている間、もう一方のユーザは、そのチャンネル ポートを選択し、そのデバイスからのビデオ出力を表示することができます。ただし、キーボードとマウスを制御できるのは、最初にアクセスしたユーザだけです。両方のユーザが切断するか、またはキーボードとマウスを取り外すと、この状態が解消されます。</p>	<p>サポートされていません。</p> <p>Paragon II と KX III を CIM で接続している場合、このモードは使用できません。</p> <p>Paragon II では、黄色はパブリック表示モードを意味します。</p>

CIM 名の更新

- Paragon II から更新された CIM 名は、Paragon の命名規則に対応する CIM メモリ領域に保持され、この領域から取得されます。
- KX III から更新された CIM 名は、KX III の命名規則に対応する CIM メモリ領域に保持され、この領域から取得されます。
- CIM 名が更新されても、Paragon II と KX III の間で互いに反映されることはありません。

Paragon II と KX III の間でサポートされている接続距離

KX III を Paragon II システムのフロント エンドとして使用する場合は、優れたビデオ品質が得られるようにケーブル長（距離）を制限する必要があります。

Paragon II ユーザ ステーションからターゲット サーバまでのサポートされているケーブル長は、152 m (500 フィート) です。さらに距離を延ばすと、満足できるかどうかわからないビデオ パフォーマンスになることがあります。

KX III から Paragon II ユーザ ステーションまでのサポートされているケーブル長は、最大 45 m (150 フィート) です。

KX III への Paragon II の接続

▶ Paragon II システムを KX III に接続するには、以下の手順に従います。

1. KX III に接続する Paragon II ユーザ ステーションにバージョン 4.6 (以降) のファームウェアが実装されているかどうかを確認します。実装されていない場合は、ファームウェアをアップグレードします。

Paragon II ユーザ ステーションは、次のいずれかです。

- P2-UST
- P2-EUST
- P2-EUST/C

アップグレード方法については、**Paragon II ヘルプ** を参照してください。

2. 互換性のある DCIM-USB を Paragon II ユーザ ステーションの USB ポートおよびビデオ ポートに接続します。
システムが 2 層または 3 層になっている場合は、Paragon II ユーザ ステーションがベース KX III デバイス (1 層目) に接続されていることを確認します。
3. 最長 45 m (150 フィート) の Cat5 UTP ケーブルで Paragon II ユーザ ステーションを KX III に接続します。
 - ケーブルの片側を DCIM の RJ-45 ポートに接続し、反対側を KX III のチャンネル ポートのいずれかに接続します。

Ap B: KX III から Paragon II へのアクセス

4. KX III または CC-SG で同じ Paragon II システムへのアクセスパスを増やす場合は、手順 1 ~ 3 を繰り返して、さらにユーザーセッションを KX III に接続します。

この章の内容

ハードウェア.....	119
ソフトウェア.....	142

ハードウェア

KX III の寸法および物理的仕様

Dominion KX III モデル	説明	電源と発熱量	寸法 (W x D x H)	重量	動作温度	湿度
DKX3-108	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 8 サーバポート ▪ 1 リモートユーザ ▪ 1 ローカルポート (ラックで使用) 	二重化電源 110 V/240 V、50 ~ 60 Hz 1.8 A、60 W、52 KCAL	17.3 x 13.15 x 1.73 インチ	8.60 lbs	0° ~ 45° C	0 ~ 85 % RH
			439 x 334 x 44 mm	3.9kg	32° ~ 113° F	
DKX3-116	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 16 サーバポート ▪ 1 リモートユーザ ▪ 1 ローカルポート (ラックで使用) 	二重化電源 110 V/240 V、50 ~ 60 Hz 1.8 A、60 W、52 KCAL	17.3 x 13.15 x 1.73 インチ	8.60 lbs	0° ~ 45° C	0 ~ 85 % RH
			439 x 334 x 44 mm	3.9kg	32° ~ 113° F	
DKX3-132	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 32 サーバポート ▪ 1 リモートユーザ ▪ 1 ローカルポート (ラックで使用) 	二重化電源 110 V/240 V、50 ~ 60 Hz 1.8 A、60 W、52 KCAL	17.3 x 13.15 x 1.73 インチ	8.60 lbs	0° ~ 45° C	0 ~ 85 % RH
			439 x 334 x 44 mm	3.9kg	32° ~ 113° F	

Dominion KX III モデル	説明	電源と発熱量	寸法 (W x D x H)	重量	動作温度	湿度
	ルポート (ラックで使用)					
DKX3-216	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 16 サーバポート ▪ 2 リモートユーザ ▪ 1 ローカルポート (ラックで使用) 	二重化電源 110 V/240 V、50 ~ 60 Hz 1.8 A、60 W、52 KCAL	17.3 x 13.15 x 1.73 インチ	9.08 lbs	0° ~ 45° C	0 ~ 85 % RH
			439 x 334 x 44 mm	4.12kg	32° ~ 113° F	
DKX3-232	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 32 サーバポート ▪ 2 リモートユーザ ▪ 1 ローカルポート (ラックで使用) 	二重化電源 110 V/240 V、50 ~ 60 Hz 1.8 A、60 W、52 KCAL	17.3 x 13.15 x 1.73 インチ	9.08 lbs	0° ~ 45° C	0 ~ 85 % RH
			439 x 334 x 44 mm	4.12kg	32° ~ 113° F	
DKX3-416	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 16 サーバポート ▪ 4 リモートユーザ ▪ 1 ローカルポート (ラックで使用) 	二重化電源 110 V/240 V、50 ~ 60 Hz 1.8 A、60 W、52 KCAL	17.3 x 13.15 x 1.73 インチ	9.08 lbs	0° ~ 45° C	0 ~ 85 % RH
			439 x 334 x 44 mm	4.12kg	32° ~ 113° F	
DKX3-432	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 32 サーバポート 	二重化電源 110 V/240	17.3 x 13.15 x 1.73 インチ	9.08 lbs	0° ~ 45° C	0 ~ 85 % RH

Dominion KX III モデル	説明	電源と発熱量	寸法 (W x D x H)	重量	動作温度	湿度
	<ul style="list-style-type: none"> ト ▪ 4 リモート ユーザ ▪ 1 ローカル ポート (ラックで使用) 	V、50 ~ 60 Hz 1.8 A、60 W、52 KCAL	チ 439 x 334 x 44 mm	4.12kg	32° ~ 113° F	
DKX3-464	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 64 サーバ ポート ▪ 4 リモート ユーザ ▪ 1 ローカル ポート (ラックで使用) 	二重化電源 110 V/240 V、50 ~ 60 Hz 1.8 A、60 W、52 KCAL	17.3 x 13.3 x 3.5 インチ 439 x 338 x 89 mm	12.39 lbs 5.62kg	0° ~ 45° C 32° ~ 113° F	0 ~ 85 % RH
DKX3-808	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 8 サーバ ポート ▪ 8 リモート ユーザ ▪ 1 ローカル ポート (ラックで使用) 	二重化電源 110 V/240 V、50 ~ 60 Hz 1.8 A、60 W、52 KCAL	17.3 x 13.15 x 1.73 インチ 439 x 334 x 44 mm	9.96 lbs 4.52kg	0° ~ 45° C 32° ~ 113° F	0 ~ 85 % RH
DKX3-832	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 32 サーバ ポート ▪ 8 リモート ユーザ ▪ 1 ローカル ポート (ラックで使用) 	二重化電源 110 V/240 V、50 ~ 60 Hz 1.8 A、60 W、52 KCAL	17.3 x 13.15 x 1.73 インチ 439 x 334 x 44 mm	9.96 lbs 4.52kg	0° ~ 45° C 32° ~ 113° F	0 ~ 85 % RH

Dominion KX III モデル	説明	電源と発熱量	寸法 (W x D x H)	重量	動作温度	湿度
	用)					
DKX3-864	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 64 サーバポート ▪ 8 リモートユーザ ▪ 1 ローカルポート (ラックで使用) 	二重化電源 110 V/240 V、50 ~ 60 Hz 1.8 A、60 W、 52 KCAL	17.3 x 13.3 x 3.5 インチ 439 x 338 x 89 mm	12.39 lbs 5.62kg	0° ~ 45° C 32° ~ 113° F	0 ~ 85 % RH

KX III でサポートされているターゲット サーバ画面解像度

- 640x350、70Hz
- 640x350、85Hz
- 640x400、56Hz
- 640x400、84Hz
- 640x400、85Hz
- 640x480、60Hz
- 640x480、66.6Hz
- 640x480、72Hz
- 640x480、75Hz
- 640x480、85Hz
- 720x400、70Hz
- 720x400、84Hz
- 720x400、85Hz
- 800x600、56Hz
- 800x600、60Hz
- 800x600、70Hz
- 800x600、72Hz
- 800x600、75Hz
- 800x600、85Hz
- 800x600、90Hz
- 800x600、100Hz
- 832x624、75.1Hz
- 1024x768@60Hz
- 1024x768@70Hz
- 1024x768、72Hz
- 1024x768@85Hz
- 1024x768@75Hz
- 1024x768、90Hz
- 1024x768、100Hz
- 1152x864、60Hz
- 1152x864、70Hz
- 1152x864、75Hz
- 1152x864、85Hz
- 1152x870、75.1Hz
- 1280x720、60Hz
- 1280x960、60Hz
- 1280x960、85Hz
- 1280x1024@60Hz

- 1280x1024、75Hz
- 1280x1024、85Hz
- 1360x768、60Hz
- 1366x768、60Hz
- 1368x768、60Hz
- 1400x1050、60Hz
- 1440x900、60Hz
- 1600x1200、60Hz
- 1680x1050、60Hz
- 1920x1080、60Hz

ターゲット サーバのサポートされている画面解像度、接続距離、およびリフレッシュ レート

サポートされる最大接続距離は、さまざまな要素によって決まります。たとえば、Cat5 ケーブルのタイプと品質、サーバのタイプと製造元、ビデオ ドライバとモニタ、環境条件、ユーザの要求レベルなどに左右されます。

次の表に、各種の画面解像度とリフレッシュ レートにおける最大接続距離を示します。

ターゲット サーバ画面解像度	最大接続距離
1024x768、60Hz (以下)	45 m (150 フィート)
1280x1024@60Hz	30 m (100 フィート)
1280x720、60Hz	22 m (75 フィート)
1600x1200、60Hz	15 m (50 フィート)
1920x1080、60Hz	15 m (50 フィート)

KX III でサポートされている画面解像度については、「**KX III でサポートされているターゲット サーバ画面解像度**『123p.』」を参照してください。

注:サーバの製造メーカーやタイプ、OS のバージョン、ビデオ ドライバなどは多種多様であるうえ、ビデオ品質にはユーザの主観が反映されるため、Raritan ではあらゆる環境でのすべての距離におけるパフォーマンスを保証することはできません。

KX III ローカル ポートのサポートされている DVI 解像度

- 1920x1080、60Hz
- 1280x720、60Hz
- 1024x768、60Hz (デフォルト)
- 1024x768、75Hz
- 1280x1024、60Hz
- 1280x1024、75Hz
- 1600x1200、60Hz
- 800x480、60Hz
- 1280x768、60Hz
- 1366x768、60Hz
- 1360x768、60Hz
- 1680x1050、60Hz
- 1440x900、60Hz

サポートされているコンピュータ インタフェース モジュール (CIM) の仕様

デジタル CIM は、Display Data Channels (DDC) および Enhanced Extended Display Identification Data (E-EDID) に対応しています。

CIM モデル	説明	寸法 (W x D x H)	重量
D2CIM-DVUSB	デュアル USB CIM (BIOS 仮想メディア、スマートカード/CAC、音声、およびずれないマウス用) 	43 x 90 x 19 mm (1.7 x 3.5 x 0.8 インチ)	0.11 kg (0.25 lb)
D2CIM-VUSB	USB CIM (仮想メディアおよびずれないマウス用) 	33 x 76 x 15mm (1.3 x 3.0 x 0.6 インチ)	0.09kg (0.09kg)

CIM モデル	説明	寸法 (W x D x H)	重量
D2CIM-DVUS B-DVI	デジタルとアナログの変換を行い、仮想メディア、スマートカード/CAC、音声、絶対および相対マウス同期をサポートするデジタル CIM 	43 x 90 x 19 mm (1.7 x 3.5 x 0.8 インチ)	0.11 kg (0.25 lb)
D2CIM-DVUS B-DP	デジタルとアナログの変換を行い、仮想メディア、スマートカード/CAC、音声、絶対および相対マウス同期をサポートするデジタル CIM 	43 x 90 x 19 mm (1.7 x 3.5 x 0.8 インチ)	0.11 kg (0.25 lb)
D2CIM-DVUS B-HDMI	デジタルとアナログの変換を行い、仮想メディア、スマートカード/CAC、音声、絶対および相対マウス同期をサポートするデジタル CIM 	43 x 90 x 19 mm (1.7 x 3.5 x 0.8 インチ)	0.11 kg (0.25 lb)
DCIM-PS2	CIM (PS2 用) 	33 x 76 x 15mm (1.3 x 3.0 x 0.6 インチ)	0.09kg (0.09kg)
DCIM-USBG2	CIM (USB および Sun USB 用)	33 x 76 x 15mm (1.3 x	0.09kg

CIM モデル	説明	寸法 (W x D x H)	重量
		3.0 x 0.6 インチ)	(0.09kg)

キーボードおよびマウスには、DVUSB CIM の黒のコネクタが使用されています。グレーのコネクタは、仮想メディアに使用します。

CIM の両方のプラグをデバイスに接続したままにします。両方のプラグがターゲット サーバに接続されていない場合は、デバイスが正しく動作しないことがあります。

サポートされているデジタル ビデオ CIM (Mac 用)

デジタル ビデオ CIM を使用して、次の Mac® ポートに接続します。

Mac ポート	CIM
DVI	D2CIM-DVUSB-DVI
HDMI	D2CIM-DVUSB-HDMI
DisplayPort または Thunderbolt	D2CIM-DVUSB-DP

Mac の HDMI または DisplayPort ビデオがミニ コネクタになっている場合は、デジタル CIM のフル サイズの HDMI および DisplayPort プラグに接続するために、パッシブ アダプタ ケーブルが必要になることがあります。

あるいは、Mac VGA アダプタを D2CIM-VUSB または D2CIM-DVUSB と併用します。これは信頼性が低く、ビデオ品質が劣化するおそれがあることに注意してください。

Mac 対応の KX III 2.5.0 (以降) でサポートされている既定モードについては、「**デジタル CIM の既定モードおよび標準モード『128p.』**」を参照してください。

デジタル CIM タイミング モード

以下は、KX III がデジタル CIM を介してビデオ ソースとやり取りするときに使用されるデフォルトのタイミング モードです。

使用されるタイミング モードは、ビデオ ソースの本来の解像度によって異なります。

- 1920x1080、60Hz
- 1600x1200、60Hz
- 1280x1024、60Hz (デジタル CIM に適用されるデフォルトの解像度)
- 1440x900、60Hz
- 1024x768@60Hz

詳細については、オンライン ヘルプの「CIM ポートの設定」を参照してください。

デジタル CIM の既定モードおよび標準モード

以下の既定の解像度とタイミング モード、および標準の解像度とタイミング モードは、KX III 3.0.0 (以降) でサポートされています。

デジタル CIM 既定モード

- 720 x 400、70Hz (IBM、VGA)
- 640 x 480、60Hz (IBM、VGA)
- 640 x 480、67Hz (Apple Mac® II)
- 640 x 480、72Hz (VESA)
- 640 x 480、75Hz (VESA)
- 800 x 600、56Hz (VESA)
- 800 x 600、60Hz (VESA)
- 800 x 600、72Hz (VESA)
- 800 x 600、75Hz (VESA)
- 832 x 624、75Hz (Apple Mac II)
- 1024 x 768、60Hz (VESA)
- 1024 x 768、70Hz (VESA)
- 1024 x 768、75Hz (VESA)
- 1280 x 1024、75Hz (VESA)
- 1152 x 870、75Hz (Apple Mac II)

デジタル CIM 標準モード

- 1152 x 864、75Hz (VESA)
- 1280 x 960、60Hz (VESA)
- 1280 x 1024、60Hz (VESA)
- 1360 x 768、60Hz (VESA)
- 1400 x 1050、60Hz (VESA)
- 1440 x 900、60Hz (VESA)
- 1600 x 1200、60Hz (VESA)
- 1680 x 1050、60Hz (VESA)
- 1920 x 1080、60Hz (VESA)

DVI 互換モード

DVI 互換モードは、Intel のビデオ カードを搭載した Dell Optiplex ターゲットまたは HDMI ビデオ ポートを搭載した Mac® Mini に HDMI CIM を使用して接続する場合に必要な可能性があります。

このモードを選択すると、ターゲットからの優れた画質が保証されます。オンライン ヘルプの「CIM ポートの設定」を参照してください。

サポートされているリモート接続

リモート接続	詳細情報
ネットワーク	10BASE-T、100BASE-T、および 1000BASE-T (Gigabit) Ethernet
プロトコル	TCP/IP、UDP、SNTP、HTTP、HTTPS、RADIUS、LDAP/LDAPS


ネットワーク速度の設定**KX III におけるネットワーク速度の設定**

		自動	1000/全二重	100/全二重	100/半二重	10/全二重	10/半二重
ネットワーク スイッチ におけるポートの設定	自動	使用可能な最高速度	1000/全二重	KX III: 100/全二重 スイッチ: 100/半二重	100/半二重	KX III: 10/全二重 スイッチ: 10/半二重	10/半二重
	1000/全二重	1000/全二重	1000/全二重	通信不可	通信不可	通信不可	通信不可


KX III におけるネットワーク速度の設定


100/全二重	KX III: 100/ 半二重 スイッチ: 100/全二重	KX III: 100/ 半二重 スイッチ: 100/全二重	100/全二重	KX III: 100/ 半二重 スイッチ: 100/全二重	通信不可	通信不可
100/半二重	100/半二重	100/半二重	KX III: 100/ 全二重 スイッチ: 100/半二重	100/半二重	通信不可	通信不可
10/全二重	KX III: 10/ 半二重 スイッチ: 10/全二重	通信不可	通信不可	通信不可	10/全二重	KX III: 10/ 半二重 スイッチ: 10/全二重
10/半二重	10/半二重	通信不可	通信不可	通信不可	KX III: 10/ 全二重 スイッチ: 10/半二重	10/半二重


凡例:

 通信できません。

 サポート

 通信は行えますが、推奨できません。

 Ethernet 仕様でサポートされていません。通信は行えますが、衝突が発生します。

 Ethernet 仕様では通信できないことになっています。KX III は期待どおりに動作しません。

注:ネットワーク通信の信頼性を高めるため、KX III とネットワーク スイッチの双方で、通信速度と通信方式を同じ設定にしてください。たとえば、KX III とネットワーク スイッチで“自動検出”に設定するか(推奨)、または、双方の通信速度と通信方式を同じ設定にします(例: 100 Mbps/全二重)。

Dell 筐体を接続する場合のケーブル長と画面解像度

KX III に Dell® 製ブレード筐体を接続する場合、画質を維持するために次のケーブル長と画面解像度を使用することを推奨します。

画面解像度	ケーブル長
1024x768@60Hz	15.24 m (50 フィート)
1280x1024@60Hz	15.24 m (50 フィート)
1600x1200、60Hz	9.14 m (30 フィート)

スマート カードの最小システム要件

ローカル ポートの要件

KX III へのローカル ポート接続の相互運用性の基本要件は、以下のとおりです。

- ローカルに接続されたすべてのデバイス(スマート カード リーダーまたはトークン)は、USB CCID に準拠している必要があります。

ターゲット サーバの要件

スマート カード リーダーを使用する場合、ターゲット サーバにおける相互運用性の基本要件は以下のとおりです。

- IFD(スマート カード リーダー) Handler は、標準の USB CCID デバイス ドライバ(汎用の Microsoft® USG CCID ドライバに相当)である必要があります。
- デジタル CIM または D2CIM-DVUSB(デュアル VM CIM) が必要であり、そのファームウェア バージョンは 3A6E 以降である必要があります。
- ブレード シャーシのサーバ接続(ブレードごとに CIM を使用)がサポートされます。
- ブレード シャーシのサーバ接続(シャーシごとに CIM を使用)は、自動検出が有効になっている IBM® BladeCenter® モデル H および F でのみサポートされます。

Windows XP ターゲット

Windows XP® ターゲットでは、KX III でスマート カードを使用するために Windows XP SP3 が実行されている必要があります。ターゲット サーバ上の Windows XP 共有で .NET 3.5 を実行している場合、SP1 を適用する必要があります。

Linux ターゲット

Linux® ターゲットを使用している場合、Raritan デバイスでスマート カード リーダーを使用するには、以下の要件を満たす必要があります。

- CCID の要件

Linux ターゲットで Raritan D2CIM-DVUSB VM/CCID がスマート カード リーダーとして認識されない場合は、CCID ドライバのバージョンを 1.3.8 以上に更新し、ドライバ設定ファイル (Info.plist) を更新する必要があります。

オペレーティング システム	CCID の要件
RHEL 5	ccid-1.3.8-1.el5
SuSE 11	pcsc-ccid-1.3.8-3.12
Fedora® Core 10	ccid-1.3.8-1.fc10.i386

リモート クライアントの要件

リモート クライアントにおける相互運用性の基本要件は、以下のとおりです。

- IFD (スマート カード リーダー) Handler は、PC/SC 準拠のデバイスドライバである必要があります。
- ICC (スマート カード) Resource Manager が使用可能で、PC/SC 準拠である必要があります。
- スマート カード API を含む JRE® が Raritan クライアント アプリケーションで使用可能である必要があります。

Linux リモート クライアントの要件

Linux® クライアントを使用している場合、Raritan デバイスでスマートカードリーダーを使用するには、以下の要件を満たす必要があります。

注:ターゲットへの1つ以上のKVMセッションがアクティブになっている場合、スマートカードを挿入すると、クライアントへのユーザーログインに時間がかかることがあります。これらのターゲットへのログインプロセスも進行中です。

- PC/SC の要件

オペレーティング システム	必要な PC/SC
RHEL 5	pcsc-lite-1.4.4-0.1.el5
SuSE 11	pcsc-lite-1.4.102-1.24
Fedora® Core 10	pcsc-lite-1.4.102.3.fc10.i386

- Java® ライブラリ リンクの作成
RHEL 4、RHEL 5、および FC 10 のアップグレード後、libpcsclite.so へのソフト リンクを作成する必要があります。たとえば、パッケージのインストールによってライブラリが /usr/lib または /user/local/lib に配置される場合、「ln -s /usr/lib/libpcsclite.so.1 /usr/lib/libpcsclite.so」と入力します。
- PC/SC デーモン
pcsc デーモン (フレームワークのリソース マネージャ) を再起動すると、ブラウザが再起動します。

サポートされているスマート カード リーダー

タイプ	ベンダ	[Model] (モデル)	検証
USB	SCM Microsystems	SCR331	ローカルおよびリモートで検証済み
USB	ActivIdentity®	ActivIdentity USB Reader v2.0	ローカルおよびリモートで検証済み
USB	ActivIdentity	ActivIdentity USB Reader v3.0	ローカルおよびリモートで検証済み
USB	Gemalto®	GemPC USB-SW	ローカルおよびリモートで検証済み
USB キーボード/カードリーダーの組み合わせ	Dell®	USB Smart Card Reader Keyboard	ローカルおよびリモートで検証済み

タイプ	ベンダ	[Model] (モデル)	検証
USB	SCM Microsystems	SCR331	ローカルおよびリモートで検証済み
USB キーボード/カードリーダーの組み合わせ	Cherry GmbH	G83-6744 SmartBoard	ローカルおよびリモートで検証済み
SIM サイズのカードに対応した USB リーダー	Omniquey	6121	ローカルおよびリモートで検証済み
統合型 (Dell Latitude D620)	O2Micro	OZ776	リモートのみ
PCMCIA	ActivIdentity	ActivIdentity PCMCIA Reader	リモートのみ
PCMCIA	SCM Microsystems	SCR243	リモートのみ

注: SCM Microsystems の SCR331 スマートカードリーダーでは、SCM Microsystems のファームウェア v5.25 を使用する必要があります。

サポートされていないスマートカードリーダー

この表は、Raritan がテストし、Raritan デバイスでは動作しないことが判明しているリーダーの一覧です。したがって、これらのリーダーはサポートされていません。

サポートされているスマートカードリーダーの表にもサポートされていないスマートカードリーダーの表にもないスマートカードリーダーについては、デバイスでの動作を保証できません。

タイプ	ベンダ	[Model] (注意モデル)	
USB キーボード/カードリーダーの組み合わせ	HP®	ED707A	インタラプト エンドポイントなし => Microsoft® ドライバとの互換性なし
USB キーボード/カードリーダーの組み合わせ	SCM Microsystems	SCR338	独自のカードリーダー実装 (CCID 非準拠)
USB トークン	Aladdin®	eToken PRO™	独自の実装

音声の再生とキャプチャに関する推奨事項と要件

音声レベル

- ターゲットの音声レベルを中域に設定します。
たとえば、Windows® クライアントでは、音声を 50 以下に設定します。

この設定は、クライアントの音声デバイス コントロールではなく、再生またはキャプチャ用の音声デバイスで行う必要があります。

PC 共有モードが有効になっている場合の音声接続に関する推奨事項

PC 共有モードでの動作中に音声機能を使用している場合は、さらに音声デバイスがターゲットに接続されると、音声の再生やキャプチャが中断されます。

たとえば、ユーザ A がターゲット 1 に再生デバイスを接続して音声再生アプリケーションを実行し、ユーザ B が同じターゲットにキャプチャデバイスを接続するとします。この場合、ユーザ A の再生セッションは中断されるので、音声アプリケーションを再起動する必要があります。この中断が発生する理由は、新しいデバイス設定で USB デバイスを再列挙する必要があるためです。

ターゲットで新しいデバイスのドライバをインストールする場合は、少し時間がかかることがあります。

音声アプリケーションは、再生の完全な停止、次のトラックへの移動、または再生の続行となる可能性があります。

正確な動作は、音声アプリケーションで切断/再接続イベントがどのように処理されるかによって異なります。

帯域幅要件

次の表は、選択した各形式で音声を転送する場合の音声再生およびキャプチャの帯域幅要件の詳細です。

音声形式	ネットワーク帯域幅要件
44.1 KHz、16 ビット ステレオ	176 kbps
44.1 KHz、16 ビット モノラル	88.2 kbps
2.05 KHz、16 ビット ステレオ	88.2 kbps
22.05 KHz、16 ビット モノラル	44.1 kbps

音声形式	ネットワーク帯域幅要件
11.025 KHz、16 ビット ステレオ	44.1 kbps
11.025 KHz、16 ビット モノラル	音声 22.05 kbps

実際に、音声デバイスをターゲットに接続するときには使用される帯域幅は、ターゲットで音声アプリケーションを開いたり使用したりする際に消費されるキーボード データやビデオ データがあるため、広がっています。

一般的には、再生およびキャプチャを実行する前に、1.5 MB 以上の接続を維持していることを推奨します。

ただし、ターゲット画面の解像度を高くして高品質なビデオ コンテンツをフル カラー接続すると、さらに多くの帯域幅を消費するため、音声の品質が大幅に劣化します。

品質の低下を軽減できるように、帯域幅が狭い場合にビデオが音声品質に与える影響を軽減するための推奨のクライアント設定は数多くあります。

- 音声の再生を低品質の形式で接続します。帯域幅を消費するビデオによる影響は、44k よりも 11k で接続した方が大幅に減少します。
- [Connection Properties] (接続プロパティ) で、接続速度を、クライアントからサーバへの接続に最適な値に設定します。
- [Connection Properties] (接続プロパティ) で、色深度をできる限り低い値に設定します。色深度を 8 ビット カラーにすると、消費される帯域幅が大幅に減少します。
- [Smoothing] (スムージング) を [High] (高) に設定します。これにより、表示されるビデオ ノイズが減少し、ターゲット ビデオの画質が向上します。
- [Video] (ビデオ) 設定で、[Noise Filter] (ノイズ フィルタ) を最も高い設定 7 (最高値) にすると、ターゲットの画面変更に使用される帯域幅が小さくなります。

Mac 環境での音声

以下は、Mac® 環境での既知の問題です。

- Mac クライアントで、Virtual KVM Client (VKC) からデバイスにアクセスすると、[Connect Audio] (音声に接続) パネルに再生デバイスが 1 つだけリストされます。リストされたデバイスはデフォルトであり、[Connect Audio] (音声に接続) パネルに「Java Sound Audio Engine」として表示されます。
- Mac ターゲットで Skype® を介して音声を使用すると、音声が悪化する可能性があります。

サポートされている音声/仮想メディアおよびスマート カード接続の数
クライアントからターゲットに確立する音声/仮想メディア、およびスマ
ート カードの同時接続数を以下に示します。

- 1 スマート カード
- 1 仮想メディア
- 1 スマート カードおよび 1 仮想メディア
- 2 仮想メディア

各言語に対して KX III でサポートされているキーボード

次の表に、各言語に対して KX III でサポートされているキーボードを示
します。

注:中国語、日本語、および韓国語は、表示しかできません。現時点では、
これらの言語を入力することはできません。アメリカ英語以外のキーボ
ードの詳細については、「留意事項 『146p. 』」を参照してください。

注:Linux 環境で作業する場合は、`system-config-keyboard` を使用して言語
を変更することをお勧めします。

言語	地域	キーボード レイアウ ト
US 英語	米国および大半の英語圏の諸国: カナダ、オーストラリア、ニュー ジーランドなど	US キーボード レイ アウト
US インター ナショナル	米国および大半の英語圏の諸国: オランダなど	US キーボード レイ アウト
UK 英語	英語 (イギリス)	UK レイアウト キー ボード
繁体字中国語	香港、中国 (台湾)	繁体字中国語
簡体字中国語	中国	簡体字中国語
韓国語	韓国	Dubeolsik ハングル
日本語	日本	JIS キーボード
[French] (フ ランス語)	フランス	フランス語 (AZERTY) レイアウ ト キーボード
[German] (ド イツ語)	ドイツおよびオーストリア	ドイツ語キーボード (QWERTZ レイアウ ト)

言語	地域	キーボード レイアウト
[French] (フランス語)	ベルギー	ベルギー語 (ベルギー)
ノルウェー語 (ノルウェー)	ノルウェー	ノルウェー語 (ノルウェー)
デンマーク語 (デンマーク)	デンマーク	デンマーク語 (デンマーク)
スウェーデン語 (スウェーデン)	スウェーデン	スウェーデン語 (スウェーデン)
ハンガリー語	ハンガリー	ハンガリー語
スロベニア語	スロベニア	スロベニア語
イタリア語	イタリア	イタリア語
スペイン語	スペインおよび大半のスペイン語圏の諸国	スペイン語
ポルトガル語	ポルトガル	ポルトガル語

Mac Mini BIOS のキー入力コマンド

以下の BIOS コマンドは、Mac Snow Leopard® が稼動している Intel ベースの Mac® Mini ターゲット サーバおよび Mac Lion® サーバ上でテストされたものです。これらのサーバは、D2CIM-DVUSB および D2CIM-VUSB CIM で KX III に接続されました。サポートされているキーおよび留意事項については、下記を参照してください。

キー入力	説明	仮想メディア CIM	デュアル仮想メディア CIM	Mac Lion サーバ HDMI CIM
起動時に C キーを押す	起動可能な CD または DVD (Mac OS X インストール ディスクなど) から起動する	✓	✓	
起動時に D キーを押す	Apple Hardware Test (AHT) で起動します。	✓ Mac のマウス用の正常に機能する BIOS プロファイ	✓ Mac のマウス用の正常に機能する BIOS プロフ	✓ Mac のマウス用の正常に機能する BIOS プロフ

キー入力	説明	仮想メディア CIM	デュアル仮想メディア CIM	Mac Lion サーバ HDMI CIM
		ルを必要とする場合がある	ファイルが必要と する場合がある	ファイルが必要と する場合がある
2 回目の起動音が聞こえるまで Option-Command-P-R キーを押す	NVRAM をリセットします。		✓	✓
起動時に Option キーを押す	スタートアップ マネージャで起動。起動元の Mac OS X ボリュームを選択できる	✓	✓	✓
イジェクト キー または F12 キーを押すか、マウス ボタンを押し続ける	リムーバブル メディア (光学ディスクなど) を取り出す	✓	✓	
起動時に N キーを押す	互換性のあるネットワーク サーバから起動する (NetBoot)	✓	✓	✓
起動時に T キーを押す	ターゲット ディスク モードで起動する			✓
起動時に Shift キーを押す	セーフ モードで起動し、ログイン項目を一時的に無効にします。	✓	✓	Lion をセーフ モードで起動する際の既知の問題点。Lion では、赤字の “セーフ ブート” が表示されない
起動時に Command-V キーを押す	Verbose mode.admin で起動する	✓	✓	✓
起動時に Command-S キーを押す	シングル ユーザ モードで起動します。	✓	✓	✓
起動時に Option-N キーを押す	デフォルトのブート イメージを使用して NetBoot サーバから起動します。	✓	✓	✓

キー入力	説明	仮想メディア CIM	デュアル仮想メディア CIM	Mac Lion サーバ HDMI CIM
起動時に Command-R キーを押す	Lion Recovery から起動します。	なし	なし	✓

Windows キーボードによる Mac ターゲットへのアクセス

Windows® キーボードを使用して、KX III に接続されている Mac® にアクセスできます。Windows キーで、特殊な Mac キーをエミュレートします。これは、Windows キーボードを Mac に直接接続するのと同じことです。

使用される TCP ポートおよび UDP ポート

ポート	説明
HTTP、ポート 80	このポートは、必要に応じて設定できます。「 <i>HTTP ポートおよび HTTPS ポートの設定</i> 『142p.』」を参照してください。 セキュリティを確保するため、デフォルトでは、KX III によって HTTP (ポート 80) で受信された要求は、すべて HTTPS に自動変換されます。要求はポート 80 で受け付けられるので、ユーザはブラウザのアドレスボックスに明示的に「https://」と入力する必要はありません。また、セキュリティも確保されます。
HTTP、ポート 443	このポートは、必要に応じて設定できます。「 <i>HTTP ポートおよび HTTPS ポートの設定</i> 『142p.』」を参照してください。 デフォルトでは、このポートはさまざまな目的で使用されます。たとえば、クライアントから HTML で Web サーバにアクセスする場合、クライアント ソフトウェア (Virtual KVM Client (VKC)) をクライアントにダウンロードする場合、KVM データと仮想メディア データをクライアントに転送する場合などです。
KX III (Raritan KVM-over-IP) プロトコル、ポート 5000 (変更可)	このポートは、他の Dominion デバイスの検出、および Raritan デバイスと各種システム (CC-SG 管理で利用可能なデバイス向けの CC-SG など) との間の通信に使用されます。 このポートはデフォルトで 5000 に設定されていますが、別の TCP ポートに変更することもできます。この設定を変更する手順については、「ネットワーク設定」を参照してください。
SNTP (時刻サーバ)、UDP ポート 123 (変更可)	KX III の内部クロックを中央の時刻サーバと同期させることができます。 この機能を利用するには UDP ポート 123 (SNTP 用の標準ポート) を

ポート	説明
	使用する必要がありますが、別のポートに変更することもできます。(オプション)
LDAP/LDAPS、ポート 389 または 636 (変更可)	LDAP/LDAPS プロトコルを使用してユーザをリモート認証するように KX III LDAP/LDAPS プロトコルを使用してユーザをリモート認証するように KX III が設定されている場合、デフォルトでポート 389 または 636 が使用されます。ただし、別のポートに変更することもできます。(オプション)
RADIUS、ポート 1812 (変更可)	RADIUS プロトコルを使用してユーザをリモート認証するように KX III が設定されている場合、デフォルトでポート 1812 が使用されます。ただし、別のポートに変更することもできます。(オプション)
設定可能なポート 1813 を使用する RADIUS アカウンティング	RADIUS プロトコルを使用してユーザをリモート認証するように KX III が設定されており、かつ、イベントのログ記録に RADIUS アカウンティングが使用されている場合、ログ通知の転送にデフォルトでポート 1813 が使用されます。ただし、別のポートに変更することもできます。
SYSLOG、UDP ポート 514 (変更可)	メッセージを Syslog サーバに送信するように KX III が設定されている場合、通信にデフォルトでこのポートが使用されます。ただし、別のポートに変更することもできます。
SNMP、デフォルトの UDP ポート	送受信の読み取り/書き込み SNMP アクセスにはポート 161 が使用されます。SNMP トラップの送信トラフィックにはポート 162 が使用されます。(オプション)
TCP ポート 22	ポート 22 は、KX III のコマンド ライン インタフェース (CLI) を利用する際に使用されます (お客様が Raritan のテクニカル サポート部門と協力して作業する場合)。
SSH	SSH (Secure Shell) ポートは設定できます。デフォルトはポート 22 です。
Telnet	Telnet ポートは設定できますが、お勧めしません。デフォルト ポートは 23 です。

HTTP ポートおよび HTTPS ポートの設定

KX III によって使用される HTTP ポートまたは HTTPS ポートを設定できるようになりました。たとえば、デフォルトの HTTP ポートであるポート 80 を別の用途で使用している場合、HTTP 用ポートを変更すると、ポート 80 が HTTP 用として使用されなくなります。

▶ HTTP ポートまたは HTTPS ポートの設定を変更するには

1. [Device Settings(デバイス設定)] > [Device Services(デバイス サービス)] をクリックします。[Device Services(デバイス サービス)] ページが開きます。
2. [HTTP Port] (HTTP ポート) フィールドまたは [HTTPS Port] (HTTPS ポート) フィールド (あるいはその両方) に新しいポート番号を入力します。
3. [OK] (OK) をクリックします。

ソフトウェア

サポートされているオペレーティング システムとブラウザ

オペレーティング システム	ブラウザ
Windows 7® Home Premium SP1 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Internet Explorer® 10 および 11 ▪ Firefox® 25 ▪ Chrome® 31 ▪ Safari® 5.1.7
Windows 7 Ultimate SP1 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Internet Explorer 8、9、11 ▪ FireFox 25 ▪ Chrome 31
Windows 7 Ultimate 32 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Internet Explorer 8 ▪ FireFox 25 ▪ Chrome 31
Windows 8® 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Internet Explorer 10 ▪ FireFox 25 ▪ Chrome 31
Windows Server 2012® Standard 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Internet Explorer 10 ▪ FireFox 25 ▪ Chrome 31
Windows XP® Home Edition SP 3	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Internet Explorer 10 ▪ FireFox 25

オペレーティング システム	ブラウザ
	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Chrome 31
openSUSE® 11.4 Celadon (x86_64)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Firefox 16.0.2
Fedora® 18 (Spherical Cow)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ FireFox 24
RHEL 6.4	<ul style="list-style-type: none"> ▪ FireFox 21
OS X Mountain Lion® 10.8.5 *	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Firefox 25 (推奨) ▪ Safari 6.1
Solaris® 10 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Firefox 3.6.23
Mac® 10.7.5	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Safari 6.0.5 ▪ FireFox 25

**注: OS X 10.8.2 から OS X 10.8.3 にアップグレードすると、Safari® で Java™ がブロックされる場合があります。*

Mac の JRE の要件およびブラウザに関する注意事項

Mac の Java Runtime Environment の要件

Virtual KVM Client (VKC) を使用して KX III 経由でターゲット サーバにアクセスする場合は、PC および Mac® に Java Runtime Environment 7 (JRE)® をインストールします。

ターゲット サーバ/PC/Mac にリモート アクセスするときに、高パフォーマンスで KVM-over-IP ビデオ処理を行うためには、この方法が確実です。

Mac 用の JRE の最新バージョンは、Apple サポート Web サイトからダウンロードできます。

Mac のブラウザに関する注意事項

特定のブラウザでは、Java がデフォルトで無効になっている場合があります。KX III を使用するためには、Java を有効にしてすべてのセキュリティ警告を承諾します。

特定のバージョンの Safari® では、セキュリティ上の理由から Java がブロックされます。KX III を使用するには、Java が必要なので、代わりに Firefox® を使用することをお勧めします。

さらに、場合によっては、多くのメッセージを参照する必要があります。こうしたメッセージが表示される場合は、[ブロックしない] を選択します。

Java および Microsoft .NET の要件

Java® 1.7 (以降) または Microsoft .NET® 3.5 (以降) では、KX III を使用する必要があります。

KX III では、現在の Java バージョンが確認され、適合していない場合は、更新するよう求められます。

詳細については、「*Java Runtime Environment (JRE) に関する留意事項* 『146p. 』」を参照してください。

多言語対応キーボードの JRE の要件

多言語対応のキーボードを KX III および Virtual KVM Client (VKC) で使用できるようにするには、多言語バージョンの JRE™ をインストールする必要があります。

監査ログおよび Syslog でキャプチャされるイベント

KX III の監査ログと syslog でキャプチャされるイベントの一覧と説明は以下のとおりです。

- Access Login (アクセス ログイン) - ユーザが KX III にログインしました。
- Access Logout (アクセス ログアウト) - ユーザが KX III からログアウトしました。
- Active USB Profile (アクティブ USB プロファイル) - USB プロファイルがアクティブになりました。
- CIM Connected (CIM 接続) - CIM が接続されました。
- CIM Disconnected (CIM 切断) - CIM が切断されました。
- Connection Lost (切断) - ターゲットへの接続が切断されました。
- Disconnected User (ユーザの切断) - ユーザがポートから切断されました。
- End CC Control (CC 制御終了) - CC-SG 管理対象から除外されました。
- Login Failed (ログイン失敗) - ユーザのログインが失敗しました。
- Password Changed (パスワード変更) - パスワードが変更されました。
- Port Connect (ポート接続) - ポートが接続されました。
- Port Disconnect (ポート切断) - ポートが切断されました。
- Port Status Change (ポート ステータス変更) - ポート ステータスが変更されました。
- Scan Started (スキャン開始) - ターゲットのスキャンが開始されました。
- Scan Stopped (スキャン停止) - ターゲットのスキャンが停止されました。
- Session Timeout (セッション タイムアウト) - セッション タイムアウトが発生しました。
- VM Image Connected (VM イメージ接続) - VM イメージが接続されました。
- VM Image Disconnected (VM イメージ切断) - VM イメージが切断されました。

この章の内容

概要	146
Java Runtime Environment (JRE) に関する留意事項	146
CIM に関する留意事項	147
仮想メディアに関する留意事項	149
ビデオ モードと解像度に関する留意事項	152
キーボードに関する留意事項	153
マウスに関する留意事項	157
音声	158
スマート カードに関する留意事項	159
ブラウザに関する留意事項	159

概要

この章では、KX III の使用に関する重要事項について説明します。今後更新される情報については、弊社 Web サイトで提供されます。更新情報を表示するには、KX III リモート コンソールの [Help] (ヘルプ) リンクをクリックしてください。

注: このセクションの一部のトピックでは、記載されている情報がさまざまなデバイスに影響を与えるため、他の複数の Raritan デバイスにも言及しています。

Java Runtime Environment (JRE) に関する留意事項

Java のキャッシュ機能の無効化および Java キャッシュのクリア

Microsoft Windows® の Java のキャッシュ機能は無効にし、Java™ キャッシュをクリアすることを強くお勧めします。

▶ **Java のキャッシュ機能は無効にしてキャッシュをクリアするには、以下の手順に従います。**

1. Windows の [スタート] メニューの [コントロール パネル] をクリックします。
2. Java アイコンをダブルクリックして、起動します。[Java コントロール パネル] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. Java キャッシングを無効にするには、以下の手順に従います。
 - a. [一般] タブで [設定] ボタンをクリックします。[一時ファイルの設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

- b. [アプレットの表示] ボタンをクリックします。Java Applet キャッシュ ビューアが開きます。
 - c. [キャッシュを有効にする] チェックボックスがオンになっている場合は、オフにします。
 - d. [OK] をクリックします。
4. Java キャッシュをクリアするには、以下の手順に従います。
 - a. [一時ファイルの設定] ダイアログ ボックスで、[ファイルの削除] ボタンをクリックします。[一時ファイルの削除] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - b. 削除する一時ファイルを選択します。
 - c. [OK] をクリックします。

Java が Mac に正しくロードされていない場合

Mac® を使用しており、KX III ポート アクセスの表のデバイスに接続するときに、次のメッセージが表示される場合は、Java™ が正しくロードされていません。

“Error while getting the list of open targets, please try again in a few seconds. (開かれているターゲットのリストの取得中にエラーが発生しました。少ししてから、もう 1 度試してください。)”

このエラーが発生する場合は、インストールされている Java を次の Web サイトから確認します。

<http://www.java.com/en/download/testjava.jsp>

<http://www.java.com/en/download/testjava.jsp>

Java アプレットが非アクティブの場合は、このページから有効にすることができます。Java が正しくインストールされていない場合は、メッセージでわかるので、Java を再インストールできます。

CIM に関する留意事項

Linux ターゲット サーバに対して Windows の 3 ボタン マウスを使用する場合

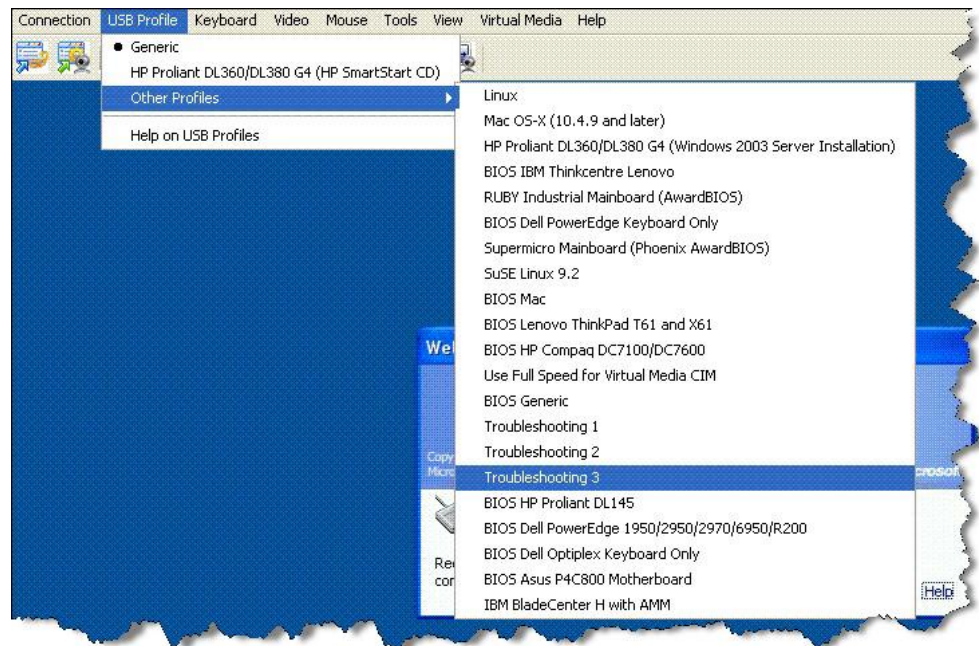
Linux® ターゲット サーバに接続している Windows® クライアントで 3 ボタン マウスを使用する場合、左マウス ボタンがその 3 ボタン マウスの中央ボタンに対応付けられることがあります。

Windows 2000 での複合 USB デバイスの動作

Windows 2000® では、Raritan の D2CIM-VUSB のような複合 USB デバイスはサポートされていないので、非複合 USB デバイスと同じように扱われます。

したがって、D2CIM-VUSB によってマッピングされているドライブに対する [Safely Remove Hardware] (ハードウェアの安全な取り外し) アイコンがシステム トレイに表示されません。また、D2CIM-VUSB を取り外す際、警告メッセージが表示されることがあります。ただし、Raritan が確認したところでは、このメッセージが表示されても何の問題も発生しません。

米国にある Raritan の設計部門は、この [Safely Remove Hardware] (ハードウェアの安全な取り外し) アイコンを表示すると共にこの警告メッセージの表示を回避するための構成を考え出しました。この構成では、D2CIM-DVUSB 仮想メディア アダプタと "Troubleshooting 3" USB プロファイルを使用する必要があります。この USB プロファイルは、D2CIM-DVUSB を、仮想メディア接続を 1 本しかサポートしない非複合 USB デバイスとして設定するものです。Raritan は、米国と日本でこの構成を十分にテストしました。



仮想メディアに関する留意事項

Linux クライアントからドライブに接続できない場合

Linux® Fedora™ 18 と Java™ 1.7.0 (update 45 以降) が稼働しているクライアントから接続するときに、ターゲット サーバの仮想メディア ドライブに接続できない場合は、クライアントで Fedora 18 の SELinux を無効にして問題を解決してください。

Mac クライアントからファイルの読み書きができない場合

Safari® 6.1 と Java™ 1.7 が稼働している Mac® 10.8.5 クライアントから KX III に接続しており、ターゲット サーバのファイルの読み書きができない場合や、仮想メディアにアクセスできない場合は、以下の手順に従って修正してください。

1. Safari で、[環境設定] を選択します。
2. [セキュリティ] タブで、[Web サイト設定を管理] を選択します。
3. "KX3 の Web サイト" をクリックします。
4. ドロップダウンから [安全でないモードで実行] を選択します。
5. Safari を再起動します。

Windows 環境での VKC および AKC を介した仮想メディア

Windows XP® の Administrator 権限および標準ユーザ権限は、Windows Vista® および Windows 7® とは異なります。

Vista または Windows 7 でユーザ アクセス制御 (UAC) を有効にすると、ユーザがアプリケーションの実行に必要とする最低レベルの権限が与えられます。たとえば、Internet Explorer® でユーザに管理者レベルのタスクの実行を明示的に許可するための [管理者として実行] オプションが用意されています。このオプションを使用しない場合、ユーザは管理者としてログインしていても管理者レベルのタスクを実行できません。

どちらの機能も、ユーザが Virtual KVM Client (VKC) および Active KVM Client (AKC) を使用してアクセスできる仮想メディアのタイプに影響します。これらの機能の詳細および使用方法については、Microsoft® のヘルプを参照してください。

ユーザが Windows 環境で VKC および AKC を使用してアクセスできる仮想メディアのタイプを以下に示します。機能をクライアント別に分類し、各 Windows ユーザ役割がアクセスできる仮想メディア機能を示します。

Windows XP

VKC および AKC を Windows XP 環境で実行している場合、CD-ROM 接続、ISO、および ISO イメージを除く仮想メディア タイプにアクセスするには、ユーザに管理者権限が必要です。

Windows Vista および Windows 7

VKC および AKC を Windows Vista または Windows 7 環境で実行し、UAC が有効になっている場合は、ユーザの Windows 役割に応じて以下の仮想メディア タイプにアクセスできます。

クライアント	管理者	標準ユーザ
AKC および VKC	アクセス先: <ul style="list-style-type: none"> 固定ドライブと固定ドライブパーティション リムーバブルドライブ CD/DVD ドライブ ISO イメージ リモート ISO イメージ 	アクセス先: <ul style="list-style-type: none"> リムーバブル ドライブ CD/DVD ドライブ ISO イメージ リモート ISO イメージ

ファイル追加後に仮想メディアが最新の情報に更新されない

仮想メディア ドライブがマウントされた後、そのドライブにファイルを追加した場合、ターゲット サーバ側でそのファイルがすぐに表示されないことがあります。表示するには、仮想メディア接続をいったん解除し、再確立します。

仮想メディアの Linux ドライブが 2 回リストされる

KX III では、ユーザが Linux™ クライアントに root ユーザとしてログインしている場合、ドライブが [Local Drive] (ローカル ドライブ) ドロップダウン リストに 2 回リストされます。

たとえば、eg /dev/sdc と eg /dev/sdc1 が表示されます。1 つ目のドライブはブート セクタ、2 つ目のドライブはディスクの最初のパーティションです。

Windows 2000 の仮想メディアへのアクセス

D2CIM-VUSB を使用して Windows 2000® サーバ上の仮想メディアに仮想メディア ローカル ドライブにアクセスすることはできません。

Mac および Linux の仮想メディア USB ドライブの切断

Linux® または Mac® 環境の場合:

- Linux ユーザに対して、/dev/sdb および /dev/sdb1 が存在している場合、クライアントでは /dev/sdb1 のみが使用され、それがリムーバブル ディスクとして公開されます。
- /dev/sdb をユーザが利用することはできません。
- Linux ユーザに対して、/dev/sdb は存在するけれども /dev/sdb1 が不在の場合は、/dev/sdb がリムーバブル デバイスとして使用されます。
- Mac ユーザに対しては、/dev/disk1 および /dev/disk1s1 が使用されます。

仮想メディア機能利用時におけるターゲット サーバの BIOS の起動時間

ターゲット サーバにおいてメディアが仮想マウントされている場合、そのターゲット サーバの BIOS の起動に要する時間が長くなる場合があります。

▶ **起動に要する時間を短縮するには**

1. VKC を終了し、仮想メディア ドライブを完全に解放します。
2. ターゲット サーバを再起動します。

高速の仮想メディア接続を使用した場合の仮想メディアの接続エラー

[High Speed USB] (高速 USB) 接続でターゲットに問題が発生する場合、またはターゲットで接続やケーブルの追加に起因する信号劣化により USB プロトコル エラーが発生する場合は、[Use Full Speed for Virtual Media CIM] (仮想メディア CIM でフル スピードを使用) の選択が必要になることがあります。(たとえば、ドングルを介したブレード サーバへの接続)。

ビデオ モードと解像度に関する留意事項

Mac でのビデオ画像の表示が暗い場合

Mac® の HDMI ビデオ ポートを使用していて、ビデオが暗すぎる場合は、CIM の DVI 互換モードを有効にすると、問題の解決に役立ちます。

「CIM ポートの設定」を参照してください。

ローカル ポートで黒色の縞が表示される場合

特定のサーバおよび画面解像度では、ローカル ポートで画面の端に黒色の小さい縞が表示される場合があります。

このような場合は、以下の手順に従います。

1. 別の解像度を設定してみます。または、
2. デジタル CIM を使用している場合は、[Port Configuration] (ポート設定) ページで [Display Native Resolution] (本来の表示解像度) を別の解像度に変更します。あるいは、
3. HDMI CIM を使用している場合は、DVI 互換モードにします。

さらに支援を必要とする場合は、Raritan のテクニカル サポートにお問い合わせください。

Sun Composite Sync ビデオ

Sun™ Composite Sync ビデオは、サポートされていません。

SUSE と VESA のビデオ モード

SUSE の X.org 設定ツールである SaX2 を実行すると、X.org 設定ファイル内の Monitor セクションの Modeline エントリにビデオ モードが書き込まれます。これらのビデオ モードは、VESA モニタを選択している場合であっても、VESA のビデオ モード タイミングと正確に対応していません。一方 KX III では、正確に同期させるため、VESA のビデオ モード タイミングが使用されています。このビデオ モード タイミングの不一致により、黒の境界線が表示される、画面の一部が表示されない、ノイズが発生する、などの問題が発生することがあります。

▶ SUSE のビデオ表示を設定するには

1. 生成された設定ファイル /etc/X11/xorg.conf 内に Monitor セクションがあり、その中に UseModes というオプションがあります。たとえば、
UseModes "Modes[0]" と書き込まれています。
2. この行の先頭に # を付加してコメント行にするか、または、この行全体を削除します。
3. X サーバを再起動します。

これにより、X サーバの内部ビデオ モード タイミングが使用されるようになるので、VESA のビデオ モード タイミングと正確に対応します。この結果、KX III 経由で画面が正しく表示されます。

キーボードに関する留意事項

フランス語キーボード

キャレット記号 (Linux クライアントのみ)

Linux® クライアントとフランス語キーボードを併用する場合、Virtual KVM Client (VKC) では Alt Gr + 9 というキー組み合わせがキャレット記号 (') として処理されません。

▶ キャレット記号を入力するには

フランス語キーボードの ^ キー (P キーの右にある) を押し、すぐに Space キーを押します。

次のコマンドを実行するマクロを作成する方法もあります。

1. 右 Alt キーを押す。
2. 9 キーを押す。
3. 9 キーを離す。
4. 右 Alt キーを離す。

注:これらの手順は、母音の上に付ける曲折アクセントには当てはまりません。フランス語キーボードで ^ キーと他の文字を組み合わせて使用した場合、曲折アクセントになります。

アクセント記号 (Windows XP クライアントのみ)

Windows XP® クライアントでフランス語キーボードを使用する場合、Virtual KVM Client (VKC) で Alt Gr + 7 というキー組み合わせを使用すると、アクセント記号付き文字が 2 つ表示されます。

注:この現象は、Linux® クライアントでは発生しません。

数字キーパッド

Virtual KVM Client (VKC) でフランス語キーボードを使用する場合、数字キーパッドにある記号は次のとおりに表示されます。

数字キーパッド上の記号キー	
/	;
.	;

ティルデ記号

Virtual KVM Client (VKC) でフランス語キーボードを使用する場合、Alt Gr + 2 というキー組み合わせがティルデ記号 (˘) として処理されません。

▶ ティルデ記号を入力するには

次のコマンドを実行するマクロを作成します。

- 右 Alt キーを押す。
- 2 キーを押す。
- 2 キーを離す。
- 右 Alt キーを離す。

キーボード言語の設定 (Fedora クライアント)

Linux® 版の JRE™ には、[System Preferences] (システム基本設定) で設定した外国語キーボードに対して正しいキー イベントが生成されない、という問題があります。したがって、次の表に示す方法を使用して外国語キーボードを設定することを推奨します。

言語	設定方法
アメリカ英語/ 国際	デフォルト設定
イギリス英語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
フランス語	Keyboard Indicator
ドイツ語	Keyboard Indicator
ハンガリー語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
スペイン語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
ドイツ語 (スイス)	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
ノルウェー語	Keyboard Indicator
スウェーデン語	Keyboard Indicator
デンマーク語	Keyboard Indicator
日本語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
韓国語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
スロベニア語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
イタリア語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)
ポルトガル語	[System Settings] (システム設定) (Control Center)

注: デスクトップ環境として *Gnome* を使用している *Linux* システムでは、*Keyboard Indicator* を使用してください。

Linux クライアントでハンガリー語キーボードを使用している場合、ダブル アク्यूト付き U およびダブル アク्यूト付き O は、JRE 1.6 (以降) でのみ入力できます。

Fedora® クライアントでは、キーボード言語を設定する方法がいくつかあります。Virtual KVM Client (VKC) でキーを正しく対応付けるには、次に示す方法を使用する必要があります。

▶ **[System Settings] (システム設定) を使用してキーボード言語を設定するには**

1. ツールバーで [System] (システム) > [Preferences] (基本設定) > [Keyboard] (キーボード) を選択します。
2. [Layouts] (レイアウト) タブをクリックします。
3. 言語を追加または選択します。
4. [Close] (閉じる) をクリックします。

▶ **Keyboard Indicator を使用してキーボード言語を設定するには**

1. タスク バーを右クリックし、[Add to Panel] (パネルに追加) をクリックします。
2. [Add to Panel] (パネルに追加) ダイアログ ボックスで、Keyboard Indicator を右クリックし、メニューの [Open Keyboard Preferences] (キーボード基本設定) をクリックします。
3. [Keyboard Preferences] (キーボード基本設定) ダイアログ ボックスで、[Layouts] (レイアウト) タブをクリックします。
4. 必要に応じて言語を追加または削除します。

Linux ターゲット サーバでマクロが保存されない場合

Linux® *Fedora*™ 18 と *Java*™ 1.7.0 (update 45 以降) が稼働しているターゲット サーバでマクロを作成して保存しても、次のエラー メッセージが表示される場合は、ターゲット サーバで *Fedora* 18 の SELinux を無効にして問題を解決してください。

```
"An error occurred attempting to write the new keyboard macros. (キーボード マクロを新規作成しようとして、エラーが発生しました。) Macro was not added (マクロは追加されませんでした)"
```

リモート アクセスに対応していない Mac キーボードのキー

クライアントとして Mac® を使用している場合、Mac® キーボードの次のキーは、Java™ Runtime Environment (JRE™) によって取り込まれません。

- F9
- F10
- F11
- F14
- F15
- Volume Up
- Volume Down
- Mute
- Eject

その結果、Virtual KVM Client (VKC) では、Mac クライアントのキーボードのこうしたキーは処理できません。

マウスに関する留意事項

マウス ポインタの同期 (Fedora)

Fedora® 7 を実行しているターゲット サーバにデュアル マウス モードで接続しているときに、ターゲット サーバとローカルのマウス ポインタが同期しなくなった場合、マウス モードをインテリジェント モードに、またはインテリジェント モードから標準モードに変更すると同期が回復することがあります。

シングル マウス モードを使用すると、制御しやすくなります。

▶ **マウス ポインタを再度同期させるには、以下の手順に従います。**

- Virtual KVM Client (VKC) の [Synchronize Mouse] (マウスを同期) オプションを使用します。

シングル マウス モード: CC-SG の管理下にあるターゲットに接続する場合

Firefox® と DCIM-PS2 または DCIM-USBG2 を使用して、CC-SG の管理下にある KX III ターゲットに接続しているとき、Virtual KVM Client (VKC) でシングル マウス モードに切り替えると、VKC ウィンドウからフォーカスが外れ、マウスが応答しなくなります。

この場合、マウスの左ボタンをクリックするかまたは Alt キーを押しながら Tab キーを押し、フォーカスを VKC ウィンドウに戻します。

音声

音声の再生とキャプチャに関する問題

音声接続を妨げる可能性がある機能

音声デバイスに接続中、以下の機能を使用している場合は、音声接続が妨げられる可能性があります。音声デバイスに接続する場合は、これらの機能を使用しないことを推奨します。

- ビデオの自動検出
- ローカル ポートを頻繁に使用する機能
- ユーザの追加

キャプチャ デバイスおよび再生デバイスをターゲットで同時に使用した場合の問題

一部のターゲットでは、USB ハブ コントローラーとその USB ポートの管理方法により、キャプチャ デバイスと再生デバイスの同時接続が機能しない場合があります。必要な帯域幅が小さい音声形式を選択することを検討してください。

それでも問題が解決しない場合は、ターゲットで D2CIM-DVUSB CIM のキーボードおよびマウス コネクタを別のポートに接続してください。それでも問題が解決しない場合は、デバイスを USB ハブに接続し、ハブをターゲットに接続してください。

Linux 環境での音声

以下は、Linux® 環境で音声機能を使用する場合の既知の問題です。

- Linux® ユーザは、再生にデフォルト音声デバイスを使用してください。デフォルト以外のサウンド カードを選択した場合は、音が出力されない可能性があります。
- SuSE 11 クライアントでは、YAST を介して Javas_1.6_0-sun-alsa (ALSA 対応の java-1.6_0-sun) をインストールしておく必要があります。
- マイクが組み込まれた Logitech® ヘッドセットの場合は、[Mono Capture] (モノラル キャプチャ) オプションのみを使用できます。
- デバイスを表示するためには、SUSE 11 および ALSA ドライバを実行している場合、KX III からログアウトして、ログインし直します。また、音声デバイスの接続と切断を数回繰り返した場合、本来は 1 回だけリストされるべきデバイスが、複数回リストされる可能性があります。
- Fedora Core® 13 ターゲットで音声機能を使用している場合、モノラル 16 ビット、44k に設定すると、再生が著しく妨げられる可能性があります。

Windows 環境での音声

Windows® 64 ビットクライアントで、Virtual KVM Client (VKC) からデバイスにアクセスすると、[Connect Audio] (音声に接続) パネルに再生デバイスが 1 つだけリストされます。

音声デバイスはデフォルト デバイスであり、[Connect Audio] (音声に接続) パネルに「Java Sound Audio Engine」として表示されます。

スマート カードに関する留意事項

Fedora サーバへの Virtual KVM Client (VKC) スマート カードの接続

Virtual KVM Client (VKC) でスマート カードを使用して Linux® Fedora® サーバに接続する場合は、pcsc-lite ライブラリを 1.4.102-3 以降にアップグレードします。

ブラウザに関する留意事項

Fedora 使用時の Firefox のフリーズに関する問題の解決

Fedora® サーバを使用している場合に Firefox® にアクセスすると、Firefox を開くときに Firefox がフリーズすることがあります。

この問題を解決するには、libnpp2.so という Java™ プラグインをサーバにインストールします。

この章の内容

一般的な FAQ.....	160
リモート アクセス	163
ユニバーサル仮想メディア.....	167
帯域幅と KVM-over-IP のパフォーマンス	169
IPv6 ネットワーキング	173
サーバ.....	175
ブレード サーバ.....	176
インストール.....	178
ローカル ポート - KX III.....	180
拡張ローカル ポート	182
二重化電源.....	182
インテリジェント電源タップ (PDU) の管理	183
Ethernet と IP ネットワーキング.....	184
ローカル ポートの統合およびカスケード接続	186
コンピュータ インタフェース モジュール (CIM).....	189
セキュリティ.....	190
スマート カード認証と CAC 認証.....	192
管理機能	193
ドキュメントおよびサポート	195
その他.....	196

 一般的な FAQ

質問	回答
Dominion KX III とは何ですか？	<p>Dominion KX III は第 3 世代のデジタル KVM (キーボード、ビデオ、マウス) スイッチです。1、2、4、または 8 人の IT 管理者は BIOS レベルの機能を使用して、ネットワーク上の 8、16、32、または 64 台のサーバにアクセスし、そのサーバを制御できます。Dominion KX III ではハードウェアと OS が完全に独立しているため、サーバがダウンしているときでも、ユーザはトラブルシューティングや再設定を行えます。</p> <p>ラックからアクセスする場合も Dominion KX III では従来のアナログ KVM スイッチと同様の機能性と利便性が提供され、スペースやコストを削減できます。その一方、Dominion KX III には業界最高のパフォーマンスを誇る KVM-over-IP 技術も組み込まれているため、複数の管理者がネットワーク接続されたワークステーション、iPhone®、iPad® からサーバ KVM コンソールにアクセスできます。</p>

質問	回答
<p>KX III は、KX II とどう違うのですか？</p>	<p>KX III は、KX II の次世代バージョンです。処理能力とストレージが増強された最新のハードウェア設計を特徴とする KX III では、IT 管理向けの KVM-over-IP アクセス、およびブロードキャスト アプリケーション向けの高パフォーマンスの IP アクセスが実現されます。KX III には、X II のほぼすべての機能と、以下の先進技術が組み込まれています。</p> <p>KX III の新しいビデオ処理エンジンでは、従来のコンピュータ アプリケーションから、30 フレーム/秒、1920 x 1080 ビデオ、24 ビット カラー、デジタル音声、デュアル モニタ、および DVI、HDMI、DisplayPort、VGA ビデオを必要とするダイナミックなブロードキャスト アプリケーションに至るまで、幅広いアプリケーションがサポートされています。</p> <p>業界初の DVI ベースのローカル ポートを備えた KX III の共通ユーザ インタフェースにより、ローカル管理およびサーバ アクセスに関してこれまでにない生産性やパフォーマンスが得られます。</p> <p>すべての KX III モデルにカスケード接続ポートが装備されているため、複数の Dominion KX III を接続し、それぞれに接続されたサーバへのアクセスが可能になります。統合ポート リスト経由で最大 1024 台のサーバにアクセスできます。</p> <p>KX III は、KX II でサポートされていたすべての Dominion CIM および Paragon II CIM をサポートします。</p>

質問	回答
<p>Dominion KX III がリモート制御ソフトウェアと異なるのは、どのような点ですか？</p>	<p>Dominion KX III をリモートで使用すると、インタフェースは一見 pcAnywhere™、Windows® Terminal Services/Remote Desktop、VNC などのリモート制御ソフトウェアと同じに見えます。しかし Dominion KX III はソフトウェアではなく、ハードウェアソリューションであるため、より強力な機能を提供します。</p> <p>ハードウェアや OS に依存しない: Dominion KX III を使用して、一般的なさまざまな OS が稼動しているサーバ、たとえば、Windows、Linux®, Solaris™ などが稼動する Intel®, Sun®, PowerPC を搭載したサーバを管理できます。</p> <p>状態に依存せず、エージェントも不要 - Dominion KX III では、管理サーバで OS を起動している必要がありません。さらに、管理サーバに特別なソフトウェアをインストールする必要もありません。</p> <p>アウトオブバンド - 管理サーバ自身のネットワーク接続が利用できない場合でも、Dominion KX III を経由して管理できます。</p> <p>BIOS レベルのアクセス - サーバが起動時に停止した場合や、セーフモードでの起動が必要な場合、またはシステム BIOS パラメータの変更が必要な場合でも、Dominion KX III は問題なく動作し、これらの設定を行えます。</p>
<p>Dominion KX III をラックにマウントすることができますか？</p>	<p>使用できます。Dominion KX III には、標準 19 インチ ラック マウント ブラケットが同梱されています。また、逆向きに収容して、サーバポートがある面を前にすることもできます。</p>
<p>Dominion KX III のサイズはどのくらいですか？</p>	<p>Dominion KX III の高さはわずか 1U であり (2U である KX3-864 および KX3-464 を除く)、標準の 19 インチ ラックに収容できます。奥行きはわずか 29 cm です。Dominion KX3-832 および KX3-864 の奥行きは 36 cm です。</p>

リモート アクセス

質問	回答
<p>Dominion KX III ごとに何人のユーザがサーバにリモート アクセスできますか？</p>	<p>Dominion KX III モデルでは、ユーザ チャンネルごとに最大 8 人のユーザが 1 台のターゲットサーバに同時にリモート アクセスし、そのターゲットサーバを制御することができます。DKX3-116 のような 1 チャンネルのデバイスの場合、最大 8 人のリモート ユーザが 1 台のターゲットサーバにアクセスして制御することができます。DKX3-216 のような 2 チャンネルのデバイスの場合は、チャンネル 1 で最大 8 人のユーザがあるターゲットサーバにアクセスして制御し、また、チャンネル 2 で別の最大 8 人のユーザが別のターゲットサーバにアクセスして制御することができます。4 チャンネルのデバイスの場合は、チャンネルごとに最大 8 人のユーザ（合計で $8 \times 4 = 32$ 人のユーザ）が、最大 4 台のターゲットサーバにアクセスし、それらのターゲットサーバを制御することができます。同様に、8 チャンネルのデバイスの場合は、最大 8 人のユーザが 1 台のターゲットサーバにアクセスし、8 チャンネルで最大 32 人のユーザがターゲットサーバにアクセスできます。</p>
<p>iPhone または iPad からリモートでサーバにアクセスできますか。</p>	<p>使用できます。KX III に接続されているサーバに iPhone または iPad からアクセスできるようになりました。</p>
<p>2 人のユーザが同じターゲットサーバの画面を同時に表示できますか。</p>	<p>使用できます。最大 8 名のユーザが 1 台のサーバに同時にアクセスし、制御できます。</p>
<p>2 人のユーザが同じターゲットサーバにアクセスするとき、一方のユーザがリモートでアクセスし、もう一方のユーザがローカルポートからアクセスすることはできますか。</p>	<p>使用できます。ローカルポートはリモート "ポート" からは完全に独立しています。PC 共有機能を使用することで、ローカルポートから同じサーバにアクセスできます。</p>

質問	回答
<p>クライアントから Dominion KX III にアクセスする場合、どのようなハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク設定が必要ですか？</p>	<p>Dominion KX III は Web アクセスが可能のため、アクセスするための特別なソフトウェアをお客様がクライアントにインストールする必要はありません</p> <hr/> <p><i>注:リリース KX III 3.0.0 では、モデムがサポートされていませんが、今後のリリースでサポートされる予定です。</i></p> <hr/> <p>Dominion KX III には、以下の主要な Web ブラウザを使用してアクセスできます。Internet Explorer® および Firefox® を使用してアクセスできます。Dominion KX III には、Windows®、Linux®、および Mac® デスクトップで、Raritan の Windows クライアントおよび Java™ ベースの Virtual KVM Client™ からアクセスできます。</p> <p>Dominion KX III 管理者は、便利なブラウザベースのインタフェースを使用して、リモート管理(パスワードとセキュリティの設定、サーバ名の変更、IP アドレスの変更など)を行うことができます。</p>

質問	回答															
<p>Dominion KX III へのアクセスに使用されるアプレットのファイル サイズはどのくらいですか？また、この VKC アプレットを取得するのにどのくらいの時間がかかりますか。</p>	<p>Dominion KX III へのアクセスに使用される Virtual KVM Client (VKC) アプレットのサイズは約 500 キロバイトです。以下の表に、Dominion KX III のアプレットの取得に必要な時間をネットワークの速度ごとに示します。</p> <table border="1" data-bbox="667 562 1240 1098"> <tbody> <tr> <td data-bbox="667 562 824 684">100 Mbps</td> <td data-bbox="824 562 1076 684">100 Mbps ネットワークの理論上の速度</td> <td data-bbox="1076 562 1240 684">0.05 秒</td> </tr> <tr> <td data-bbox="667 684 824 772">60 Mbps</td> <td data-bbox="824 684 1076 772">100 Mbps ネットワークの実効速度</td> <td data-bbox="1076 684 1240 772">0.08 秒</td> </tr> <tr> <td data-bbox="667 772 824 894">10 Mbps</td> <td data-bbox="824 772 1076 894">10 Mbps ネットワークの理論上の速度</td> <td data-bbox="1076 772 1240 894">0.4 秒</td> </tr> <tr> <td data-bbox="667 894 824 982">6 Mbps</td> <td data-bbox="824 894 1076 982">10 Mbps ネットワークの実効速度</td> <td data-bbox="1076 894 1240 982">0.8 秒</td> </tr> <tr> <td data-bbox="667 982 824 1098">512 Kbps</td> <td data-bbox="824 982 1076 1098">標準的なケーブルモデムのダウンロード速度</td> <td data-bbox="1076 982 1240 1098">8 秒</td> </tr> </tbody> </table>	100 Mbps	100 Mbps ネットワークの理論上の速度	0.05 秒	60 Mbps	100 Mbps ネットワークの実効速度	0.08 秒	10 Mbps	10 Mbps ネットワークの理論上の速度	0.4 秒	6 Mbps	10 Mbps ネットワークの実効速度	0.8 秒	512 Kbps	標準的なケーブルモデムのダウンロード速度	8 秒
100 Mbps	100 Mbps ネットワークの理論上の速度	0.05 秒														
60 Mbps	100 Mbps ネットワークの実効速度	0.08 秒														
10 Mbps	10 Mbps ネットワークの理論上の速度	0.4 秒														
6 Mbps	10 Mbps ネットワークの実効速度	0.8 秒														
512 Kbps	標準的なケーブルモデムのダウンロード速度	8 秒														
<p>Windows KVM クライアントは用意されていますか。</p>	<p>使用できます。Raritan Active KVM Client (AKC) というネイティブの .NET Windows クライアントが用意されています。「Active KVM Client (AKC) ヘルプ『78p.』」を参照してください。</p>															
<p>Windows 以外の KVM クライアントは用意されていますか。</p>	<p>使用できます。Virtual KVM Client (VKC) では、Windows 以外のユーザがデータセンターのターゲットサーバに接続できます。「Virtual KVM Client (VKC) ヘルプ『26p.』」を参照してください。</p>															
<p>KVM クライアントは多言語対応ですか。</p>	<p>使用できます。Dominion KX III のリモート HTML ユーザ インタフェースおよび KVM クライアントでは、日本語、簡体中国語、繁体中国語に対応します。スタンドアロンでも CC-SG 経由でも多言語をサポートします。</p>															

質問	回答
KVM クライアントにおいてデュアル液晶モニターはサポートされていますか。	使用できます。机上で複数台の液晶モニターを使用して生産性を向上させたいお客様のために、Dominion KX III では複数台のモニターに対して KVM セッションを確立できるようになっています。全画面モードと標準モードのどちらも使用できます。
ビデオ カードを 2 枚搭載したサーバをサポートしますか。	はい。リモート ユーザが利用可能な拡張デスクトップ設定で、ビデオ カードが 2 枚サポートされています。

ユニバーサル仮想メディア

質問	回答
Dominion KX III のどのモデルで仮想メディアがサポートされていますか？	すべての Dominion KX III モデルで仮想メディアがサポートされています。スタンドアロンでも、Raritan の集中管理アプライアンスである CommandCenter® Secure Gateway を通じて使用できます。
Dominion KX III では、どのタイプの仮想メディアがサポートされていますか？	Dominion KX III では、以下のタイプのメディアがサポートされています。内蔵または USB 接続された CD/DVD ドライブ、USB 接続された大容量ストレージ デバイス、PC の内蔵ハード ディスク、および ISO イメージです。

質問	回答
<p>仮想メディアに必要なものは何ですか。</p>	<p>Dominion KX III 用の仮想メディア CIM が必要です。VGA ベースの 2 つの CIM として、D2CIM-VUSB および D2CIM-DVUSB があります。</p> <p>D2CIM-VUSB には USB コネクタが 1 つあり、仮想メディアを OS レベルで利用したいお客様に適しています。</p> <p>D2CIM-DVUSB には USB コネクタが 2 つあり、仮想メディアを BIOS レベルで利用したいお客様に適しています。D2CIM-DVUSB は、スマート カード認証、カスケード接続、デジタル音声にも必要です。</p> <p>どちらの CIM でも、USB 2.0 インタフェースに対応しているターゲット サーバへの仮想メディア セッションがサポートされています。32 個セットおよび 64 個セットのお得な CIM パッケージが用意されています。これらの CIM でも、ずれないマウス (Absolute Mouse Synchronization™) やリモート ファームウェア更新がサポートされています。</p> <p>弊社の CIM は、従来からアナログ VGA ビデオをサポートしています。3 つの新しいデュアル仮想メディア CIM では、DVI、HDMI、DisplayPort などのデジタル ビデオ形式をサポートしています。この新しい CIM には、D2CIM-DVUSB DVI、D2CIM-DVUSB HDMI、および D2CIM-DVUSB DP があります。</p>
<p>仮想メディアは安全ですか。</p>	<p>使用できます。仮想メディアのセッションは、256 ビットの AES、128 ビットの AES または RC4 暗号化によって保護されます。</p>
<p>仮想メディアは実際に音声をサポートしていますか。</p>	<p>使用できます。音声の再生と Dominion KX III に接続されたサーバへの録音が可能です。データセンタ内のリモート サーバで再生するサウンドや音声を、デスクトップ PC またはラップトップに接続したスピーカーを使用して聞くことができます。また、PC またはラップトップに接続したマイクを使用してリモート サーバに録音することもできます。デジタル CIM または D2CIM-DVUSB デュアル仮想メディア CIM が必要です。</p>

質問	回答
USB プロファイルとは何ですか。	一部のターゲット サーバでは、仮想メディアなど USB ベースのサービスを利用するために、特別に構成された USB インタフェースを必要とします。USB プロファイルは、KX III の USB インタフェースをターゲット サーバの特性に合わせて調整するものです。
USB プロファイルを使用するのはなぜですか。	USB プロファイルは、BIOS レベルで特に必要となります。仮想メディア ドライブにアクセスする際、BIOS レベルでは USB 仕様が完全にサポートされていないことがあります。一方、USB プロファイルは OS レベルで使用されることもあります。たとえば、Macintosh サーバや Linux サーバにおいてマウス動作を同期させる場合などです。
USB プロファイルはどのように使われますか。	管理者は KX III の [Port Configuration] (ポート設定) ページで、特定の USB プロファイルを使用するように個々のポートまたはポート グループを設定できます。必要があれば、USB プロファイルを KX III クライアントで選択することもできます。詳細については、ユーザ ガイドを参照してください。
仮想メディアを利用する際、USB プロファイルを必ず設定する必要がありますか。	いいえ。仮想メディアを OS レベルで利用する場合や、仮想メディアにアクセスせずに BIOS レベルで操作する場合、デフォルトの USB プロファイルで十分なケースがほとんどです。
使用可能なプロファイルはどれですか。詳細情報はどこで入手できますか。	使用できるプロファイルや詳細については、ユーザ ガイドを参照してください。

帯域幅と KVM-over-IP のパフォーマンス

質問	回答
<p>KVM-over-IP システムで使用される帯域幅はどのくらいですか。</p>	<p>Dominion KX III のまったく新しいビデオ処理により、ビデオの柔軟性とパフォーマンスが向上し、帯域幅を効率的に利用でき、LAN、WAN、またはインターネット経由でいつでも、どこにでもアクセスできます。</p> <p>Dominion KX III では、ターゲット サーバからのキーボード、ビデオ、およびマウス信号のデジタル化、圧縮、および暗号化が行われ、IP ネットワーク経由でリモート クライアントに IP パケットが送信され、ユーザへのリモート セッションが形成されます。KX III は業界最高水準のビデオ処理アルゴリズムを備えているので、ローカル アクセスする場合と遜色ない画質が得られます。</p> <p>画面が変更される際、帯域幅の大部分が使用されるので、キーボードとマウスの処理に割り当てられる帯域幅がかなり狭くなります。</p> <p>重要なのは、帯域幅はユーザがアクティブであるときにのみ使用される、という点です。使用される帯域幅は、サーバの画面表示の変更量に基づいて決まります。</p> <p>画面が変更されない場合、つまり、ユーザがサーバとの間で対話操作をしていない場合、一般に帯域幅はほとんどまたはまったく使用されません。ユーザがマウスを動かした場合やキーボードで文字を入力した場合、少量の帯域幅が使用されます。複雑なスクリーン セーバを実行している場合や動画を再生している場合、多量の帯域幅が使用される可能性があります。</p>
<p>帯域幅は KVM-over-IP システムのパフォーマンスにどのような影響を及ぼしますか。</p>	<p>一般に、帯域幅とパフォーマンスはトレードオフの関係にあります。使用できる帯域幅が広いほど、パフォーマンスが向上します。帯域幅に制約のある環境では、パフォーマンスが低下するおそれがあります。Dominion KX III は、多種多様な環境で高いパフォーマンスを得られるように最適化されています。</p>

質問	回答
帯域幅に影響を及ぼす要素は何ですか。	<p>帯域幅の使用量を決める要素はいろいろあります。最大の要素は前述のとおり、ターゲットサーバの画面表示の変更量です。画面表示の変更量は、ユーザの操作内容によって異なります。</p> <p>その他の要素としては、サーバの画面解像度、ネットワークの速度と特性、KVM Client の接続プロパティ、クライアント PC のリソース、ビデオカードのノイズなどがあります。</p>
KX III で一般的な作業を行う際に使用される帯域幅はどのくらいですか？	使用帯域幅は、主にユーザの操作内容によって決まります。画面表示の変更量が多いほど、使用される帯域幅も広がります。

質問	回答
パフォーマンスおよび帯域幅を最適化するにはどうすればよいですか？	<p>KX III の、ユーザ向けのリモート クライアントでさまざまな設定を行うことにより、帯域幅とパフォーマンスを最適化できます。デフォルト設定では、標準の LAN/WAN 環境において、ローカル アクセスする場合と同等のパフォーマンスが得られると共に、使用帯域幅が節約されます。</p> <p>[Optimize For] (最適化): この設定で、標準の IT / コンピュータ アプリケーションまたはビデオ/ブロードキャスト アプリケーションのビデオ エンジンを設定します。</p> <p>[Compression] (圧縮): スライダーを左に動かすとビデオ品質が最高になり、右に動かすと帯域幅が最小になります。</p> <p>[Noise Filter] (ノイズ フィルタ): ほとんどの場合、デフォルトの設定で効果を発揮しますが、レスポンス ビデオの場合は左に動かし、低帯域幅の場合は右に動かすことができます。</p> <p>その他に帯域幅を狭くするためのヒントとして、以下の方法があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ デスクトップの壁紙に、複雑な画像ではなく無地の画像を使用する。 ▪ スクリーンセーバを無効にする。 ▪ ターゲット サーバで低いビデオ解像度を使用する。 ▪ Windows のコントロール パネルの [画面] で、[ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する] チェック ボックスをオフにする。 ▪ シンプルな画像、テーマ (例: Windows クラシック)、およびデスクトップを使用する

質問	回答
インターネット経由で接続したいと考えています。どの程度のパフォーマンスが期待できますか。	パフォーマンスは、リモート クライアントと KX III の間のインターネット接続の帯域幅と伝送遅延によって決まります。ケーブル モデム接続または高速 DSL 接続の場合、LAN/WAN 接続に近いパフォーマンスが得られる可能性があります。低速ネットワークの場合は、前述の推奨値に設定し、パフォーマンスを向上させてください。
帯域幅の広い環境で KX III を使用することを検討しています。パフォーマンスを最大化するにはどうすればよいですか。	デフォルト設定で十分に機能します。 [Connection Properties] (接続プロパティ) 設定を左に動かすと、ビデオ パフォーマンスを高めることができます。
IP ネットワーク上でのリモートアクセスにおいてサポートされている最大ビデオ解像度はどのくらいですか。	Dominion KX III は、フル HD リモート画面解像度 (1920 x 1080、フレーム レート: 最大 30 フレーム/秒、デジタル音声付き) をサポートしている、業界初かつ唯一の KVM-over-IP スイッチです。 また、よく使われる横長画面形式 (例: 1600 x 1200、1680 x 1050、1440 x 900) もサポートされているので、リモート ユーザは最近販売されている高解像度モニタを使用できます。
音声はどれくらいの帯域幅を使用しますか。	使用する音声形式のタイプにもよりますが、CD 品質の音声を聞く場合は、約 1.5 Mbps が使用されます。
DVI ポート搭載サーバはどのように接続できますか。	DVI-A (アナログ) と DVI-I (アナログ/デジタル統合) をサポートする DVI ポートを備えたサーバでは、Raritan の低価格の ADVI-VGA パッシブ アダプタを使用して、サーバの DVI ポートを VGA プラグに変換し、KX III CIM の VGA プラグに接続できます。 DVI-I または DVI-D (デジタル) をサポートする DVI ポートを搭載したサーバでは、新しい D2CIM-DVUSB DVI CIM を使用できます。

IPv6 ネットワーキング

質問	回答
IPv6 とは何ですか。	<p>IPv6 は “Internet Protocol Version 6” の頭字語です。IPv6 は次世代の IP プロトコルであり、現在使用されている Internet Protocol Version 4 (IPv4) プロトコルを置き換えるものです。</p> <p>IPv6 は、IPv4 が抱えているさまざまな問題を解決します (例: IPv4 アドレスの枯渇)。</p> <p>経路選択やネットワーク自動設定などの機能が IPv4 よりも向上しています。IPv6 は徐々に IPv4 を置き換えていくと予想されています。つまり、数年間は両者が共存することになります。</p> <p>管理者の観点から見ると、IPv6 は IP ネットワークの大きな問題の 1 つを解消します。その問題とは、IP ネットワークの設定作業と保守作業です。</p>
KX III で IPv6 ネットワーキングがサポートされているのはなぜですか？	<p>米国のさまざまな政府機関と国防総省は、調達時に IPv6 対応製品を購入するよう義務付けられています。また、多くの企業および国 (例: 中国) が、今後数年間で IPv6 に移行する予定です。</p>
デュアル スタックとは何ですか。また、デュアル スタックが必要なのはなぜですか。	<p>デュアル スタックとは、IPv4 と IPv6 のプロトコルを同時にサポートする機能のことです。IPv4 から IPv6 に徐々に移行していくことを考えると、デュアルスタックは IPv6 をサポートするうえで必須機能であると言えます。</p>
KX III 上で IPv6 を有効にするにはどうすればよいですか？	<p>[Device Settings] (デバイス設定) タブから [Network Settings] (ネットワーク設定) ページを開きます。次に、[IPv6 Address] (IPv6 アドレス) チェック ボックスをオンにし、[IP Auto Configuration] (IP 自動設定) ボックスの一覧で値を選択します。詳細については、ユーザ ガイドを参照してください。</p>
IPv6 アドレスが設定された外部サーバがあります。この外部サーバを KX III と併用する場合、どうなるでしょうか？	<p>KX III から外部サーバ (SNMP マネージャ、syslog サーバ、LDAP サーバなど) の IPv6 アドレスを使用してそうしたサーバにアクセスすることができます。</p> <p>具体的に言うと、KX III のデュアル スタック アーキテクチャを使用することにより、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、またはホスト名を指定してこれらの外部サーバにアクセスすることができます。つまり KX III は、今後多くのお客様の社内で発生する IPv4/IPv6 混在環境に対応できます。</p>

質問	回答
社内ネットワークで IPv6 がサポートされていない場合、どうなるのでしょうか？	KX III は、出荷時設定では IPv4 だけを使用するようになっています。社内ネットワークで IPv6 を使用できる状態になったら、前述の「Dominion KX II 上で IPv6 を有効にするにはどうすればよいですか。」の手順を実行し、IPv4/IPv6 デュアル スタックを有効にします。
IPv6 に関する詳細情報はどこで入手できますか。	www.ipv6.org に、IPv6 に関する全般情報が掲載されています。また、KX III のユーザ ガイドでは、KX III における IPv6 のサポートについて説明されています。

サーバ

質問	回答
Dominion KX III の操作は Windows サーバに依存しますか？	必要ありません。ユーザは、どのようなシナリオでも必ず使用できる KVM インフラストラクチャに依存しているため（問題を解決するために KVM インフラストラクチャを使用するような場面も考えられます）、Dominion KX III は外部サーバからも完全に独立するよう設計されています。
Dominion KX III に接続するには、サーバでどのような準備が必要ですか？	理想的なマウス同期を実現し、画面表示に影響するスクリーンセーバや電源管理の機能をオフにするように、マウス パラメータ オプションを設定します。
マウス同期機能はどのようになっていますか。	これまでの KVM-over-IP のマウス同期は、不満が残るものでした。Dominion KX III には「ずれないマウス」機能が備わっています。これにより、Windows サーバまたは Apple® Mac サーバを使用している場合は、サーバ側のマウス設定を変更することなく、マウスの動きを厳密に同期させることができます。その他のサーバの場合は、インテリジェント マウス モードまたは高速なシングル マウス モードを使用すれば、サーバ側のマウス設定を変更せずに済みます。

質問	回答
Dominion KX III には何が同梱されていますか？	次のアイテムが同梱されています。(1) Dominion KX III ユニット、(2) クイック セットアップ ガイド、(3) 標準 19 インチ ラック マウント ブラケット、(4) ユーザ マニュアル CD-ROM、(5) 使用地域の AC ライン コード、(6) 保証書とその他の文書。

ブレード サーバ

質問	回答
ブレード サーバを Dominion KX III に接続できますか？	使用できます。Dominion KX III では、代表的なブレード サーバ メーカー (HP®、IBM®、Dell®、および Cisco®) の主要なブレード サーバ モデルがサポートされています
サポートされているブレード サーバはどれですか。	サポートされているモデルは次のとおりです。Dell PowerEdge® 1855、1955、および M1000e、HP BladeSystem c3000 と c7000、IBM BladeCenter® H、E、および S、Cisco UCS B-Series。
どの CIM を使用すればよいですか。	使用する CIM は、ご使用のブレード サーバの製造元とモデルにおける KVM ポートのタイプによって決まります。サポートされている CIM は、DCIM-PS2、DCIM-USBG2、D2CIM-VUSB、および D2CIM-DVUSB です。
使用可能なアクセスおよび制御の方法はどれですか。	Dominion KX III では、(1) ローカル ポートからアクセス、(2) IP を使用してリモート アクセス、(3) CC-SG 経由でアクセス、(4) モデムを使用してアクセス、という 4 種類の方法により、自動で安全な KVM アクセスが可能です。
複数台のブレード サーバを切り替える際、ホットキーを使用する必要がありますか。	一部のブレード サーバでは、複数台のブレード サーバを切り替える際にホットキーを使用する必要があります。Dominion KX III では、ホットキーを使用する必要はありません。ブレード サーバの名前をクリックするだけで、自動的にそのブレード サーバに切り替わります。ホットキーを明示的に使用する必要はありません。

質問	回答
ブレード サーバの管理モジュールにアクセスできますか。	使用できます。管理モジュールの URL を定義し、Dominion KX III または CommandCenter Secure Gateway からアクセスすることができます。ワンクリック アクセスが設定されている場合、1 回のクリック操作でアクセスできます。
Dominion KX III には何台のサーバを接続できますか？	パフォーマンス上および信頼性上の理由により、1 台の Dominion KX III に接続できるブレード シャーシは、モデルにかかわらず最大 8 台です。接続するブレード サーバ筐体の台数は、KX III でサポートされているリモート接続数の 2 倍以内にすることを推奨します。たとえば、リモート チャネルが 2 本ある KX3-216 の場合、接続するブレード サーバ シャーシを 4 台以内にすることをお勧めします。もちろん、残りのサーバ ポートにブレード サーバを接続することもできます。
当社は大企業であり、CommandCenter Secure Gateway を使用しています。CommandCenter Secure Gateway からブレード サーバにアクセスできますか。	使用できます。Dominion KX III 上でブレード サーバの設定が完了したら、CommandCenter Secure Gateway から KVM 接続を使用してブレード サーバにアクセスできるようになります。さらに、ブレード サーバは、シャーシ別に CommandCenter Secure Gateway のカスタムビューにも表示されます。
インバンド KVM アクセスまたは埋め込み KVM アクセスも必要な場合はどうなりますか。	ブレード サーバに対するインバンド アクセスおよび埋め込みアクセスは、CommandCenter Secure Gateway で設定できます。
一部のブレード サーバ上で VMware® を実行しています。この構成はサポートされていますか。	使用できます。CommandCenter Secure Gateway を使用して、ブレード サーバ上で実行されている仮想マシンを表示し、また、その仮想マシンにアクセスすることができます。
仮想メディアはサポートされていますか。	これは、ブレード サーバによって異なります。HP ブレードは、仮想メディアをサポートできます。IBM BladeCenter (BladeCenter T 以外) は、適切に設定されている場合には仮想メディアをサポートします。仮想メディア CIM (D2CIM-VUSB または D2CIM-DVUSB) を使用する必要があります。

質問	回答
ずれないマウス機能はサポートされていますか。	ブレード筐体内に KVM スイッチを備えているサーバの場合、通常、ずれないマウス機能はサポートされません。HP ブレードおよび Dell の一部のブレード サーバの場合は、CIM を各ブレードに接続できるので、ずれないマウス機能がサポートされます。
ブレード サーバへのアクセスは安全ですか。	使用できます。ブレード サーバへのアクセスには、Dominion KX III の標準的なセキュリティ機能 (128 ビットまたは 256 ビットの暗号化など) がすべて使用されます。その他、ブレード サーバ特有のセキュリティ機能があります。たとえば、ブレード サーバごとにアクセス権限を付与する機能や、入力されたホットキーを拒否する機能などがあるので、不正アクセスの防止に役立ちます。
Dominion KSX II および KX III-101 で、ブレード サーバはサポートされていますか？	現時点では、これらの製品ではブレード サーバはサポートされていません。

インストール

質問	回答
Dominion KX III を設置するには、ユニット本体のほかに何を Raritan に注文する必要がありますか？	Dominion KX III に接続するサーバごとに、サーバのキーボード、ビデオ、マウス ポートに直接接続するアダプタである Dominion または Paragon コンピュータ インタフェース モジュール (CIM) が必要です。
導入時、どのタイプの Cat5 ケーブルを使用すればよいですか。	Dominion KX III では、Cat5、Cat5e、または Cat6 の標準 UTP (非シールド ツイスト ペア) ケーブルを使用できます。Raritan のマニュアルや販売資料では、単に「Cat5」と記載されています。実際には、Dominion KX III にはどのブランドの UTP ケーブルも使用できます。

質問	回答
<p>Dominion KX III には、どのタイプのサーバおよび PC を接続できますか？</p>	<p>Dominion KX III はサーバのベンダを選びません。標準に準拠したキーボード ポート、ビデオ ポート、およびマウス ポートを搭載しているあらゆるサーバを接続できます。さらに、シリアル ポートを搭載したサーバは、P2CIM-SER CIM を使用して管理できます。</p>
<p>どのようにサーバを Dominion KX III に接続すればよいですか？</p>	<p>Dominion KX III に接続するサーバには、サーバのキーボード ポート、ビデオ ポート、マウスポートに直接接続する Dominion CIM または Paragon CIM が必要です。Cat5、Cat5e、Cat6 などの標準 UTP (非シールド ツイスト ペア) ケーブルを使用して、各 CIM を Dominion KX III に接続します。</p>
<p>サーバは、Dominion KX III からどのくらいの距離に設置できますか？</p>	<p>サーバの種類にもよりますが、一般に、サーバは Dominion KX III から最大で 45 m (150 フィート) 離れた場所に設置できます (詳細については、「ターゲット サーバのサポートされている画面解像度、接続距離、およびリフレッシュ レート 『124p.』」を参照してください)。仮想メディアとずれないマウスをサポートしている D2CIM-VUSB CIM の場合、推奨範囲は 30 m (100 フィート) です。</p>
<p>オペレーティング システムによっては、操作中にキーボードかマウスを切断した場合、システムがロックする場合があります。それらを切断しても Dominion KX III に接続しているサーバがロックしないようにするには、どうすればよいですか？</p>	<p>Dominion コンピュータ インターフェース モジュール (DCIM) ドングルは、それぞれ接続されているサーバに対する仮想キーボードや仮想マウスとして動作します。この技術は、KME (キーボード/マウス エミュレーション) と呼ばれます。Raritan の KME 技術は、データ センタでの使用に耐えるグレードであり、厳正にテストされています。また、ローエンドの KVM スイッチの技術に比べてはるかに高い信頼性が確保されています。この技術には 15 年間以上に及ぶ実績も生かされており、世界中で何百万台ものサーバに実装されています。</p>
<p>Dominion KX III に接続されているサーバには何らかのエージェントをインストールする必要がありますか？</p>	<p>Dominion KX III はハードウェアを介してサーバのキーボード用、ビデオ用、マウス用の各ポートに直接接続されるため、Dominion KX III に接続されたサーバには、ソフトウェア エージェントを一切インストールする必要がありません。</p>

質問	回答
Dominion KX III ユニットごとに何台のサーバを接続できますか？	Dominion KX III モデルでは、1U シャーシの場合は 8、16、または 32 個のサーバ ポートを、2U シャーシの場合は 8 ～ 64 個のサーバ ポートが用意されています。このデジタル KVM スイッチ ポートの密度は、業界の最高水準です。
サーバを Dominion KX III から切断して別の Dominion KX II に再接続した場合、または同じ Dominion KX III ユニットの別のポートに接続した場合、どうなりますか？	サーバ接続先ポートを変更した場合、サーバポート名が自動更新されます。この変更内容は、ローカル クライアントおよびすべてのリモート クライアントに反映されます。CC-SG を使用している場合は、CC-SG にも反映されます。
Cisco のルータやスイッチ、Sun ヘッドレス サーバなど、シリアル制御 (RS-232) デバイスは、どのように Dominion KX III に接続すればよいですか？	シリアル制御デバイスの数が少ない場合は、Raritan の P2CIM-SER シリアル変換器を使用して Dominion KX III に接続できます。 お客様は、Dominion KSX II (KVM およびシリアルの統合スイッチ) の導入を検討することもできます。DKSX-144 は、4 つの KVM-over-IP ポートおよび 4 つのシリアル ポートを装備しています。 DKSX-188 は、8 つの KVM-over-IP ポートおよび 8 つのシリアル ポートを装備しています。 ただし、シリアル制御デバイスの数が多い場合は、Raritan のセキュア コンソール サーバである Dominion SX 製品を使用することをお勧めします。Dominion SX は、Dominion KX III よりも割安な価格で、より優れたシリアル機能を提供できます。この SX は使いやすく、設定や管理が簡単であるうえに、展開している Dominion シリーズと完全に統合できます。

ローカル ポート - KX III

質問	回答
ラックからサーバに直接アクセスできますか。	使用できます。Dominion KX III は、ラックで従来の KVM スイッチと同じように機能し、1 組のキーボード、モニタ、マウスを使用して、最大 64 台のサーバを制御できます。ブラウザベースのユーザ インターフェイスまたはホットキーによってサーバを切り替えることができます。
複数台の KX III のローカル ポートを統合できますか？	使用できます。KX III のカスケード接続機能を利用すれば、複数台の KX III のローカル ポートを別の KX III に接続できます。これにより、データ センタ内の 1 か所から統合ポート リストを使用して、KX III に接続されているサーバにアクセスできます。
自分がローカル ポートを使用しているとき、他ユーザがサーバにリモート アクセスできないように設定できますか。	いいえ。Dominion KX III のローカル ポートには、サーバへの完全に独立したアクセス パスがあります。つまり、ユーザーはラックからサーバにローカル アクセスできます。ラックに同時にリモート アクセスするユーザーの数を制限する必要はありません。
USB キーボードまたは USB マウスをローカル ポートで使用できますか。	使用できます。Dominion KX III ローカル ポートエリアには、USB キーボード ポートおよびマウス ポートがあります。Dominion KX III には、PS/2 ローカルポートはありません。PS/2 のキーボードおよびマウスを使用しているお客様は、PS/2 - USB アダプタを利用する必要があります。
ローカル アクセスする場合、オンスクリーン ディスプレイ (OSD) は表示されますか。	表示されます。ただし、Dominion KX III のラックからのアクセスは、従来の OSD よりもはるかに優れています。Dominion KX III にはローカル アクセス用に業界初のブラウザベースのインターフェイスが実装されています。また、ローカル ポートではローカル アクセスとリモート アクセスに同じインターフェイスが使用されます。さらに、大半の管理機能をローカルで実行できます。
ローカル ポートを使用しているとき、サーバを切り替えるにはどうすればよいですか。	ローカル ポートを使用しているとき、接続されているサーバが、リモート クライアントと同じ画面に表示されます。サーバを切り替えるには、切り替え先サーバをマウスでクリックするか、ホットキーを使用します。

質問	回答
承認されたユーザだけがローカルポートからサーバにアクセスできるようにするには、どうすればよいですか。	<p>ユーザがローカルポートを使用するには、リモートでアクセスする場合と同レベルの認証を受ける必要があります。これは次のことを意味します。</p> <p>Dominion KX III が外部 RADIUS、LDAP、または Active Directory® サーバと連動するよう設定している場合、ユーザがローカルポートへのアクセスを試みると、同じサーバで認証されます。</p> <p>外部認証サーバが利用できない場合は、Dominion KX III は自身の内部認証データベースにフェイルオーバーします。</p> <p>Dominion KX III は独自のスタンドアロン認証を備えているため、即座にインストールを有効にできます。</p>

拡張ローカルポート

質問	回答
拡張ローカルポートとは何ですか。	<p>Dominion KX2-808、KX2-832、および KX2-864 には、拡張ローカルポートが搭載されています。対応する Dominion KX III モデルには、拡張ローカルポートがありません。代わりに、すべての KX III モデルには、カスケード接続ポートが搭載されています。</p> <p>KX III のデジタルローカルポートを拡張する場合は、Raritan Cat5 Reach DVI 製品を使用すると、500メートルまでのローカルアクセスおよびリモートアクセスが可能になります。</p> <p>「<i>KX III と Cat5 Reach DVI の接続 - 拡張ローカルポート機能の提供</i>」『107p.』を参照してください。</p>

二重化電源

質問	回答
Dominion KX III には二重化電源オプションがありますか？	使用できます。Dominion KX III の全モデルは、AC 入力と AC 電源が二重化されており、自動フェイルオーバー機能を備えています。KX III では一方の電源入力や電源に障害が発生すると、もう一方に自動的に切り替えられます。
Dominion KX III で使用する電源では、電圧設定が自動検知されますか？	使用できます。Dominion KX III の電源は、100 ~ 240 V、50 ~ 60 Hz の範囲の AC 電圧で使用できます。
電源または入力電力に障害が発生した場合、通知されますか。	電源障害は Dominion KX III の前面パネルにある LED でユーザに通知されます。同時に、エントリも監査ログに送信され、KX リモート クライアント ユーザ インタフェースに表示されます。管理者によって設定されている場合は、その後 SNMP イベントまたは syslog イベントが発生します。

インテリジェント電源タップ (PDU) の管理

質問	回答
Dominion KX III にはどのようなタイプのリモート電源管理機能が用意されていますか？	Raritan のインテリジェント PDU は、ターゲット サーバやその他の機器の電源を管理するために Dominion KX III に接続できます。サーバの場合は、簡単な設定作業を一度行えば、サーバ名をクリックするだけで電源を投入または切断したり、停止したサーバに電源を再投入したりできます。
Dominion KX III ではどのようなタイプの電源タップがサポートされていますか？	Raritan の Dominion PX™ 電源タップおよび Remote Power Control (RPC) 電源タップ。 この電源タップには、さまざまなコンセント、コネクタ、およびアンペアの製品があります。PM シリーズの電源タップはコンセントレベルで切り替えできないので、こうした電源タップを Dominion KX III に接続しないでください。
Dominion KX III ユニットには何台の PDU を接続できますか？	1 台の Dominion KX III に最大 8 台の PDU を接続できます。

質問	回答
PDU をどのように Dominion KX III に接続すればよいですか？	電源タップを Dominion KX III に接続するには、D2CIM-PWR を使用します。D2CIM-PWR は別途購入する必要があります。PDU には付属していません。
Dominion KX III では、複数の電源を持つサーバはサポートされていますか？	使用できます。Dominion KX III では、複数の電源タップに接続された複数の電源でサーバをサポートするよう簡単に設定できます。ターゲット サーバごとに 4 つの電源を接続できます。
Dominion KX III には PDU の統計情報と測定値が表示されますか？	使用できます。PDU レベルの電源統計情報 (例: 電力、電流、電圧) が PDU から取得され、ユーザに対して表示されます。
リモート電源管理では、接続されているサーバを特別に設定する必要がありますか？	一部のサーバでは、電源をいったん切断して再投入したときにサーバが自動再起動しないように、BIOS が設定されています。このようなサーバを使用する場合、そのサーバのドキュメントを読み、この設定を変更してください。
サーバの電源を入れ直すようになりますか？	これは、サーバの AC 電源コードをいったん抜いて再度差し込むのと同じことです。

Ethernet と IP ネットワーキング

質問	回答
Dominion KX III の Ethernet インタフェースの速度はどのくらいですか？	Dominion KX III では、10/100 Ethernet に加えてギガビット Ethernet もサポートされています。Dominion KX III では 2 つの 10/100/1000 Ethernet インタフェースがサポートされており、速度と二重化の設定を変更できます (自動検知または手動で設定)。
ワイヤレス接続で Dominion KX III にアクセスできますか？	使用できます。Dominion KX III は標準の Ethernet を使用するだけでなく、高品質なビデオ表示を保ちつつ、使用する帯域幅を抑えます。そのため、ワイヤレス クライアントを Dominion KX III にネットワーク接続していても、サーバの BIOS レベルの設定と管理をワイヤレスで行えます。

質問	回答
<p>Dominion KX III には、冗長フェイルオーバーまたは負荷分散を行うためのデュアル ギガビット Ethernet ポートが用意されていますか？</p>	<p>使用できます。Dominion KX III には、冗長フェイルオーバー機能を実現するためのデュアル ギガビット Ethernet ポートが搭載されています。プライマリ Ethernet ポート（またはポートに接続されているスイッチやルータ）に障害が発生した場合、Dominion KX III が同じ IP アドレスを持つセカンダリ ネットワーク ポートにフェイルオーバーすることにより、サーバの動作が中断されないようにします。自動フェイルオーバーは、管理者が有効にする必要があります。</p>
<p>Dominion KX III を VPN で使用できますか？</p>	<p>使用できます。Dominion KX III では、レイヤ 1～4 において標準的なインターネット プロトコル (IP) 技術が使用されています。そのため、標準的な Virtual Private Network (VPN) から届いたトラフィックを簡単にトンネリングできます。</p>
<p>KX III とプロキシ サーバを組み合わせ使用できますか？</p>	<p>使用できます。リモート クライアント PC が適切に設定されている場合、KX III を SOCKS プロキシ サーバと組み合わせ使用することができます。詳細については、ユーザ マニュアルまたはオンライン ヘルプを参照してください。</p>
<p>Dominion KX III にネットワーク アクセスできるようにするためには、ファイアウォールで TCP ポートをいくつか開く必要がありますか？</p>	<p>2 つのポートが必要です。TCP ポート 5000 で他の Dominion デバイスを検知して Raritan デバイスと CC-SG 間の通信を行います。また、もちろんポート 443 で HTTPS 通信を行います。</p>
<p>また、これらのポートは変更できますか。</p>	<p>使用できます。Dominion KX III の TCP ポートは管理者が設定できます。</p>
<p>Dominion KX III は Citrix® と共に使用できますか？</p>	<p>設定を適切に行えば、Dominion KX III を Citrix などのリモート アクセス製品と共に使用できます。ただし、Raritan では十分なパフォーマンスを維持しつつ作業できるかどうかは保証できません。Citrix のような製品は、デジタル KVM スイッチと概念が似ているビデオ リダイレクト技術が使用されています。したがって、併用した場合 2 種類の KVM-over-IP 技術が同時に使用されるといふ点にご注意ください。</p>

質問	回答
<p>Dominion KX III では DHCP を使用できますか？</p>	<p>DHCP アドレス割り当ては使用できますが、Raritan では固定 IP アドレスの設定を推奨しています。Dominion KX III はインフラストラクチャ デバイスであるため、固定 IP アドレスを使用した方が、Dominion KX III に対してより効率的にアクセスし、管理できます。</p>
<p>IP ネットワークから Dominion KX III にアクセスできなくなりました。原因は何でしょうか。</p>	<p>Dominion KX III はお客様の LAN または WAN ネットワークに依存しています。考えられる原因は次のとおりです。</p> <p>Ethernet のオートネゴシエーション。ネットワークによっては、10/100 オートネゴシエーションが適切に機能しないため、Dominion KX III ユニットの 100 Mb/全二重に設定するか、ネットワークに最適な設定を行う必要があります。</p> <p>IP アドレスの重複。Dominion KX III の IP アドレスが他のデバイスと重複していると、ネットワーク接続を確立できない場合があります。</p> <p>ポート 5000 の競合。他のデバイスでポート 5000 を使用している場合は、Dominion KX III のデフォルトポートを変更する必要があります (または、他のデバイスのポートを変更する必要があります)。</p> <p>Dominion KX III の IP アドレスを変更するか、新しい Dominion KX II に切り替える場合、KX III の IP アドレスと Mac® アドレスがレイヤ 2、レイヤ 3 のネットワークに通知されるまで、十分な時間が必要です。</p>

ローカル ポートの統合およびカスケード接続

質問	回答
<p>複数の Dominion KX III を 1 つのソリューションとして統合するには、物理的にどのように接続すればよいですか？</p>	<p>複数台の KX III を互いに物理接続してローカル アクセスを統合するには、KX III のカスケード接続ポートを使用して、カスケード接続された複数台の KX III の接続ポートをベース KX III に接続します。これにより、データ センタ内の 1 か所から統合ポート リストを使用して、KX III に接続されているサーバにアクセスできます。</p> <p>カスケード接続された KX III をベース KX III に接続するには、カスケード接続ポートを使用する必要があります。</p> <p>統合ポート リストを使用したアクセスは、データ センタ内だけでなくリモート PC からでも可能です。階層型ポート リストまたは検索機能（およびワイルドカード）を使用することにより、カスケード接続 KX III に接続されているすべてのサーバにアクセスできます。</p> <p>カスケード接続レベルは 2 段階までサポートされています。また、カスケード接続構成内の最大 1,024 個のデバイスにアクセスできます。リモート電源制御もサポートされています。</p> <p>将来のリリースでは、カスケード接続構成内で仮想メディア、スマート カード、およびブレード サーバへのアクセスがサポートされる予定です。もちろん、これらの機能は標準リモート接続においても利用できます。</p> <p>利便性を考慮して、IP ネットワーク上で統合ポート リストを使用してリモート IP サーバにアクセスできるようになっています。ただし、CommandCenter から、またはサーバが接続されている KX III からカスケード接続サーバにリモート アクセスする方法の方が、パフォーマンスが高くなるので推奨されます。</p>

質問	回答
<p>Dominion KX III どうしを物理接続する必要がありますか？</p>	<p>複数の Dominion KX III ユニットの物理的に相互接続する必要はありません。その代わりに、各 Dominion KX III ユニットのネットワークに接続します。Raritan の CommandCenter Secure Gateway (CC-SG) 管理アプライアンスを使用して展開すると、1 つのソリューションとして自動的に一体となって機能します。</p> <p>CC-SG は、リモート アクセスおよびリモート管理用の単一のアクセス ポイントとして機能します。</p> <p>たとえば、設定作業の集中管理、ファームウェア更新作業の集中管理、認証データベースの一元化などが可能になるので便利です。</p> <p>リモート アクセスを集中化する目的で CC-SG を使用しているお客様は、KX III のカスケード接続機能を利用することにより、複数台の KX III のローカル ポートを統合し、データ センタ内の 1 か所のコンソールから最大 1,024 台のサーバにローカル アクセスすることができます。</p>
<p>CC-SG は必要ですか。</p>	<p>集中管理システムを使用せずに Dominion KX III をスタンドアロンで使用したいお客様は、従来どおり、複数台の KX III を IP ネットワーク上で相互運用して規模を拡張することになります。複数台の Dominion KX III には、KX III の Web ベースのユーザ インタフェースからアクセスできます。</p>

質問	回答
<p>既存のアナログ KVM スイッチを Dominion KX III に接続できますか？</p>	<p>使用できます。アナログ KVM スイッチは、Dominion KX III のサーバ ポートのいずれかに接続できます。USB コンピュータ インタフェース モジュール (CIM) を使用して、既存のアナログ KVM スイッチのユーザ ポートにつながだけです。</p> <p>ローカル ポートでホットキーベースの切り替えをサポートしているアナログ KVM スイッチを Dominion KX III にカスケード接続すると、統合ポート リストを介してリモートおよびデータ センタを切り替えることができます。</p> <p>アナログ KVM スイッチの仕様はそれぞれ異なっているため、Raritan では、サードパーティ製の特定のアナログ KVM スイッチについての相互運用性は保証していません。詳細については、Raritan のテクニカル サポート部門にお問い合わせください。</p>

コンピュータ インタフェース モジュール (CIM)

質問	回答
<p>CIM でサポートされているビデオのタイプはどれですか。</p>	<p>弊社の CIM は、従来からアナログ VGA ビデオをサポートしています。3 つの新しい CIM では、DVI、HDMI、DisplayPort などのデジタルビデオ形式をサポートしています。この新しい CIM には、D2CIM-DVUSB DVI、D2CIM-DVUSB HDMI、および D2CIM-DVUSB DP があります。</p>

質問	回答
<p>Raritan のアナログ マトリックス KVM スイッチである Paragon のコンピュータ インタフェース モジュール (CIM) を Dominion KX III と共に使用できますか？</p>	<p>使用できます。特定の Paragon コンピュータ インタフェース モジュール (CIM) は、Dominion KX III と連動する可能性があります (認定済みの CIM の最新リストについては、Raritan の Web サイトで Dominion KX III リリース ノートを確認してください)。</p> <p>ただし、Paragon CIM は Dominion KX III CIM より高額のため (最大 304 m (1,000 フィート) のビデオ送信向けの技術が組み込まれているため)、通常は Dominion KX III 用に Paragon CIM を購入することをお勧めします。また、Paragon CIM を Dominion KX III に接続すると、ビデオ送信距離は Dominion KX III CIM と同じく最大で 46 m (150 フィート) となります。Paragon に接続した場合の 304 m (1,000 フィート) ではありません。</p>
<p>Dominion KX III において Paragon Dual CIM はサポートされていますか？</p>	<p>使用できます。Dominion KX III では、Paragon II Dual CIM (P2CIM-APS2DUAL および P2CIM-AUSBDUAL) がサポートされています。これらの CIM を使用すれば、データ センタ内のサーバを 2 台の異なる Dominion KX III に接続できます。</p> <p>一方の KX III が使用不能になった場合でも、もう一方の KX III からサーバにアクセスできます。つまり、冗長構成になり、リモート KVM アクセスを二重化できます。</p> <p>なお、これらは Paragon CIM なので、KX III の拡張機能 (仮想メディア、ずれないマウス、音声など) はサポートされません。</p>

セキュリティ

質問	回答
Dominion KX III は FIPS 140-2 に対応していますか？	Dominion KX III では、FIPS 140-2 実装ガイドンスに従って、Linux プラットフォームで実行されている FIPS 140-2 で検証された埋め込み暗号化モジュールが使用されます。ビデオ、キーボード、マウス、仮想メディア、およびスマートカードのデータで構成される KVM セッショントラフィックの暗号化には、この暗号化モジュールが使用されます。
Dominion KX III ではどのような種類の暗号化が使用されますか？	Dominion KX III の SSL 通信と自身のデータストリームでは、業界標準である極めて安全な 256 ビット AES、128 ビット AES、または 128 ビットの暗号化が使用されます。事実、暗号化によって完全に保護されていないリモートクライアントと Dominion KX III の間ではデータは転送されません。
Dominion KX III では、米国政府の NIST および FIPS 規格で推奨される AES 暗号化がサポートされていますか？	使用できます。Dominion KX III では、セキュリティを高めるために Advanced Encryption Standard (AES) が使用されます。256 ビットおよび 128 ビットの AES を利用できます。 AES は米国政府の承認した暗号アルゴリズムです。NIST (米国の国立標準技術研究所) の FIPS 規格 197 で推奨されています。
Dominion KX III では、ビデオデータの暗号化を行いますか？それとも、キーボードデータとマウスデータだけが暗号化されますか？	キーボードとマウスのデータのみを暗号化する競合他社のソリューションとは異なり、Dominion KX III ではセキュリティに関して妥協していません。Dominion KX III では、キーボード、マウス、ビデオ、および仮想メディアのデータの暗号化を行います。
Dominion KX III と、Active Directory、RADIUS、LDAP などの外部認証サーバは、どのように統合して機能しますか？	Dominion KX III には、非常に簡単な設定で、すべての認証要求を LDAP、Active Directory、RADIUS などの外部サーバに転送するよう指定できます。Dominion KX III は、認証されたユーザごとに認証サーバからユーザが属するユーザグループを受け取ります。次に Dominion KX III は、ユーザが属するユーザグループに基づいてそのユーザのアクセス許可を決定します。

質問	回答
ユーザ名とパスワードはどのように保存されますか。	Dominion KX III の内部認証機能が使用される場合、ユーザ名やパスワードなどの機密情報はすべて暗号化形式で保存されます。実際に、Raritan のテクニカル サポートやプロダクトエンジニアリング部門を含め、誰もこれらのユーザ名やパスワードを読み出せません。
Dominion KX III では強力なパスワードがサポートされていますか？	使用できます。Dominion KX III には管理者が設定できる強力なパスワード チェック機能があります。この機能によって、ユーザの作成したパスワードが企業または政府の標準を満たし、悪意のあるハッキング行為によって暴かれないようにします。
自社固有のデジタル証明書を Dominion KX III にアップロードできますか？	使用できます。お客様は、自己署名されたデジタル証明書または認証局発行のデジタル証明書を Dominion KX III にアップロードできます。これにより、認証機能を強化し、通信のセキュリティを高めることができます。
Does the KX III ではセキュリティバナーをカスタマイズできますか？	使用できます。政府機関や軍のようなセキュリティを重視するお客様では、ユーザがログインする前にセキュリティ メッセージを表示する必要があります。KX III では、カスタマイズ可能なバナー メッセージを表示できます。また、このメッセージへの同意を義務付けることもできます。
当社のセキュリティ ポリシーでは、標準の TCP ポート番号の使用を許可していません。TCP ポート番号を変更できますか。	使用できます。セキュリティを強化するために標準の TCP/IP ポート番号を使用したくないお客様の場合、Dominion KX III では管理者が代替ポート番号を設定できるようになっています。

スマート カード認証と CAC 認証

質問	回答
Dominion KX III では、スマート カード認証と CAC 認証はサポートされていますか？	使用できます。ターゲット サーバへのスマート カード認証と DoD Common Access Card (CAC) 認証がサポートされています。

質問	回答
CAC とは何ですか。	Homeland Security Presidential Directive 12 (HSPD-12) によって義務付けられている CAC は、米国政府が作成し、米軍および政府職員が使用するスマート カードの一種です。CAC カードは、多彩な技術に基づく多目的カードであり、識別カードを 1 つにまとめることを目標にしています。詳細については、FIPS 201 規格を参照してください。
スマート カードと CAC がサポートされている KX III のモデルはどれですか？	すべての Dominion KX III モデルでサポートされています。Dominion KX III-101 モデルでは、現在スマート カードと CAC はサポートされていません。
大企業や中小企業でもスマート カードは使用されていますか。	使用できます。なお、スマート カードを最も積極的に導入しているのは米国連邦政府です。
スマート カードと CAC がサポートされている CIM はどれですか。	D2CIM-DVUSB、D2CIM-DVUSB DVI、D2CIM-DVUSB HDMI、D2CIM-DVUSB DP の各 CIM が必要です。
サポートされているスマート カードリーダーはどれですか。	必要なリーダー標準は、USB CCID と PC/SC です。認定済みのリーダーの一覧および詳細については、ユーザ マニュアルを参照してください。
スマート カードと CAC の認証は、ローカル ポートおよび CommandCenter で利用できますか。	使用できます。スマート カードと CAC の認証は、ローカル ポートおよび CommandCenter で機能します。ローカル ポートを使用する場合は、互換性のあるスマート カードリーダーを Dominion KX III の USB ポートに接続します。

管理機能

質問	回答
<p>Dominion KX III は Web ブラウザを介してリモートで管理および設定できますか？</p>	<p>使用できます。Dominion KX III は、Web ブラウザを介して完全にリモートで設定できます。ただし、リモート クライアントに適切なバージョンの Java Runtime Environment (JRE) がインストールされている必要があります。</p> <p>Dominion KX III の IP アドレスの初期設定のほか、ソリューションの関連事項をすべてネットワーク上で設定できます(実際に、Ethernet クロス ケーブルと Dominion KX III のデフォルト IP アドレスを使用すると、Web ブラウザを介して初期設定も変更できます)。</p>
<p>Dominion KX III の設定のバックアップや復元は可能ですか？</p>	<p>使用できます。非常事態が発生した際に復旧を行うため、Dominion KX III のデバイス設定とユーザ設定は完全にバックアップされます。</p> <p>Dominion KX III のバックアップ機能と復元機能は、ネットワークや Web ブラウザを介してリモートで使用できます。</p>
<p>Dominion KX III では、どのような監視機能またはログ機能が提供されますか？</p>	<p>ユーザのアカウントビリティをサポートするため、Dominion KX III では主要なユーザ イベントが日付やタイム スタンプと共に記録されます。記録されるイベントの例としては、ユーザ ログイン、ユーザ ログアウト、特定のサーバへのユーザ アクセス、ログインの失敗、設定の変更など。</p>
<p>Dominion KX III と syslog は一元化できますか？</p>	<p>使用できます。Dominion KX III の独自の内部ログ機能に加え、Dominion KX III ではログ記録されたすべてのイベントを集中 syslog サーバに送信できます。</p>
<p>Dominion KX III と SNMP は一元化できますか？</p>	<p>使用できます。Dominion KX III の独自の内部ログ機能に加え、Dominion KX III では SNMP トラップを SNMP 管理システムに送信できます。SNMP v2 および v3 がサポートされています。</p>
<p>管理者はユーザをログオフすることができますか？</p>	<p>はい。管理者は、どのユーザがどのポートにログインしているかを調べ、必要に応じて特定のポートから、またはデバイスからユーザをログオフすることができます。</p>

質問	回答
Dominion KX III の内部クロックは時刻サーバと同期できますか？	使用できます。Dominion KX III では、企業の時刻サーバとパブリック時刻サーバのいずれかに同期するための業界標準の NTP プロトコルがサポートされています（企業ファイアウォール経由のアウトバウンド NTP リクエストが許可されている場合）。

ドキュメントおよびサポート

質問	回答
オンライン ヘルプは利用できますか。	使用できます。オンライン ヘルプは、ドキュメントと共に raritan.com にあり、KX III ユーザ インタフェースから利用できます。 オンライン ヘルプには、リモート コンソール、Virtual KVM Client (VKC)、Active KVM Client (AKC)、およびローカル コンソールの使用方法に関する KX III 管理情報やエンド ユーザ情報、および KX III の仕様、留意事項、KX III と Paragon II の使用方法、Cat5 Reach DVI への KX III の接続方法、T1700-LED への KX III の接続方法などが用意されています。
Dominion KX III のドキュメントはどこにありますか？	ドキュメントは、raritan.com にあり、ファームウェア リリース別に一覧表示されています。
どのようなドキュメントを入手できますか。	クイック セットアップ ガイド、オンライン ヘルプ、管理者ガイドやユーザ ガイドの形式でのヘルプの PDF バージョン、リリース ノートなどが用意されています。
特定のサーバにどのような CIM を使用する必要がありますか。	KX III ドキュメントとして用意されている CIM ガイドを調べてください。DVI、HDMI、DisplayPort の各ビデオ規格は、デジタル ビデオ CIM でサポートされています。
KX III のハードウェア保証期間はどのくらいですか？	Dominion KX III の保証期間は標準で 2 年ですが、保証期間を 5 年に延長することもできます。

その他

質問	回答
Dominion KX III のデフォルト IP アドレスは？	192.168.0.192
Dominion KX III のデフォルト ユーザ名とパスワードは？	Dominion KX III のデフォルトのユーザ名とパスワードは「admin/raritan」です (すべて小文字)。ただし、最高レベルのセキュリティを確保するため、Dominion KX III ではユニットが最初に起動した際に、管理者が Dominion KX III のデフォルト管理者ユーザ名とパスワードを変更するよう要求されます。
Dominion KX III の管理者パスワードを変更したところ、新しいパスワードを忘れてしまいました。パスワードを取得してもらえますか？	Dominion KX III では、ハードウェア リセットボタンを使用してデバイスを工場出荷時の設定に戻すことができます。このとき、デバイスの管理者パスワードもデフォルトのパスワードにリセットされます。
Dominion KX II から Dominion KX III にはどのような方法で移行すればよいですか？	一般に、KX II のお客様には既存のスイッチを長期間お使いいただけます。データ センタを拡張する場合、お客様は新しい KX III モデルを購入して使用することが考えられます。Raritan の集中管理アプライアンスである CommandCenter Secure Gateway (CC-SG) リリース 6.0 は、KX II および KX III をシームレスにサポートします。
現在使用している KX II CIM は、Dominion KX III でも動作しますか？	使用できます。既存の KX II CIM は、Dominion KX III でも動作します。また、KX III で動作する Paragon CIM をお選びください。これにより、KVM over IP への切り替えを検討している Paragon II のお客様は、KX III に簡単に移行できます。ただし、仮想メディア、ずれないマウス機能、および音声をサポートする D2CIM-VUSB CIM および D2CIM-DVUSB CIM を検討することをお勧めします。さらに、DVI、HDMI、および DisplayPort をサポートするデジタル ビデオ CIM も利用できます。

索引

[

- [Auto-sense Video Settings] (ビデオ設定の自動検出) - 40
- [Color Accuracy] (色精度) - 30
- [Connect] (接続) - 20
- [Disconnect] (切断) - 21
- [Full Screen Mode] (全画面モード) - 55
- [General Settings] (全般) - 47
- [Noise Filter] (ノイズ フィルタ) - 31
- [Optimize for] (最適化) 選択 - 30
- [Port Access] (ポート アクセス) ページ (リモート コンソール ディスプレイ) - 17, 81
- [Port Action] (ポート アクション) メニュー - 17, 20, 27, 79
- [Power Cycle] (電源の再投入) - 22
- [Power Off] (電源オフ) - 22
- [Power On] (電源オン) - 22
- [Scaling] (拡大、縮小) - 54
- [Send Ctrl+Alt+Del] (Ctrl+Alt+Del の送信) マクロ - 34
- [Send LeftAlt+Tab] (Send LeftAlt+Tab の送信) - 34
- [Send Text to Target] (テキストをターゲットに送信) - 35
- [Set Scan] (スキャン設定) タブ - 19
- [Switch From] (切り替え) - 21
- [Text Readability] (テキストの読みやすさ) - 30
- [Video Mode] (ビデオ モード) - 30
- [View by Group] (グループ別表示) タブ - 19
- [View by Search] (検索して表示) タブ - 19
- [View Status Bar] (ステータス バーの表示) - 54
- [View Toolbar] (ツール バーの表示) - 54

A

- Active KVM Client (AKC) ヘルプ - 8, 78, 166
- AKC ダウンロード サーバ証明書の検証を有効にする - 80
- AKC でサポートされている Microsoft .Net Framework - 79

AKC でサポートされているオペレーティングシステム - 79

AKC でサポートされているブラウザ - 80

AKC を使用するため前提条件 - 27, 78, 80

C

- Cat5 Reach DVI の概要 - 107
- CD-ROM/DVD-ROM/ISO イメージのマウント - 61, 64
- CIM キーボード/マウス オプションの設定 - 34
- CIM に関する留意事項 - 147
- Cookie を許可 - 80

D

- Dell 筐体を接続する場合のケーブル長と画面解像度 - 131
- Dominion KX3-832 - 4
- Dominion KX3-864 - 6
- DVI 互換モード - 129

E

- Ethernet と IP ネットワーキング - 184

F

- FAQ - 160
- Fedora サーバへの Virtual KVM Client (VKC) スマート カードの接続 - 159
- Fedora 使用時の Firefox のフリーズに関する問題の解決 - 159

H

- HTTP ポートおよび HTTPS ポートの設定 - 140, 142

I

- IPv6 ネットワーキング - 173

J

- Java Runtime Environment (JRE) に関する留意事項 - 144, 146
- Java および Microsoft .NET の要件 - 144

Java が Mac に正しくロードされていない場合 - 147

Java のキャッシュ機能の無効化および Java キャッシュのクリア - 146

Java 検証およびアクセス警告 - 9

K

KX III - KX III 構成の Paragon CIM に関するガイドライン - 114

KX III - Paragon II 構成に関するガイドライン - 115

KX III KVM Client アプリケーション - 8

KX III インタフェースおよびナビゲーション - 16

KX III オンライン ヘルプ - 8

KX III から Paragon II へのアクセス - 111

KX III でサポートされているターゲット サーバ画面解像度 - 123, 124

KX III と Cat5 Reach DVI の接続 - 108

KX III と Cat5 Reach DVI の接続 - 拡張ローカルポート機能の提供 - 1, 107, 182

KX III の写真および機能 - 2

KX III の寸法および物理的仕様 - 119

KX III の設置および設定 - 9

KX III の前提条件 - 56

KX III への Paragon II の接続 - 117

KX III へのログイン - 14, 81, 82

KX III リモート コンソール - KX III エンドユーザ ヘルプ - 81

KX III リモート コンソール インタフェース - 7, 16, 82

KX III リモート/ローカル コンソール インタフェース - 7

KX III ローカル コンソール - KX III エンドユーザ ヘルプ - 25, 92

KX III ローカル コンソール インタフェース - 7, 25

KX III ローカル コンソール インタフェースへの切り替え - デフォルトのホット キー - 94

KX III ローカル コンソール ファクトリ リセット - 104

KX III ローカル ポートのサポートされている DVI 解像度 - 93, 125

KX3-832 の写真 - 4

KX3-832 の特長 - 4

KX3-864 の写真 - 6

KX3-864 の特長 - 6

L

Linux クライアントからドライブに接続できない場合 - 149

Linux ターゲット サーバでマクロが保存されない場合 - 156

Linux ターゲット サーバに対して Windows の 3 ボタン マウスを使用する場合 - 147

Linux リモート クライアントの要件 - 133

Linux 環境での音声 - 158

Linux 環境での仮想メディア - 63

M

Mac Mini BIOS のキー入力コマンド - 138

Mac および Linux の仮想メディア USB ドライブの切断 - 151

Mac クライアントからファイルの読み書きができない場合 - 149

Mac でのビデオ画像の表示が暗い場合 - 152

Mac の JRE の要件およびブラウザに関する注意事項 - 143

Mac 環境での音声 - 136

Mac 環境での仮想メディア - 63

P

Paragon II と KX III の間でサポートされている接続距離 - 117

PC 共有モードが有効になっている場合の音声接続に関する推奨事項 - 69, 135

R

root ユーザ権限の要件 - 63

S

Sun Composite Sync ビデオ - 152

Sun サーバへのアクセス時に使用できる特別なキー組み合わせ - 96

SUSE と VESA のビデオ モード - 153

U

USB プロファイル - 33

V

- Virtual KVM Client (VKC) ヘルプ - 8, 26, 78, 166
- VKC および AKC でのポート スキャンの設定 - 52, 85, 86, 98, 101

W

- Windows 2000 での複合 USB デバイスの動作 - 148
- Windows 2000 の仮想メディアへのアクセス - 151
- Windows XP 環境での仮想メディア - 62
- Windows キーボードによる Mac ターゲットへのアクセス - 140
- Windows 環境での VKC および AKC を介した仮想メディア - 150
- Windows 環境での音声 - 159

あ

- アクセント記号 (Windows XP クライアントのみ) - 154
- アクティブ システム パーティション - 63
- インストール - 178
- インテリジェント マウス モード - 44
- インテリジェント マウス モードへの切り替え - 44
- インテリジェント マウス同期の条件 - 45
- インテリジェント電源タップ (PDU) の管理 - 183
- オペレーティング システムの音声再生サポート - 73
- お気に入りのアクセスおよび表示 - 91
- お気に入りの管理 - 1, 24, 78, 89
- お気に入りの有効化 - 90

か

- カスケード接続デバイス - [Port Access] (ポート アクセス) ページ - 18
- キーボード - 34
- キーボード マクロ - 35
- キーボードに関する留意事項 - 153
- キーボードの制限 - 49
- キーボード言語の設定 (Fedora クライアント) - 155

- キャプチャ/再生バッファ サイズの調整 (音声設定) - 76
- キャレット記号 (Linux クライアントのみ) - 153
- クライアント コンピュータの仮想メディアドライブへのアクセス - 60
- クライアント起動設定 - 50
- コンピュータ インタフェース モジュール (CIM) - 189

さ

- サーバ - 175
- サポートされていないスマート カード リーダー - 134
- サポートされている Paragon II CIMS および設定 - 112
- サポートされているオペレーティング システムとブラウザ - 142
- サポートされているコンピュータ インタフェース モジュール (CIM) の仕様 - 65, 125
- サポートされているスマート カード リーダー - 133
- サポートされているデジタル ビデオ CIM (Mac 用) - 127
- サポートされているリモート接続 - 129
- サポートされている音声/仮想メディアおよびスマート カード接続の数 - 137
- サポートされている音声デバイス形式 - 68, 69
- サポートされている仮想メディア オペレーティング システム - 59
- サポートされている仮想メディア タイプ - 58
- サポートされている仮想メディア ドライブ数 - 59
- シングル マウス モード - 47
- CC-SG の管理下にあるターゲットに接続する場合 - 157
- スマート カード - 65
- スマート カード リーダーのアンマウント (取り外し) - 68
- スマート カード リーダーのマウント - 67
- スマート カード リーダーの検出 - 66
- スマート カード リーダーの更新 - 67
- スマート カード リーダーへのアクセス時の認証 - 66

索引

スマート カードに関する留意事項 - 159
スマート カードの最小システム要件 - 65, 102, 131
スマート カードの最小システム要件、CIM、およびサポートされているスマート カードリーダーとサポートされていないスマート カードリーダー - 65
スマート カードの取り外しおよび再挿入の通知の送信 - 68
スマート カード使用時の PC 共有モードおよびプライバシー設定 - 66
スマート カード認証と CAC 認証 - 192
ずれないマウス モード - 44
セキュリティ - 190
セキュリティ警告および検証メッセージ - 9, 10, 14, 82
その他 - 196
その他のセキュリティ警告 - 9, 10
ソフトウェア - 3, 142

た

ターゲット コマンドによるスクリーンショット (ターゲット スクリーンショット) - 42
ターゲット サーバ - 57
ターゲット サーバにアクセスする - 92
ターゲット サーバのサポートされている画面解像度、接続距離、およびリフレッシュ レート - 124, 179
ターゲット サーバの要件 - 131
ターゲット サーバへの接続 - 27, 78
ターゲットのスキャン - 87
ターゲットのスキャン - ローカル コンソール - 101
ツール オプション - 47, 55
ティルデ記号 - 154
デジタル CIM タイミング モード - 128
デジタル CIM の既定モードおよび標準モード - 127, 128
デジタル CIM 既定モード - 128
デジタル CIM 標準モード - 129
デジタル音声 - 68
デジタル音声デバイスの接続 - 73
デジタル音声デバイスの接続および切断 - 72, 73

デバイスのリセット ボタンによる KX III のリセット - 105
デフォルトの接続プロパティ設定 - 最適化による最高のパフォーマンスの実現 - 29
デュアル ビデオ ポート グループ - [Port Access] (ポート アクセス) ページ - 18
デュアル マウス モード - 44
ドキュメントおよびサポート - 195
ドライブ パーティション - 63

な

ネットワーク速度の設定 - 129

は

バージョン情報 - Virtual KVM Client - 76
ハードウェア - 2, 119
はじめに - 1
パスワードの変更 - 88
パッケージの内容 - 2
ビデオ モードと解像度に関する留意事項 - 93, 152
ビデオのプロパティ - 39
ビデオ設定の調整 - 40
ファイル追加後に仮想メディアが最新の情報に更新されない - 151
ブラウザに関する留意事項 - 159
フランス語キーボード - 153
ブレード サーバ - 176
ブレード シャーシ - [Port Access] (ポート アクセス) ページ - 18
ヘルプでの最新情報 - 1
ポート スキャン オプションの使用 - 86
ポート スキャンの設定 - 53
ポート スキャン中のターゲット ステータスインジケータ - リモート コンソール - 85
ポート スキャン中のターゲット ステータスインジケータ - ローカル コンソール - 100
ポートのスキャン - リモート コンソール - 17, 19, 52, 83, 97
ポートのスキャン - ローカル コンソール - 85, 97
ポートのスキャンのスライド ショー - リモート コンソール - 84
ポートのスキャンのスライド ショー - ローカル コンソール - 98

ホット キーと接続キー - 94
ポップアップの許可 - 9

ま

マウス オプション - 43
マウス ポインタの同期 (Fedora) - 157
マウスに関する留意事項 - 157
マウスの同期 - 46
マウス同期のヒント - 46
マクロのインポート - 37
マクロのエクスポート - 38
マクロの新規作成 - 35
モデルごとにサポートされているユーザ数とポート数 - 7

や

ユーザが同時接続可能 - 93
ユニバーサル仮想メディア - 167

ら

リモート PC - 56
リモート アクセス - 163
リモート アクセスに対応していない Mac キーボードのキー - 157
リモート クライアントの要件 - 132
ローカル コンソール スキャンの設定 - 52, 98, 101
ローカル コンソールの USB プロファイル オプション - 103
ローカル コンソールのスマート カード アクセス - 65, 102
ローカル コンソールの画面解像度 - 93
ローカル ドライブのマウント - 57
ローカル ドライブのマウントに関する留意事項 - 57
ローカル ポート - KX III - 180
ローカル ポートで黒色の縞が表示される場合 - 152
ローカル ポートの統合およびカスケード接続 - 186
ローカル ポートの要件 - 131

漢字

一般的な FAQ - 160
音声 - 68, 158

音声デバイスの切断 - 75
音声の再生とキャプチャに関する推奨事項と要件 - 69, 73, 135
音声の再生とキャプチャに関する問題 - 158
音声レベル - 69, 135
音声設定の調整 - 76
音声設定の保存 - 72, 73
仮想メディア - 56
仮想メディア ドライブの切断 - 62
仮想メディア ファイル サーバのセットアップ (ファイル サーバ ISO イメージの場合のみ) - 64
仮想メディアによりサポートされているタスク - 58
仮想メディアに関する留意事項 - 149
仮想メディアに必要な CIM - 57
仮想メディアの Linux ドライブが 2 回リストされる - 151
仮想メディアの接続および切断 - 60
仮想メディアを使用するための条件 - 56
仮想メディア機能利用時におけるターゲットサーバの BIOS の起動時間 - 151
画面を更新する - 39
概要 - 1, 16, 26, 78, 81, 92, 107, 111, 146
各言語に対して KX III でサポートされているキーボード - 137
拡張ローカル ポート - 182
監査ログおよび Syslog でキャプチャされるイベント - 145
管理機能 - 193
高速の仮想メディア接続を使用した場合の仮想メディアの接続エラー - 152
左パネル - 23
仕様 - 119
使用される TCP ポートおよび UDP ポート - 140
証明書のインストール - 9, 10
色の調整 - 40
数字キーパッド - 154
接続キーの例 - 94
接続プロパティの概要 - 28
接続プロパティの設定 - 1, 28, 32
接続プロパティへのアクセス - 28
接続情報 - 32
接続情報のアクセスおよびコピー - 29, 33
多言語対応キーボードの JRE の要件 - 144

索引

- 帯域幅と KVM-over-IP のパフォーマンス - 169
- 帯域幅要件 - 70, 135
- 単一のリモート クライアントから複数のターゲットへの接続 - 72, 73
- 読み取り/書き込み可能に設定できない状況 - 58, 60
- 二重化電源 - 182
- 入門 - 9
- 標準マウス モード - 46
- 表示オプション - 54
- 留意事項 - 137, 146
- 例 1
 - ブラウザへの証明書のインポート - 11, 14
- 例 2
 - [信頼済みサイト] への KX III の追加と証明書のインポート - 13

▶ 米国/カナダ/ラテン アメリカ

月曜日～金曜日
午前 8 時～午後 8 時 (米国東海岸時間)
電話 :800-724-8090 または 732-764-8886
CommandCenter NOC に関するお問い合わせ :6 を押してから 1 を押してください。
CommandCenter Secure Gateway に関するお問い合わせ :6 を押してから 2 を押してください。
Fax :732-764-8887
CommandCenter NOC に関する電子メール :tech-ccnoc@raritan.com
その他のすべての製品に関する電子メール :tech@raritan.com

▶ 中国

北京

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (現地時間)
電話 :+86-10-88091890

上海

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (現地時間)
電話 :+86-21-5425-2499

広州

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (現地時間)
電話 :+86-20-8755-5561

▶ インド

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (現地時間)
電話 :+91-124-410-7881

▶ 日本

月曜日～金曜日
午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分
電話 : 03-5795-3170
電子メール :support.japan@raritan.com

▶ ヨーロッパ

ヨーロッパ

月曜日～金曜日
午前 8 時 30 分～午後 5 時 (GMT+1 CET)
電話 :+31-10-2844040
電子メール :tech.europe@raritan.com

英国

月曜日～金曜日
午前 8 時 30 分～午後 5 時 (GMT)
電話 :+44(0)20-7090-1390

フランス

月曜日～金曜日
午前 8 時 30 分～午後 5 時 (GMT+1 CET)
電話 :+33-1-47-56-20-39

ドイツ

月曜日～金曜日
午前 8 時 30 分～午後 5 時 30 分 (GMT+1 CET)
電話 :+49-20-17-47-98-0
電子メール :rg-support@raritan.com

▶ メルボルン (オーストラリア)

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (現地時間)
電話 :+61-3-9866-6887

▶ 台湾

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (標準時 : GMT -5、夏時間 : GMT -4)
電話 :+886-2-8919-1333
電子メール :support.apac@raritan.com